

uCosminexus Service Coordinator Interactive  
Workflow ビジネスプロセス開発ガイド

3020-3-M85-60

## 前書き

### ■ 対象製品

P-2955-CJ34 uCosminexus Business Process Developer 03-10 (適用 OS : Windows Server 2016, Windows Server 2019, Windows 10 x64)

### ■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

### ■ 商標類

HITACHI, Cosminexus, HiRDB, uCosminexus および WorkCoordinator は、株式会社日立製作所の商標または登録商標です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Oracle および Java は、オラクルおよびその関連会社の登録商標です。

UNIX は、The Open Group の商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他記載の会社名、製品名などは、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

### ■ 発行

2021年8月 3020-3-M85-60

### ■ 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2008, 2021, Hitachi, Ltd.

## 変更内容

### 変更内容(3020-3-M85-60) uCosminexus Business Process Developer 03-10

追加・変更内容	変更箇所
CSCIWManagementServer との通信でプロキシを使用できるようにした。	2.3.4
HTTPS 通信に対応したことに伴い、説明を変更した。また、[接続先] ページ、および [接続先設定] ダイアログに「プロトコル」を追加した。	4.3.2(4), 6.2.4(1)(b)
画面図を変更した。それに伴い、「OK」ボタンを「適用して閉じる」ボタンに修正した。	6.2.4(1)(a), 6.2.4(1)(b), 6.2.4(1)(c)
CSCIW-Definer のバージョンアップの記載を見直した。	付録 D

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

OS, ブラウザ, およびデータベースに関して, 新しいバージョンの追加, および古いバージョンの削除については記載していません。サポートしているバージョンの詳細については「リリースノート」でご確認ください。

## はじめに

このマニュアルは、ビジネスプロセス管理ツール（CSCIW-Definer）を使用し、ワーク管理システム（CSCIW）で運用するビジネスプロセスの定義、運用方法および CSCIW-Definer の画面の詳細について説明したものです。

なお、BPMN 連携機能を使用する場合は、CSCIW-Definer ではなくほかのビジネスプロセス管理ツールを使用します。BPMN 連携機能を使用する場合のビジネスプロセス開発の詳細については、マニュアル「uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow BPMN 連携機能 使用の手引」を参照してください。

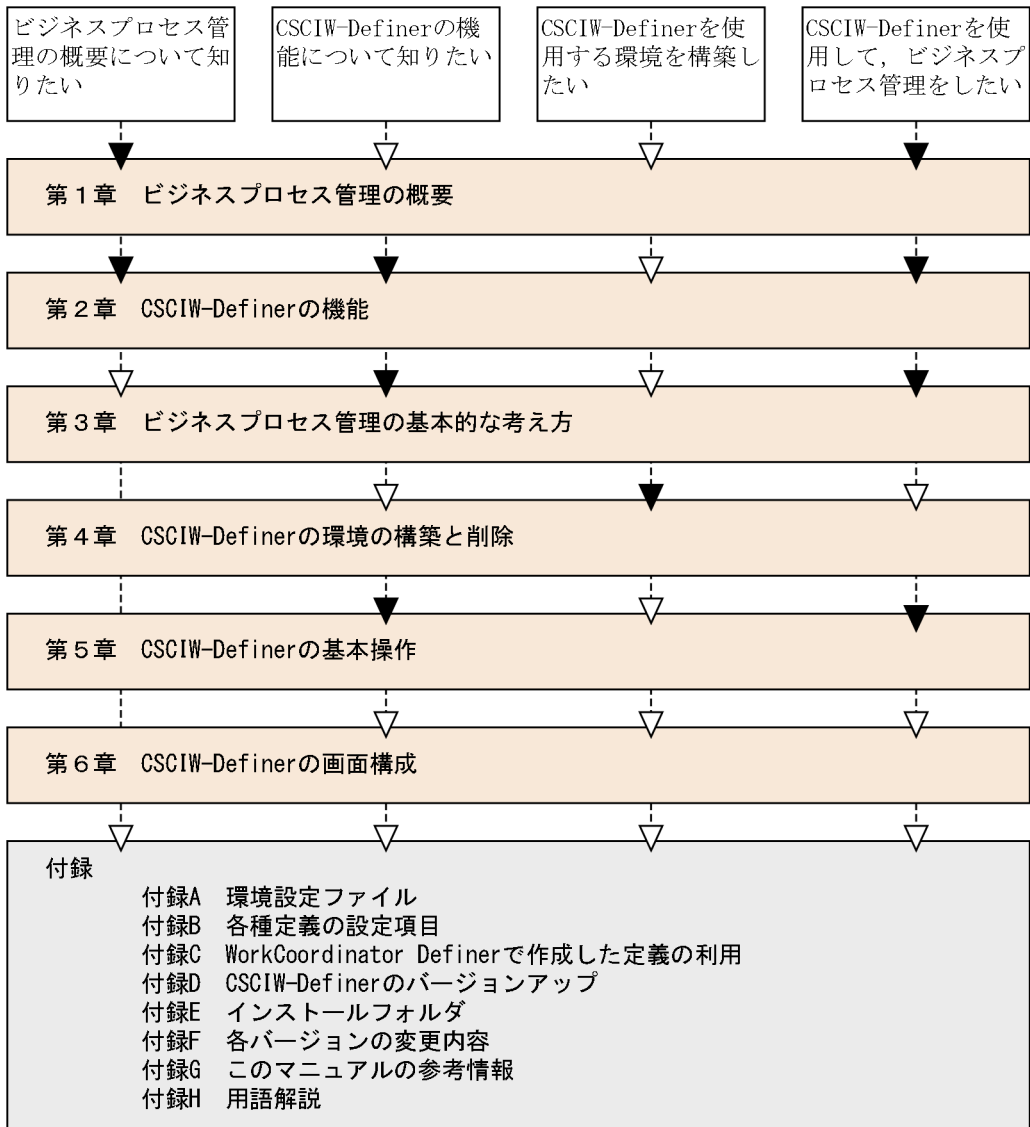
### ■ 対象読者

このマニュアルは、CSCIW-Definer を使用してビジネスプロセス（ビジネスプロセス定義および振り分けルール定義）を開発される方を対象としています。また、次の知識をお持ちであることを前提にしています。

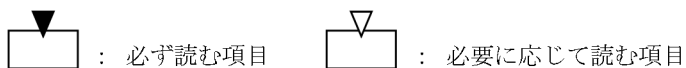
- CSCIW に関する知識
- 使用している OS に関する知識や基本操作
- Eclipse に関する知識や基本操作
- リレーショナルデータベースの操作（SQL 文など）に関する知識

### ■ 読書手順

このマニュアルは、利用目的に合わせて章を選択して読むことができます。利用目的別に次の流れに従ってお読みいただくことをお勧めします。



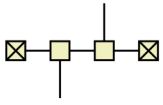
(凡例)



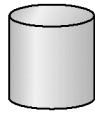
## ■ 図中で使用する記号

このマニュアルの図中で使用する記号を次のように定義します。

●バス型のLAN



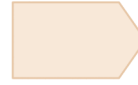
●ファイルまたはデータベース



●定義ファイル



●工程、作業項目の流れ



●ソースノード



●シンクノード



●業務ステップ



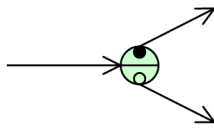
●作業



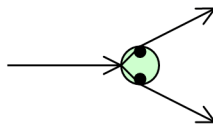
●アロー



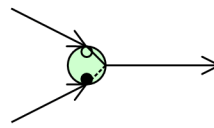
●制御ノード（分岐）



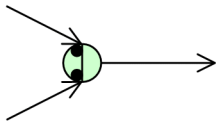
●制御ノード（分業）



●制御ノード（先着）



●制御ノード（待合）



## ■ このマニュアルで使用する記号

このマニュアルで使用する記号を次のように定義します。

記号	意味
< >	可変値を意味します。

## ■ コマンドの説明で使用する記号

コマンドの説明で使用する記号を次のように定義します。

記号	意味
< >	可変値を意味します。
(ストローク)	横に並べられた複数の項目に対し、項目間の区切りを示します。
{ }	この記号で囲まれている複数の項目のうちから1つを選択することを意味します。項目が横に並べられ、記号 で区切られている場合は、そのうちの1つを選択します。 例 {A   B}は、「Aと指定する」または「Bと指定する」ことを示します。

記号	意味
( )	この記号で囲まれている複数の項目のうちから1つ以上を選択することを意味します。項目が横に並べられ、記号   で区切られている場合は、そのうちの1つ以上を選択します。  例 (A   B)は、「A と指定する」、「B と指定する」または「A および B と指定する」ことを示します。
[ ]	この記号で囲まれている項目は省略してよいことを意味します。  例 [A]は「何も指定しない」か「A を指定する」ことを示します。

## ■ 操作の説明で使用する記号

操作の説明で使用する記号を次のように定義します。

記号	意味
[ ]	次のどれかを示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ボタン</li> <li>キーボードのキー</li> <li>画面またはダイアログの名称</li> <li>画面またはダイアログに表示される項目</li> </ul>
[A] + [B]	+の前のキーを押したまま、後ろのキーを押すことを示します。
[AAA] - [BBB]	-の前に示したメニューから、-の後ろのメニューを選択することを示します。

## ■ このマニュアルで使用する注記

このマニュアルで使用する注記を次に示します。

### 重要

操作を完了させるための重要な情報を示します。

### メモ

本文に対して強調したい内容または補足事項を示します。

### ヒント

操作する上で効果的な情報、指針、提案を示します。

# 目次

前書き	2
変更内容	3
はじめに	4

<b>1</b>	<b>ビジネスプロセス管理の概要</b>	<b>13</b>
1.1	ビジネスプロセス管理とは	14
1.2	ビジネスプロセス管理で使用するツール (CSCIW-Definer)	15
1.2.1	ワーク管理システムの中での CSCIW-Definer の位置づけ	15
1.2.2	業務システムの開発の中で CSCIW-Definer を使用する作業	16
<b>2</b>	<b>CSCIW-Definer の機能</b>	<b>19</b>
2.1	機能の概要	20
2.2	開発機能	22
2.2.1	定義の作成および編集	22
2.2.2	定義のチェック	25
2.2.3	定義の保存および読み込み	27
2.2.4	定義の印刷	27
2.3	運用機能	28
2.3.1	運用機能を使用するための準備	28
2.3.2	定義の登録, 取得, 属性変更および削除	28
2.3.3	監査ログの出力	30
2.3.4	CSCIWManagementServer との通信でのプロキシの使用	31
<b>3</b>	<b>ビジネスプロセス管理の基本的な考え方</b>	<b>32</b>
3.1	例題の説明	33
3.1.1	例題の概要	33
3.2	例題の定義手順	43
3.3	振り分けルール定義の定義	45
3.3.1	振り分けルール定義を定義するときの注意事項	45
3.3.2	振り分けルール定義を定義する	46
3.3.3	振り分けルール定義をチェックする	48
3.3.4	振り分けルール定義を登録する	49
3.4	ビジネスプロセス定義の定義	50
3.4.1	遷移図を描画する	51
3.4.2	条件および生成ルールを定義する	53



- 3.4.3 業務ステップおよび作業を定義する 58
- 3.4.4 制御ノードを定義する 67
- 3.4.5 分岐ノードの分岐条件を定義する 68
- 3.4.6 ビジネスプロセス定義をチェックする 71
- 3.4.7 ビジネスプロセス定義を登録する 72
- 3.5 運用状態の確認および操作 73
- 3.5.1 振り分けルール定義の運用状態を確認する 73
- 3.5.2 ビジネスプロセス定義の運用状態を確認する 74

## 4 CSCIW-Definer の環境の構築と削除 76

- 4.1 環境の構築の流れ 77
- 4.2 プログラムのインストール 78
- 4.2.1 前提プログラムのインストール 78
- 4.2.2 uCosminexus Business Process Developer のインストール 78
- 4.3 CSCIW-Definer の環境設定 80
- 4.3.1 事前準備 80
- 4.3.2 CSCIW-Definer として使用するための設定 80
- 4.4 環境の削除の流れ 84
- 4.5 プログラムのアンインストール 85
- 4.5.1 事前準備 85
- 4.5.2 uCosminexus Business Process Developer のアンインストール 86

## 5 CSCIW-Definer の基本操作 87

- 5.1 事前準備 88
- 5.1.1 プロジェクトの作成 88
- 5.1.2 CSCIW-Definer のパースペクティブを開く 88
- 5.2 ビジネスプロセスに関する操作 89
- 5.2.1 定義を新規に作成する 89
- 5.2.2 定義を保存する 90
- 5.2.3 定義を開く 91
- 5.2.4 遷移図を印刷する 92
- 5.2.5 定義をチェックする 92
- 5.2.6 CSCIWManagementServer へログインまたはログアウトする 93
- 5.2.7 定義を登録する 93
- 5.2.8 定義の属性を変更する 94
- 5.2.9 定義を削除する 94
- 5.3 定義を作成するときの注意事項 95
- 5.3.1 設定項目で入力できる文字 95
- 5.3.2 改行文字および XML 文書 (CDATA 節の終端文字列) の扱い 95

5.3.3 名称の一意性 96

## 6 CSCIW-Definer の画面構成 97

- 6.1 CSCIW-Definer のデフォルト画面 98
- 6.2 CSCIW-Definer のメニュー 99
  - 6.2.1 [ファイル] メニュー 99
  - 6.2.2 [編集] メニュー 102
  - 6.2.3 [CSCIW-Definer] メニュー 103
  - 6.2.4 [ウィンドウ] メニュー 104
- 6.3 ツールバー 111
  - 6.3.1 CSCIW-Definer 固有のアイコン 111
- 6.4 CSCIW-Definer のビュー 115
  - 6.4.1 [登録定義一覧] ビュー 115
  - 6.4.2 [ナビゲーター] ビュー 117
  - 6.4.3 [アウトライン] ビュー 118
  - 6.4.4 [プロパティ] ビュー 124
  - 6.4.5 [コンソール] ビュー 132
- 6.5 CSCIW-Definer のエディタ 133
  - 6.5.1 ビジネスプロセス遷移エディタ 133
  - 6.5.2 振り分けルール定義エディタ 137
- 6.6 CSCIW-Definer のウィザード 142
  - 6.6.1 [新規ビジネスプロセス定義] ウィザード 142
  - 6.6.2 [新規振り分けルール定義] ウィザード 143
- 6.7 CSCIW-Definer のダイアログ 145
  - 6.7.1 [ログイン] ダイアログ 145
  - 6.7.2 [ビジネスプロセス定義プロパティ] ダイアログ (定義用) 146
  - 6.7.3 [ビジネスプロセス定義プロパティ] ダイアログ (変更用) 148
  - 6.7.4 [業務ステッププロパティ] ダイアログ 149
  - 6.7.5 [一般作業プロパティ] ダイアログ 151
  - 6.7.6 [並列作業プロパティ] ダイアログ 152
  - 6.7.7 [制御ノードプロパティ] ダイアログ 154
  - 6.7.8 [分岐条件の設定] ダイアログ 157
  - 6.7.9 [条件プロパティ] ダイアログ 159
  - 6.7.10 [生成ルールプロパティ] ダイアログ 161
  - 6.7.11 [時間取得ルールプロパティ] ダイアログ 164
  - 6.7.12 [作業アプリケーション定義プロパティ] ダイアログ 165
  - 6.7.13 [階層定義プロパティ] ダイアログ 167
  - 6.7.14 [振り分けルール定義プロパティ] ダイアログ (変更用) 168
  - 6.7.15 [振り分けルール名選択] ダイアログ 169

- 6.7.16 [業務ステップアイコンの変更] ダイアログ 170
- 6.7.17 [階層定義アイコンの変更] ダイアログ 170
- 6.7.18 [カレンダー] ダイアログ 171

## 付録 173

- 付録 A 環境設定ファイル 174
- 付録 A.1 ビジネスプロセス管理プロパティファイル 174
- 付録 A.2 クラス名設定プロパティファイル 176
- 付録 B 各種定義の設定項目 177
- 付録 B.1 ビジネスプロセス定義の設定項目 177
- 付録 B.2 業務ステップ定義の設定項目 178
- 付録 B.3 一般作業定義の設定項目 179
- 付録 B.4 並列作業定義の設定項目 179
- 付録 B.5 制御ノード定義の設定項目 180
- 付録 B.6 遷移定義の設定項目 182
- 付録 B.7 条件定義の設定項目 183
- 付録 B.8 生成ルール定義の設定項目 185
- 付録 B.9 時間取得ルール定義（相対時間）の設定項目 186
- 付録 B.10 作業アプリケーション定義の設定項目 187
- 付録 B.11 階層定義の設定項目 188
- 付録 B.12 振り分けルール定義の設定項目 188
- 付録 C WorkCoordinator Definer で作成した定義の利用 191
- 付録 C.1 利用できる WorkCoordinator Definer の機能 191
- 付録 C.2 WorkCoordinator Definer で作成した定義の利用方法 193
- 付録 D CSCIW-Definer のバージョンアップ 195
- 付録 D.1 CSCIW-Definer をバージョンアップする 195
- 付録 D.2 バージョンアップ時の注意事項 195
- 付録 E インストールフォルダ 197
- 付録 F 各バージョンの変更内容 198
- 付録 F.1 03-00 での変更内容 198
- 付録 F.2 02-30 での変更内容 198
- 付録 F.3 02-00 での変更内容 198
- 付録 F.4 01-95 での変更内容 199
- 付録 F.5 01-90 での変更内容 199
- 付録 F.6 01-70 での変更内容 199
- 付録 G このマニュアルの参考情報 201
- 付録 G.1 関連マニュアル 201
- 付録 G.2 このマニュアルでの表記 202
- 付録 G.3 マイクロソフト製品の表記について 203

付録 G.4	このマニュアルで使用している略語	203
付録 G.5	KB (キロバイト) などの単位表記について	203
付録 H	用語解説	204

## 索引 211

# 1

## ビジネスプロセス管理の概要

この章では、ビジネスプロセス管理の概要、およびビジネスプロセス管理ツールである CSCIW-Definer の概要について説明します。

## 1.1 ビジネスプロセス管理とは

企業内の業務をワーク管理システム（CSCIW）で運用する場合、業務の流れをビジネスプロセスとして定義する必要があります。

例えば、企業内の業務には、担当者が見積書を作成し、決められたルートで主任や課長に回覧して、見積書を承認したり却下したりするなどの業務の流れがあります。このような企業内の業務をワーク管理システムで運用する場合、見積書の回覧のような業務の流れをビジネスプロセスとして切り出します。見積書の作成や承認などを「作業」として、主任や課長などを作業の「担当者」として、ビジネスプロセスの中に定義します。

ビジネスプロセス管理とは、業務の流れをワーク管理システムで使用できるようにビジネスプロセスとして定義したり、それらの運用属性を操作したりと、ビジネスプロセスの定義、運用および管理をすることです。

ビジネスプロセス管理でビジネスプロセスを定義する場合、事前に、業務の運用計画の立案、業務システムの設計などの作業をして、定義するビジネスプロセスの内容を確定しておくことが必要です。

ワーク管理システムで運用するビジネスプロセスとして、次の2つを定義します。

- **ビジネスプロセス定義**

業務の流れを定義したものです。

- **振り分けルール定義**

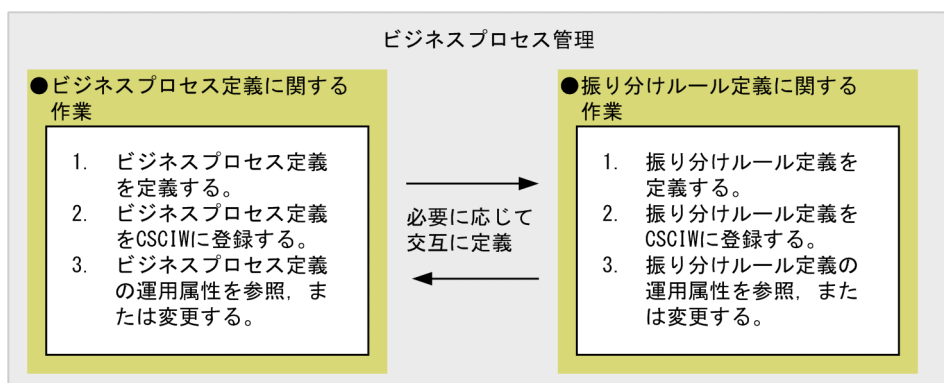
ビジネスプロセスの各作業の作業者を決定するためのルールを定義したものです。

ビジネスプロセス定義と振り分けルール定義は、どちらかを完成させてから、もう一方を定義しなければならないということはありません。

必要に応じて交互に定義して、最終的にビジネスプロセスを完成させます。

ビジネスプロセス管理と2種類の定義に関する作業の関係を次の図に示します。

図 1-1 ビジネスプロセス管理と2種類の定義に関する作業の関係



## 1.2 ビジネスプロセス管理で使用するツール (CSCIW-Definer)

ビジネスプロセスは、ビジネスプロセス定義および振り分けルール定義として定義します。定義したビジネスプロセスをワーク管理システムで運用するには、CSCIW に登録する必要があります。また、登録したあとは、ビジネスプロセスの運用属性を管理する必要があります。CSCIW-Definer は、このような作業を支援するためのビジネスプロセス管理ツールです。

ここでは、ワーク管理システムの中での CSCIW-Definer の位置づけ、およびワーク管理システムの運用の中で CSCIW-Definer を使用する作業について説明します。

### ヒント

BPMN 連携機能を使用する場合、ビジネスプロセス管理で使用するツールとして、BPMN エディタを使用します (CSCIW-Definer は使用しません)。

BPMN エディタについては、マニュアル「uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow BPMN 連携機能 使用の手引」を参照してください。

### 1.2.1 ワーク管理システムの中での CSCIW-Definer の位置づけ

ワーク管理システムは、次に示す 3 つの環境で構成されます。

- CSCIW 実行/運用環境
- DB サーバ
- ビジネスプロセス定義開発環境

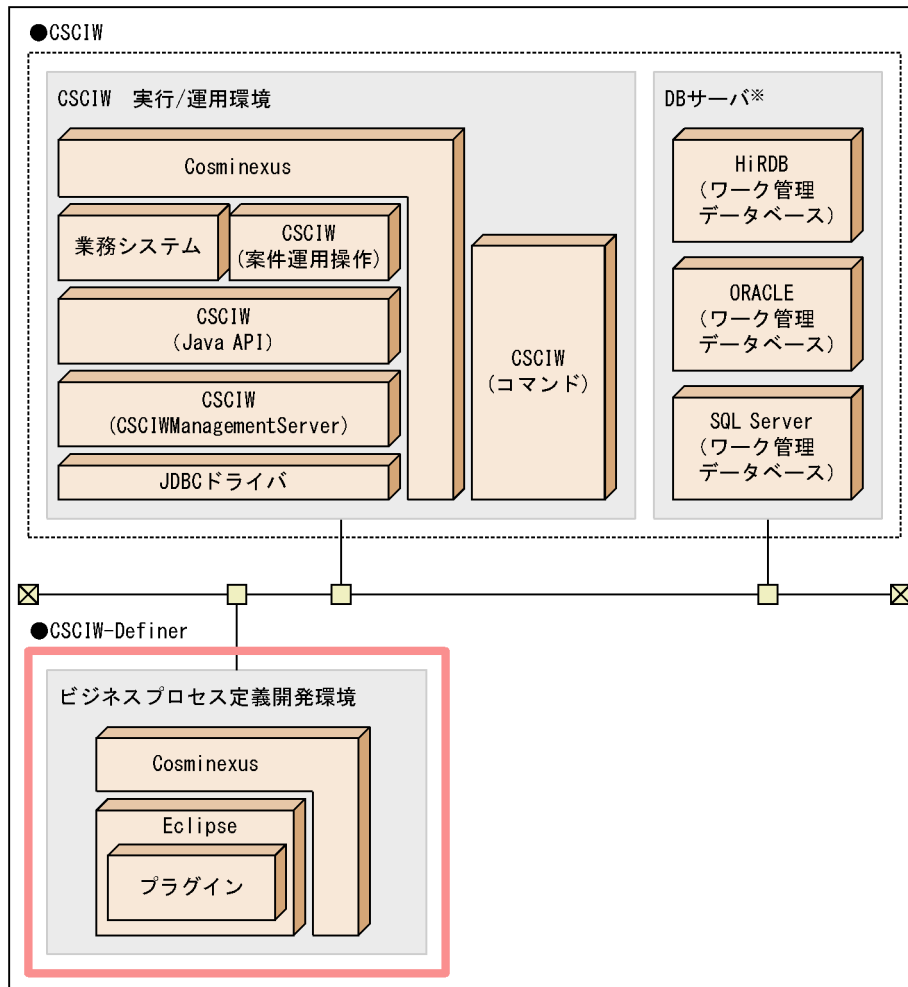
CSCIW 実行/運用環境、および DB サーバは、ビジネスプロセスを実際に運用する環境で、CSCIW がその機能を提供しています。

ビジネスプロセス定義開発環境は、CSCIW で運用するビジネスプロセスを定義する環境で、CSCIW-Definer がその機能を提供しています。

ワーク管理システムの中での CSCIW-Definer の位置づけを次の図に示します。

図 1-2 ワーク管理システムの中の CSCIW-Definer の位置づけ

ワーク管理システム



注 OSは、DBMSを含むすべての環境で必要です。

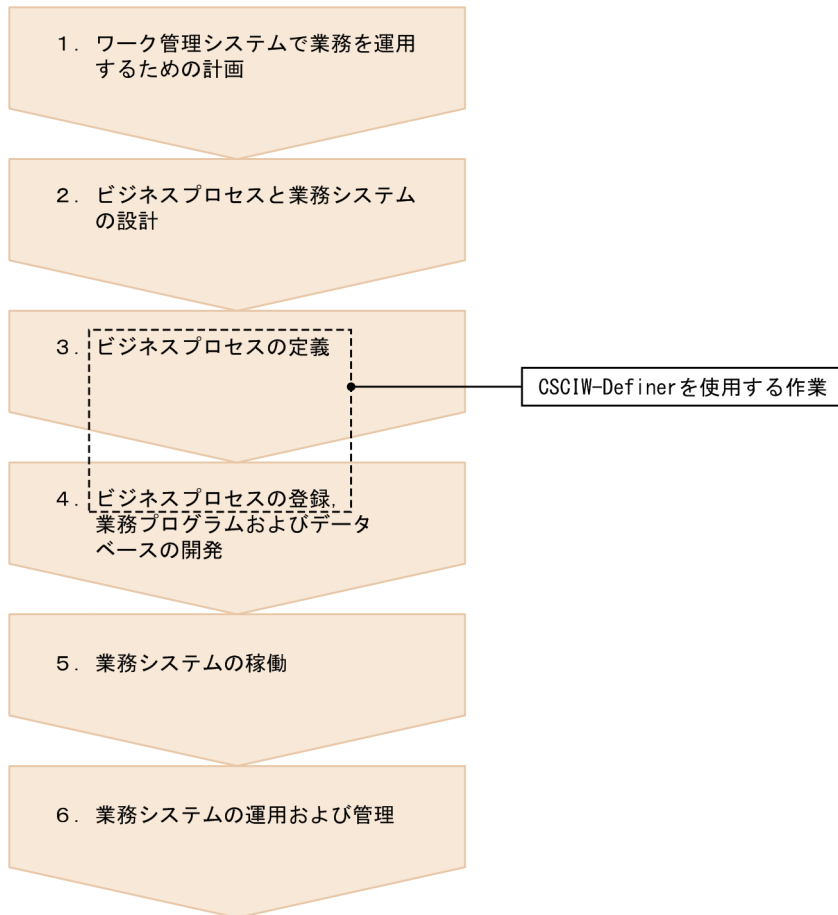
注※ HiRDB, ORACLE, またはSQL Serverのどれかを使用します。

## 1.2.2 業務システムの開発の中で CSCIW-Definer を使用する作業

ワーク管理システムによる業務システムの開発の流れと CSCIW-Definer を使用する範囲を次の図に示します。



図 1-3 ワーク管理システムによる業務システムの開発の流れと CSCIW-Definer を使用する範囲



### <説明>

#### 1. ワーク管理システムで業務を運用するための計画

ワーク管理システムで運用しようとする業務について、作業内容や作業の流れを明確にし、運用計画を立案します。

#### 2. ビジネスプロセスと業務システムの設計

業務の実例（ビジネスインスタンス）を案件として抽出し、案件単位にビジネスプロセスを切り出します。次に、ビジネスプロセスを構成する業務状態、業務状態ごとに実行する作業、および作業を処理する担当者を割り当てるルール（振り分けルール）を明確にします。また、運用に必要な業務プログラムやデータベースを設計します。

#### 3. ビジネスプロセスの定義

2.で明確にした業務ステップ、作業、および振り分けルールを基にビジネスプロセスを定義します。定義には、CSCIW-Definerを使用します。

#### 4. ビジネスプロセスの登録、業務プログラムおよびデータベースの開発

3.で定義したビジネスプロセスをワーク管理システムに登録します。登録には、CSCIW-DefinerまたはCSCIWのコマンドを使用します。また、2.で設計した内容を基に、業務プログラムやデータベースを開発し、テストします。

#### 5. 業務システムの稼働

4.で作成した環境下で、ビジネスプロセス稼働させます。

## 6. 業務システムの運用および管理

CSCIW の案件運用操作またはコマンドで、業務システムを運用および管理します。

# 2

## CSCIW-Definer の機能

この章では、CSCIW-Definer が提供しているビジネスプロセスを管理するための機能について説明します。

## 2.1 機能の概要

この節では、CSCIW-Definer の機能の概要について説明します。CSCIW-Definer の操作方法については、「5. CSCIW-Definer の基本操作」を参照してください。

CSCIW-Definer には次の 2 つの機能があります。

- 開発機能

ビジネスプロセスの新規作成、編集、チェック、保存、読み込み、および印刷ができます。

- 運用機能

定義したビジネスプロセスを CSCIW で運用するための機能です。

ビジネスプロセスを CSCIW に登録、取得、属性変更、および削除ができます。これらの操作は CSCIW に対して実行するため、操作者は認証を受ける必要があります。また、CSCIW に対して実行した操作は監査ログとして出力されます。

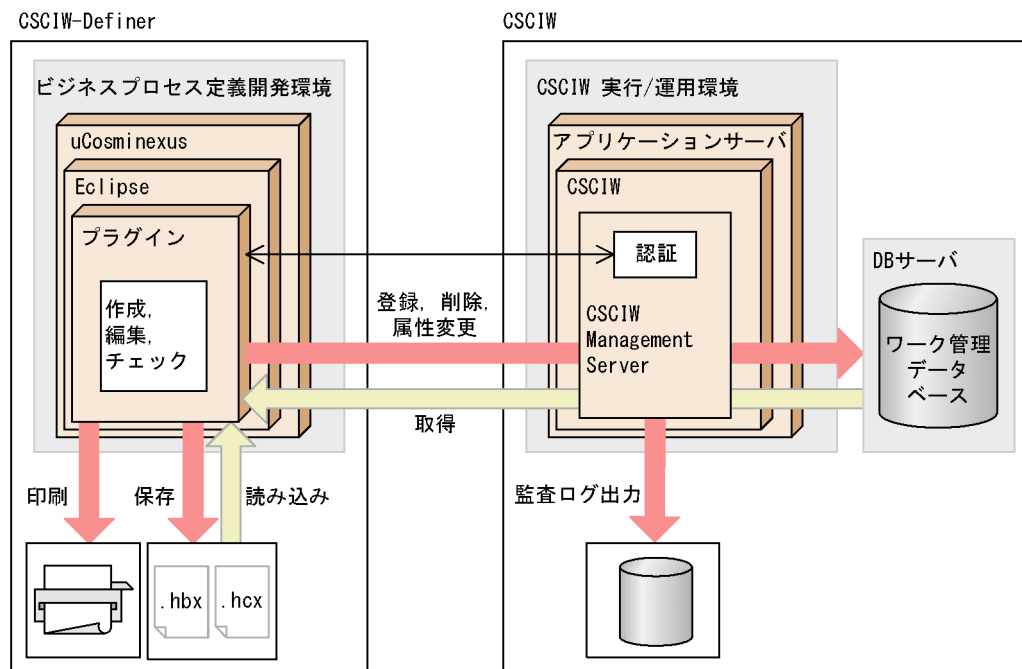
それぞれの機能の概要を次の表に示します。

表 2-1 CSCIW-Definer の機能概要

機能		説明
開発機能	新規作成	ビジネスプロセス定義および振り分けルール定義を新規に作成します。
	保存	作成した定義や編集した定義をワークスペースやローカルファイルに保存します。
	読み込み	ワークスペースやローカルファイルに保存した定義を画面上に表示します。
	編集	画面上に表示している定義の内容を編集します。
	印刷	ビジネスプロセス定義の遷移図を印刷します。
	チェック	ビジネスプロセス定義および振り分けルール定義の定義内容が適切かどうかを確認します。
運用機能	認証	定義の登録、取得、属性変更、および削除をするときに、CSCIW にログインしてあらかじめ操作者の認証を受けます。認証を受けていない場合、定義の登録、取得、属性変更、および削除はできません。
	登録	ビジネスプロセス定義および振り分けルール定義を CSCIW へ登録します。
	取得	CSCIW に登録した定義を取得して画面上に表示します。
	属性変更	取得した定義の属性を変更します。
	削除	CSCIW に登録した定義を削除します。
	監査ログ出力	認証後に、ビジネスプロセス定義および振り分けルール定義の操作に関する履歴を監査ログとして出力します。

CSCIW-Definer の機能と CSCIW との関係を次の図に示します。

図 2-1 CSCIW-Definer の機能と CSCIW との関係



## 2.2 開発機能

この節では、CSCIW-Definer の開発機能について説明します。

### 2.2.1 定義の作成および編集

ワーク管理システムで運用するビジネスプロセス定義および振り分けルール定義は、CSCIW-Definer で作成します。また、定義内容の変更が必要な場合は、CSCIW-Definer で対象の定義を開いて編集できます。

ビジネスプロセス定義および振り分けルール定義で作成および編集する定義を次に示します。なお、各定義の設定画面については、「[6.7 CSCIW-Definer のダイアログ](#)」を参照してください。

#### (1) ビジネスプロセス定義で作成および編集する定義

ビジネスプロセス定義で作成および編集する定義の一覧を次の表に示します。

表 2-2 ビジネスプロセス定義で作成および編集する定義の一覧

定義名	設定項目
ビジネスプロセス	定義名
	バージョン
	作成者*
	状態
	処理期限ルール
	管理者
	案件投入可能期間
	説明
業務ステップ	定義名
	事前生成
	完了条件
	処理期限ルール
	説明
一般作業	定義名
	振り分けルール
	発生条件
	完了条件

定義名		設定項目	
一般作業		条件再評価	
		説明	
		作業アプリケーション	
並列作業		定義名	
		子作業定義名	
		子作業生成ルール	
		発生条件	
		完了条件	
		条件再評価	
		説明	
制御ノード	分業	定義名	
	分岐	定義名	
		分岐条件	デフォルト遷移先
			遷移先
			優先順位
		条件	
	待合	定義名	
先着	定義名		
	後続停止		
遷移		遷移元	
		遷移先	
条件		定義名	
		条件種別	
		SQL 文	
		True/False の結果を反対にする	
		説明	
		Java クラス名	
		補助定数パラメタ	
ルール	生成ルール	定義名	
		生成ルール種別	
		SQL 文	

定義名		設定項目
ルール	生成ルール	説明
		Java クラス名
		補助定数パラメタ
	時間取得ルール	定義名
		相対日数
		説明
作業アプリケーション		定義名
		作業アプリケーション定義種別
		補助定数パラメタ
		説明
		Java クラス名
		ref 識別子
階層		定義名

注※ 操作者の ID が自動で設定されます。

## (2) 振り分けルール定義で作成および編集する定義

振り分けルール定義で作成および編集する定義の一覧を次の表に示します。

表 2-3 振り分けルール定義で作成および編集する定義の一覧

定義名	設定項目
振り分けルール	定義名
	振り分けルール種別
	バージョン
	作成者※
	状態
	管理者
	有効期間
	説明
	SQL 文
	Java クラス名
	補助定数パラメタ



定義名		設定項目
ルール	振り分けルール	定義名
		SQL文

注※ 操作者のIDが自動で設定されます。

## 2.2.2 定義のチェック

CSCIW-Definerには、ビジネスプロセス定義および振り分けルール定義の内容が適切かどうかをチェックする機能があります。

チェック対象は、定義内容と文字列長です。詳細を次の表に示します。

表 2-4 定義のチェックでチェックする内容

チェック対象	チェック項目	チェックする定義	
		ビジネスプロセス定義	振り分けルール定義
定義内容	必須の項目が設定されているか。※1	○	○
	適切な値が設定されているか。※1	○	○
	各定義の名称の一意性が満たされているか。※2	○	—
	分岐条件にデフォルト遷移先が指定されているか。	○	—
	次のどれかを指定している場合、該当する定義が定義されているか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>条件定義</li> <li>生成ルール定義</li> <li>時間取得ルール定義</li> <li>作業アプリケーション定義</li> <li>一般作業定義</li> </ul>	○	—
	業務ステップ定義、階層定義のどちらか1つ以上定義されているか。	○	—
	業務ステップが定義されている場合は、その中に一般作業定義、または並列作業定義が1つ以上定義されているか。	○	—
	階層定義が定義されている場合は、その中に業務ステップ定義、または階層定義のどちらか1つ以上定義されているか。	○	—
	ソースノードおよびシンクノードが、1つずつ定義されているか。階層定義がある場合、さらにその中に1つずつ定義されているか。	○	—
	ソースノードからシンクノードまでの経路が、切れていないか。	○	—

チェック対象	チェック項目	チェックする定義	
		ビジネスプロセス定義	振り分けルール定義
定義内容	次のどれかを定義している場合、ソースノードからシンクノードまでの経路に含まれていない定義が存在していないか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>業務ステップ定義</li> <li>階層定義</li> <li>分業ノード定義</li> <li>分岐ノード定義</li> <li>待合ノード定義</li> <li>先着ノード定義</li> </ul>	○	—
	次のどれかを定義している場合、SQL 文, Java クラス名, および ref 識別子がデフォルト値から変更されているか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>条件定義</li> <li>生成ルール定義</li> <li>作業アプリケーション定義</li> <li>振り分けルール定義</li> </ul>	○	○
文字列長	定義で設定した文字列について、設定された文字コード*3 で文字列長が限界値を超えないか。	○	○

(凡例)

- ：チェックする
- ：チェックしない

注※1

必須の項目については、「付録 B 各種定義の設定項目」を参照してください。

注※2

ビジネスプロセス定義名および振り分けルール定義名については、一意性をチェックしません。名称の一意性については、「5.3.3 名称の一意性」を参照してください。

注※3

文字コードは、設定ページで設定します。設定ページについては、「4.3.2(4) 設定ページで項目を設定する」を参照してください。

チェックのタイミングは、定義をワーク管理システムに登録するとき、または「チェック」メニューを実行したときです。

定義のチェックをすると、チェック結果はメッセージファイル、またはコンソールに出力されます。

定義の登録時のチェックでエラーになった場合は、エラー内容をメッセージとして出力し、定義をワーク管理システムに登録しません。警告の場合は、警告内容をメッセージとして出力しますが、定義をワーク管理システムに登録します。

### 2.2.3 定義の保存および読み込み

CSCIW-Definer で作成したビジネスプロセス定義および振り分けルール定義は、ワークスペース内に保管、またはローカルファイルに出力することで保存できます。

保存するときは、上書き保存と別名保存（ファイル名を指定して保存）を選ぶことができます。

ビジネスプロセス定義を保存すると、ファイルの拡張子は「.hbx」になります。また、振り分けルール定義を保存すると、ファイルの拡張子は「.hcx」になります。

保存した定義を読み込むときは、保存先によってワークスペース内、またはローカルファイルのどちらかを選択します。保存先のファイルを開くことで、定義内容を CSCIW-Definer に読み込んで表示します。

### 2.2.4 定義の印刷

CSCIW-Definer で作成したビジネスプロセス定義の遷移図は印刷できます。

遷移図は常に 1 ページに印刷されます。遷移図が大きい場合は、縮小して 1 ページに収まるように自動補正されます。

なお、ビジネスプロセス定義の定義中に階層定義がある場合は、定義全体の遷移図とは別に階層定義を表示した状態で印刷する必要があります。

## 2.3 運用機能

この節では、CSCIW-Definer の運用機能について説明します。

### 2.3.1 運用機能を使用するための準備

CSCIW-Definer の運用機能を使用する場合は、CSCIW の実行/運用環境の CSCIWManagementServer への接続が必要です。CSCIWManagementServer へ接続するには、設定ページで接続先を設定します。設定ページについては、「4.3.2(4) 設定ページで項目を設定する」を参照してください。

### 2.3.2 定義の登録、取得、属性変更および削除

作成したビジネスプロセス定義および振り分けルール定義は、CSCIW-Definer を使用して CSCIW に登録します。また、CSCIW へ登録済みの定義を CSCIW-Definer で取得し、必要に応じて属性を変更したり、削除したりします。

ここでは、定義の登録、取得、属性変更、および削除について説明します。

#### (1) 事前準備

定義の登録、取得、属性変更、および削除は、CSCIWManagementServer へ接続した状態で行う必要があります。CSCIWManagementServer へ接続するときに、操作者の認証が行われます。

認証に必要な項目を次に示します。

表 2-5 認証に必要な項目

項目	説明
ユーザ ID	CSCIW-Definer を操作するユーザのユーザ ID を指定します。 指定するユーザ ID は、CSCIWManagementServer の組み込み時に設定したセキュリティロール「csciwdef」と関連づけられたユーザ ID と同じにしてください。セキュリティロールの設定については、マニュアル「uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow システム構築・運用ガイド」の「アプリケーションサーバの設定」の「CSCIWManagementServer の設定」を参照してください。
パスワード	上記ユーザ ID に対応するパスワードを指定してください。

なお、一度認証を受けたあとに、次に示すどれかが発生した場合は、再度認証を受ける必要があります。

- 操作者が CSCIW-Definer のメニューからログアウトを実行した場合
- Eclipse を終了した場合
- CSCIWManagementServer との通信時に例外が発生した場合

- 接続先サーバの設定を変更した場合

## (2) 登録, 取得, 属性変更および削除できる内容

ビジネスプロセス定義および振り分けルール定義の登録, 取得, 属性変更および削除するときに, CSCIW-Definer でできる操作を次の表に示します。

表 2-6 定義の登録, 取得, 属性変更および削除できる操作 (ビジネスプロセス定義)

操作	説明
新規登録	新規のビジネスプロセス定義を CSCIW へ登録します。すでに登録されている定義と同じ定義名でも, 異なるバージョンの定義を登録する場合は, 新規登録になります。 なお, 登録するビジネスプロセス定義の中で使用している振り分けルール定義が登録されていない場合は, 警告が出力されますが, 定義は CSCIW に登録されます。
上書き登録	ビジネスプロセス名とバージョンが一致する定義がすでに CSCIW に登録されている場合は, 上書き登録 (既存の定義を削除したあとに登録をする) になります。 なお, 次のどちらかの場合は, 上書き登録はできません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 対象となる定義に案件が存在する場合</li> <li>• 対象となる定義が活性状態の場合</li> </ul>
一覧取得	CSCIW に登録されているビジネスプロセス定義の一覧を取得し, [登録定義一覧] ビューに表示します。表示の条件については, 設定ページで設定します。設定ページについては, 「4.3.2(4) 設定ページで項目を設定する」を参照してください。
情報取得	ビジネスプロセス定義の一覧の中から, 指定した定義の情報を取得して表示します。
属性変更	CSCIW に登録されているビジネスプロセス定義の属性を変更します。 変更できる属性は次の 4 種類です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 状態</li> <li>• 案件投入可能期間</li> <li>• 管理者</li> <li>• 説明</li> </ul>
削除	CSCIW に登録されているビジネスプロセス定義を削除します。 なお, 次のどちらかの場合は, 削除できません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 対象となる定義に案件が存在する場合</li> <li>• 対象となる定義が活性状態の場合</li> </ul>

表 2-7 定義の登録, 取得, 属性変更および削除できる操作 (振り分けルール定義)

操作	説明
新規登録	振り分けルール定義を CSCIW へ登録します。すでに登録されている定義と同じ定義名でも, 異なるバージョンの定義を登録する場合は, 新規登録になります。
上書き登録	振り分けルール名とバージョンが一致する定義がすでに登録されている場合は, 上書き登録 (既存の定義を削除したあとに登録をする) になります。 なお, 対象となる定義が活性状態の場合は, 上書き登録はできません。

操作	説明
一覧取得	CSCIW に登録されている振り分けルール定義の一覧を取得し、[登録定義一覧]ビューに表示します。表示の条件については、設定ページで設定します。設定ページについては、「4.3.2(4) 設定ページで項目を設定する」を参照してください。
情報取得	振り分けルール定義の一覧の中から、指定した定義の情報を取得して表示します。
属性変更	CSCIW に登録されている振り分けルール定義の属性を変更します。変更できる属性は次の4種類です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 状態※</li> <li>• 有効期間※</li> <li>• 管理者</li> <li>• 説明</li> </ul>
削除	CSCIW に登録されている振り分けルール定義を削除します。なお、対象となる定義が活性状態の場合は、削除できません。

注※

変更によってビジネスプロセス定義から使用できる振り分けルール定義がなくなる場合は、使用できない状態（非活性状態、または、有効期間外）には変更できません。

### 2.3.3 監査ログの出力

監査ログは、監査事象が発生したタイミングでメッセージとして出力されます。監査事象とは、CSCIW に対して実行した操作のうち、システムの運用の正当性を証明するために記録する必要がある事象のことです。

監査ログが出力される監査事象を次の表に示します。

表 2-8 監査ログが出力される監査事象

監査事象	説明
StartStop	次に示す操作 <ul style="list-style-type: none"> <li>• CSCIWManagementServer の開始</li> <li>• CSCIWManagementServer の停止</li> </ul>
Authentication	次に示す操作 <ul style="list-style-type: none"> <li>• CSCIWManagementServer へのログイン</li> <li>• CSCIWManagementServer からのログアウト</li> </ul>
ContentAccess	次に示す操作 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ビジネスプロセス定義の新規登録</li> <li>• ビジネスプロセス定義の上書き登録</li> <li>• ビジネスプロセス定義の情報取得</li> <li>• ビジネスプロセス定義の属性変更</li> <li>• ビジネスプロセス定義の削除</li> <li>• 振り分けルール定義の新規登録</li> <li>• 振り分けルール定義の上書き登録</li> </ul>

監査事象	説明
ContentAccess	<ul style="list-style-type: none"><li>振り分けルール定義の情報取得</li><li>振り分けルール定義の属性変更</li><li>振り分けルール定義の削除</li></ul>

## 2.3.4 CSCIWManagementServer との通信でのプロキシの使用

Eclipse のネットワーク設定にプロキシの設定を登録することで、CSCIW-Definer から CSCIWManagementServer への接続にプロキシを使用できます。

Eclipse のネットワーク設定の詳細については、マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ アプリケーション開発ガイド」の「Eclipse のプロキシの設定」の説明を参照してください。

### ❗ 重要

プロキシの設定が不正な場合（例えば CSCIW-Definer から接続できないホスト名を設定した場合）に、プロキシを設定しない通信をしたときのエラーが発生するなど、適切なエラーが表示されないことがあります。

エラーになった場合は、プロキシの設定を確認して、再度実行してください。

# 3

## ビジネスプロセス管理の基本的な考え方

この章では、販売業務の流れを例にビジネスプロセス管理の基本的な考え方について説明します。



## 3.1 例題の説明

この節では、ビジネスプロセス管理の基本的な考え方の説明で使用する例題の概要を説明します。

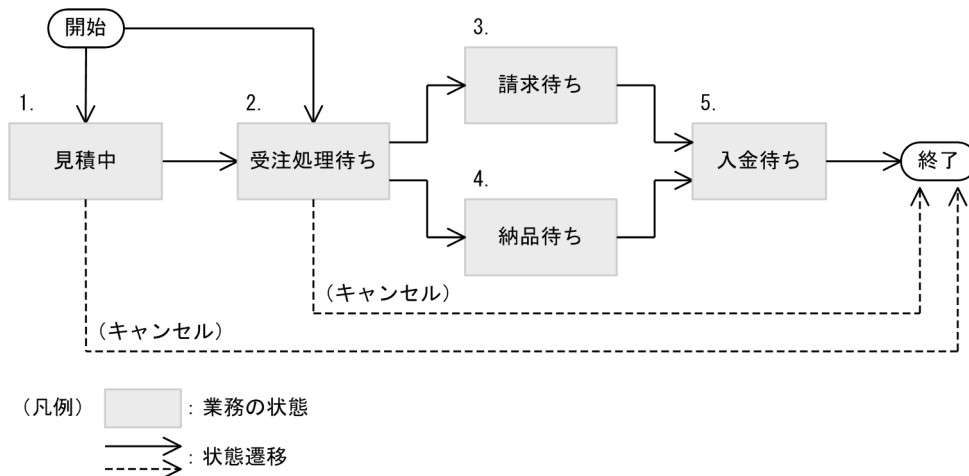
### 3.1.1 例題の概要

ここでは、説明の前提となる例題「販売業務」の流れと、それをビジネスプロセスとして定義した場合の定義内容、および使用するデータベースの内容について説明します。

#### (1) 例題「販売業務」の流れ

例題とする「販売業務」の一連の流れと具体的な作業内容を次の図に示します。

図 3-1 例題「販売業務」の流れ



図中の数字は、次に示す説明の番号と対応しています。

#### 1. 見積中

顧客から購入の問い合わせがあった商品に対して、商談の担当者が見積もりをして顧客と交渉します。特注品の問い合わせに対しては、特別な見積もりが必要になります。

見積もり作業が不要の場合は、この作業は発生しないので、2.の作業から始めます。なお、見積もりの段階で商談がキャンセルされると、終了になります。

#### 2. 受注処理待ち

商談の担当者は、顧客から注文された商品が倉庫にあるかを確認して引き当てを行い、商品を確認します。続いて、受注登録をします。なお、受注の段階で商談がキャンセルされると、終了になります。

#### 3. 請求待ち

商談に対する売り掛け計上の処理をします。また、商品に対する代金を請求するための準備作業をします。

#### 4. 納品待ち

商談の担当者が商品ごとに納入日を指示します。商品ごとに出荷担当者が決まっているので、各商品の出荷担当者が並行して納入作業をします。

なお、3.と4.は並行して進みます。

## 5.入金待ち

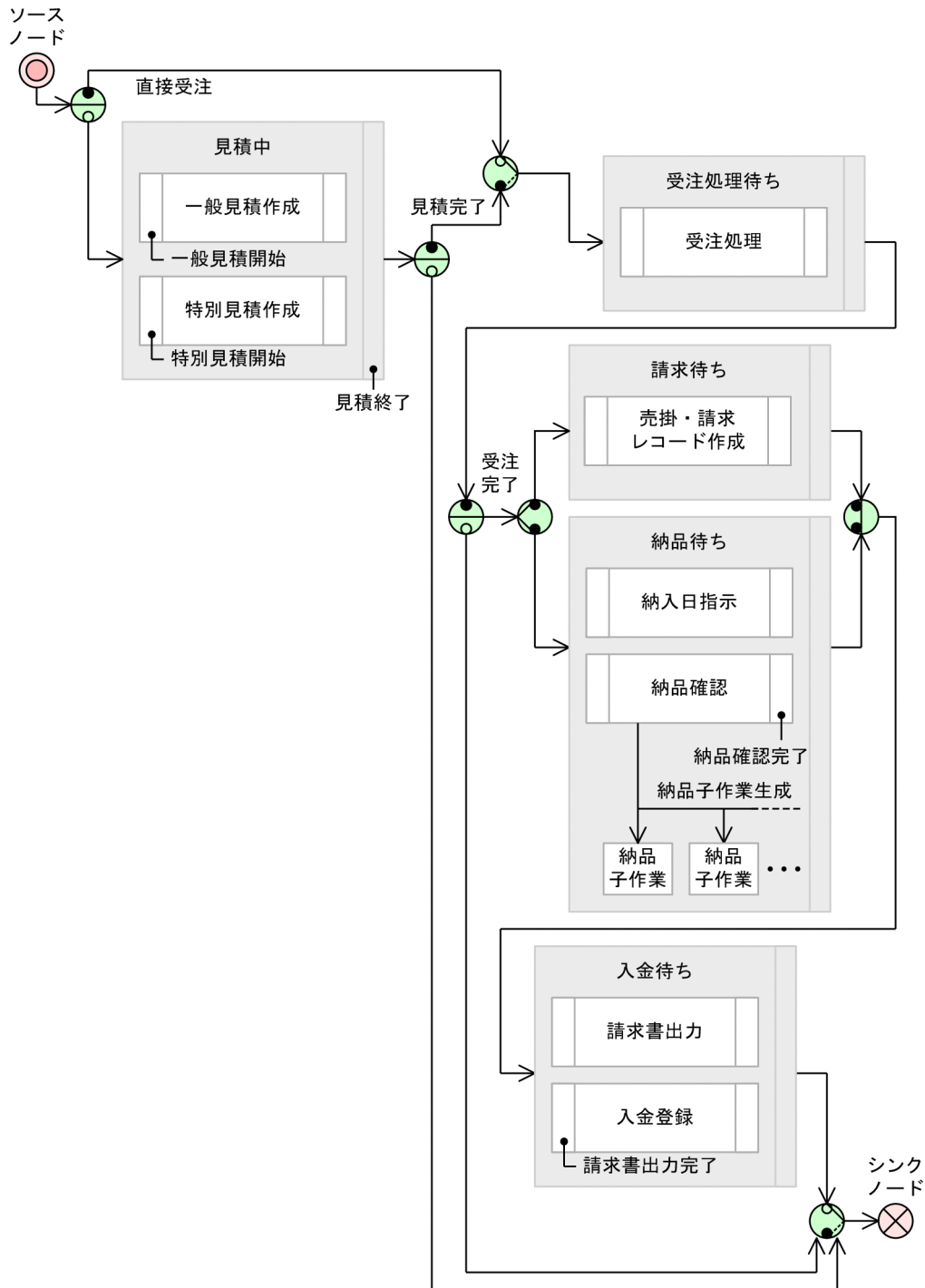
経理担当者が請求書を発行し、顧客に送付します。また、経理担当者は顧客からの入金を確認して請求を完了させます。経理担当者は、商談の担当者が所属する部署ごとに決まっているものとします。

これで業務は終了です。

## (2) 例題「販売業務」で定義するビジネスプロセス

例題「販売業務」をビジネスプロセスとして定義すると、次の図のようになります。

図 3-2 例題「販売業務」のビジネスプロセス



CSCIW-Definer で定義したビジネスプロセスをワーク管理システム（CSCIW）で運用する際、CSCIW は、ユーザが CSCIW-Definer で定義した条件に基づいて、業務データベースなどの情報を評価します。この条件によって、案件に含まれる業務ステップや作業の発生・完了などが制御されます。業務ステップや作業の発生・完了を制御するための条件を、**データ条件**と呼びます。

ワーク管理システムのデータ条件は、「RDB 検索」または「Java オブジェクト呼び出し」です。この例題「販売業務」では、「RDB 検索」を使用しています。

また、例題「販売業務」では次の振り分けルール定義を使います。

- 商談別営業担当者  
商談の担当者特定するための振り分けルール定義です。  
「一般見積作成」、「特別見積作成」、「受注登録」、および「納入日指示」の各作業に使います。
- 商品別出荷担当者  
納入品の出荷担当者特定するための振り分けルール定義です。  
作業「納品確認」が生成する「納品子作業」に使います。
- 部門別経理担当者  
商談の担当者が所属する部署の経理担当者特定するための振り分けルール定義です。  
「請求書出力」、および「入金登録」の各作業に使います。また、「売掛・請求レコード作成」にも、この振り分けルール定義を使います。

なお、例題「販売業務」で使用している振り分けルール定義、およびビジネスプロセス定義の名称が、実際に使用されているものと重なる場合は、例題の振り分けルール定義、およびビジネスプロセス定義の名称を変更して利用してください。

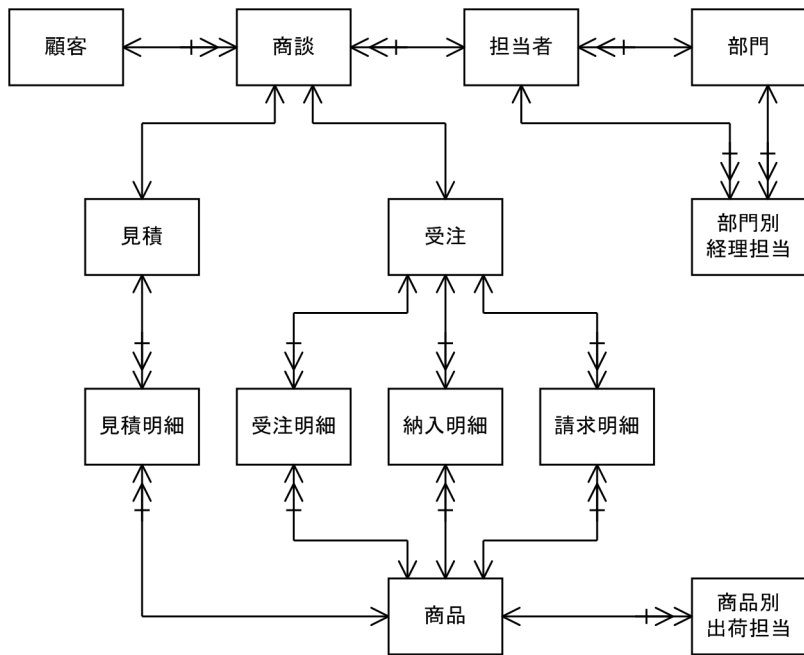
### (3) 例題「販売業務」で使うデータベースの内容

例題「販売業務」で使う業務データベースのテーブルを次に示します。

- 商談テーブル
- 見積テーブル
- 見積明細テーブル
- 受注テーブル
- 受注明細テーブル
- 納入明細テーブル
- 請求明細テーブル
- 顧客テーブル
- 担当者テーブル
- 部門テーブル
- 部門別経理担当テーブル
- 商品テーブル
- 商品別出荷担当テーブル

各テーブル間の関係は、次の図（E-R 図）のようになります。

図 3-3 例題「販売業務」の業務データベースのテーブル間の関係



(凡例) □ : テーブル  
 → : 1  
 ⇨ : 1以上

各テーブルの内容を次に示します。

**(a) 商談テーブル**

商談テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-1 商談テーブル

列名	キー	備考
商談番号	主キー	案件キー
担当者コード	外来キー	振り分けルール定義 「商談別営業担当者」の評価結果
顧客コード	外来キー	—
見積区分	—	見積省略='0' 一般見積='1' 特別見積='2'
商談名	—	—
顧客予算	—	—

(凡例)  
 — : 該当する情報はありません

## (b) 見積テーブル

見積テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-2 見積テーブル

列名	キー	備考
商談番号	主キー 外来キー	—
見積完了日	—	見積完了=現時刻 見積キャンセル=NULL
見積完了フラグ	—	見積前=NULL 見積後='ON'
見積納期	—	—
見積名称	—	—
見積確度	—	—

(凡例)

—：該当する情報はありません

## (c) 見積明細テーブル

見積明細テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-3 見積明細テーブル

列名	キー	備考
見積明細番号	主キー	複合主キー
商談番号	主キー 外来キー	複合主キー
商品コード	—	—
見積数量	—	—
見積金額	—	—

(凡例)

—：該当する情報はありません

## (d) 受注テーブル

受注テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-4 受注テーブル

列名	キー	備考
商談番号	主キー 外来キー	—
受注完了日	—	受注完了=現時刻 受注キャンセル=NULL
納品指示完了フラグ	—	納品確認完了前=NULL 納入完了後='ON'
請求書発行フラグ	—	請求書発行前=NULL 請求書発行後='ON'
受注納期	—	—
売上計上区分	—	—
納入完了日	—	—
請求日	—	—

(凡例)

—：該当する情報はありません

### (e) 受注明細テーブル

受注明細テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-5 受注明細テーブル

列名	キー	備考
受注明細番号	主キー	複合主キー
商談番号	主キー 外来キー	複合主キー
商品コード	—	—
受注数量	—	—
受注金額	—	—

(凡例)

—：該当する情報はありません

### (f) 納入明細テーブル

納入明細テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-6 納入明細テーブル

列名	キー	備考
納入明細番号	主キー	複合主キー 作業「納品確認」で子作業を生成するときの子作業識別子。
商談番号	主キー 外来キー	複合主キー
商品コード	—	—
納品指示日	—	—
納入数量	—	—
納入日	—	—

(凡例)

—：該当する情報はありません

### (g) 請求明細テーブル

請求明細テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-7 請求明細テーブル

列名	キー	備考
請求明細番号	主キー	複合主キー
商談番号	主キー 外来キー	複合主キー
商品コード	—	—
請求金額	—	—
入金金額	—	—
入金日	—	—

(凡例)

—：該当する情報はありません

### (h) 顧客テーブル

顧客テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-8 顧客テーブル

列名	キー	備考
顧客コード	主キー	—
顧客名称	—	—



列名	キー	備考
住所	－	－
電話番号	－	－

(凡例)

－：該当する情報はありません

## (i) 担当者テーブル

担当者テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-9 担当者テーブル

列名	キー	備考
担当者コード	主キー	－
部門コード	外来キー	－
担当者名	－	－
職位名称	－	－
内線番号	－	－

(凡例)

－：該当する情報はありません

## (j) 部門テーブル

部門テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-10 部門テーブル

列名	キー	備考
部門コード	主キー	－
部門名称	－	－
部門電話番号	－	－

(凡例)

－：該当する情報はありません

## (k) 部門別経理担当テーブル

部門別経理担当テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-11 部門別経理担当テーブル

列名	キー	備考
部門コード	主キー	複合主キー

列名	キー	備考
部門コード	外来キー	複合主キー
担当者コード	主キー 外来キー	複合主キー 振り分けルール定義「部門別経理担当者」の評価結果。

## (l) 商品テーブル

商品テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-12 商品テーブル

列名	キー	備考
商品コード	主キー	—
商品名称	—	—
商品単価	—	—
商品単位	—	—

(凡例)

—：該当する情報はありません

## (m) 商品別出荷担当テーブル

商品別出荷担当テーブルの内容を次の表に示します。

表 3-13 商品別出荷担当テーブル

列名	キー	備考
商品コード	主キー 外来キー	複合主キー
担当者コード	主キー 外来キー	複合主キー 振り分けルール定義「商品別出荷担当者」の評価結果。

## 3.2 例題の定義手順

この節では、ビジネスプロセスをどのような手順で定義するかを説明します。

ビジネスプロセスの定義手順を次の図に示します。

図 3-4 ビジネスプロセスの定義手順



図中の数字は、次に示す説明の番号と対応しています。

### 1. 振り分けルール定義の定義

ビジネスプロセスの各作業の作業者を特定するための振り分けルール定義を定義します。詳細については、「[3.3 振り分けルール定義の定義](#)」を参照してください。

### 2. 振り分けルール定義の登録

振り分けルール定義を CSCIW に登録します。詳細については、「[3.3.4 振り分けルール定義を登録する](#)」を参照してください。

### 3. ビジネスプロセス定義の定義

遷移、業務ステップ、作業、制御ノード、分岐ノードの分岐条件、およびビジネスプロセス定義の属性を遷移図に描画することでビジュアルに定義します。詳細については、「[3.4 ビジネスプロセス定義の定義](#)」を参照してください。

### 4. ビジネスプロセス定義の定義内容のチェック

ビジネスプロセス定義の定義内容を確認します。詳細については、「[3.4.6 ビジネスプロセス定義をチェックする](#)」を参照してください。

#### 5. ビジネスプロセス定義の登録

ビジネスプロセス定義を CSCIW に登録します。詳細については、「[3.4.7 ビジネスプロセス定義を登録する](#)」を参照してください。

#### 6. 振り分けルール定義、およびビジネスプロセス定義の運用状態の確認

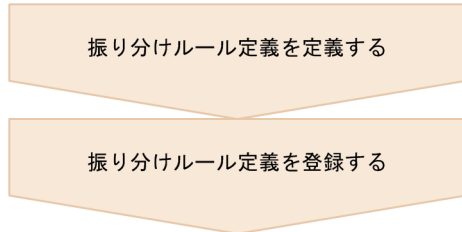
サーバに登録されている振り分けルール定義、またはビジネスプロセス定義の運用状態を確認します。詳細については、「[3.5 運用状態の確認および操作](#)」を参照してください。

なお、例題「販売業務」の説明では、振り分けルール定義を定義してからビジネスプロセス定義を定義していますが、必要に応じて振り分けルール定義とビジネスプロセス定義を交互に定義することもできます。

## 3.3 振り分けルール定義の定義

この節では、振り分けルール定義の基本的な定義手順を、例題「販売業務」に沿って説明します。振り分けルール定義を定義するときの操作の流れを、次の図に示します。

図 3-5 振り分けルール定義を定義するときの操作の流れ



なお、例題「販売業務」では、「3.1.1(2) 例題「販売業務」で定義するビジネスプロセス」で挙げた振り分けルール定義を定義します。

- 商談別営業担当者
- 商品別出荷担当者
- 部門別経理担当者

なお、ビュー、ウィザード、ダイアログなど CSCIW-Definer で表示する画面については、「6. CSCIW-Definer の画面構成」を参照してください。

### 3.3.1 振り分けルール定義を定義するときの注意事項

振り分けルール定義では、SQL 文の定義が必要な場合があります。SQL 文を定義する場合、ビジネスプロセスを運用したときにワーク管理システムがどのようにデータベースを検索するかを考慮する必要があります。

振り分けルール定義で SQL 文を定義するときを考慮する内容を次の表に示します。

表 3-14 振り分けルール定義で SQL 文を定義するときを考慮する内容

評価対象	評価の戻り値
振り分けルール定義	問い合わせ結果の先頭行かつ先頭列に格納された文字列を作業者の ID とします。

#### SQL 文を記述するときの注意事項

「」(半角シングルクォーテーション)で囲まれた文字列の間に改行を入れると、DBMS では「\n」という改行コードが入っているものとして扱われます(「\r\n」にはなりません)。

## 3.3.2 振り分けルール定義を定義する

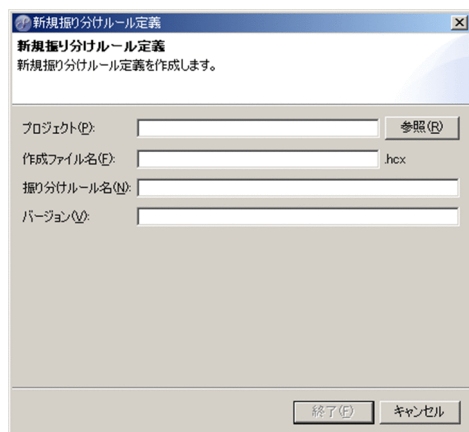
振り分けルール定義「商談別営業担当者」の定義方法を次に示します。

### 1. CSCIW-Definer のパースペクティブを開く

操作方法については、「[5.1.2 CSCIW-Definer のパースペクティブを開く](#)」を参照してください。

- メニューの [ファイル] - [新規], または [ナビゲーター] ビューのポップアップメニューの [新規] から, [振り分けルール定義] メニューをクリックする  
[新規振り分けルール定義] ウィザードが表示されます。

図 3-6 [新規振り分けルール定義] ウィザード



### 3. [プロジェクト] を選択する

[参照] ボタンを押して, 作成した定義ファイルを保存するプロジェクトを選択します。

### 4. 作成ファイル名を入力する

ファイル名として「商談別営業担当者」と入力します。

### 5. 振り分けルール定義名を入力する

振り分けルール定義の定義名として「商談別営業担当者」と入力します。

### 6. バージョン番号を入力する

バージョン番号として「1」を入力します。

### 7. [終了] ボタンをクリックする

ワークスペース内に振り分けルール定義ファイルが作成され, [ナビゲーター] ビューに「商談別営業担当者.hcx」が表示されます。

[新規振り分けルール定義] ウィザードは閉じられ, 振り分けルール定義エディタが表示されます。

[振り分けルール名] には, 操作 5. で入力した名称が表示されていることを確認します。また, [バージョン] には「0001」が表示されていることを確認します。

なお, [振り分けルール名] および [バージョン] の内容を変更したい場合は, 直接入力してください。

### 8. [SQL] タブを選択する

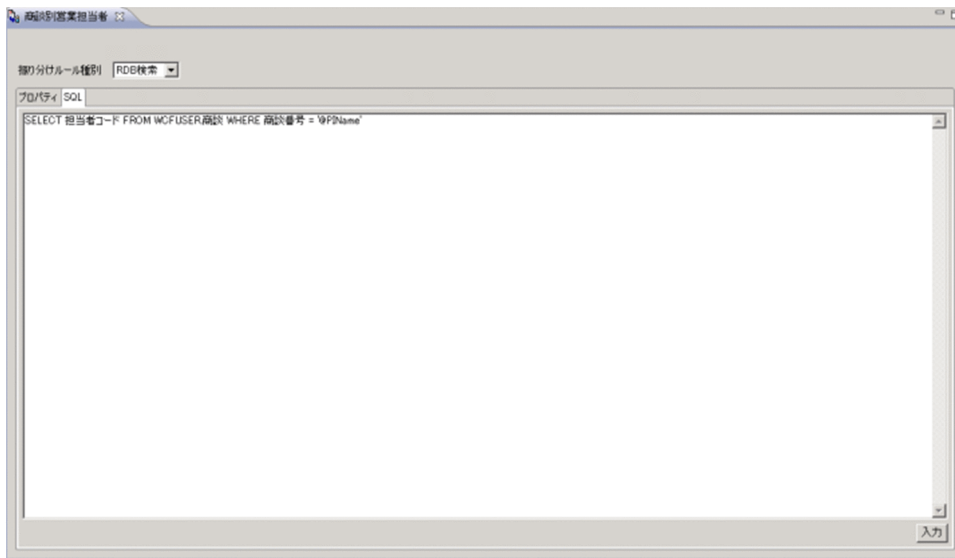
[SQL] タブが手前に表示されます。

## 9. SQL 文を入力する

次のように入力します。

```
SELECT 担当者コード FROM WCFUSER.商談 WHERE 商談番号 = '@PIName'
```

図 3-7 振り分けルール定義エディタ (SQL タブ)



## 10. メニューの [ファイル] - [保管] を選択する

振り分けルール定義がワークスペース内に保存されます。

これで、振り分けルール定義「商談別営業担当者」の定義は終了です。

同様の手順で、振り分けルール定義「商品別出荷担当者」、および「部門別経理担当者」を定義します。

振り分けルール定義「商品別出荷担当者」、および「部門別経理担当者」の定義内容を次に示します。

### • 振り分けルール定義「商品別出荷担当者」の定義内容

定義画面	定義項目	定義内容
[新規振り分けルール定義] ウィザード	プロジェクト	振り分けルール定義「商品別出荷担当者」と同じプロジェクトを選択します。
	作成ファイル名	「商品別出荷担当者」と入力します。
	振り分けルール名	「商品別出荷担当者」と入力します。
	バージョン	「1」を入力します。
振り分けルール定義エディタ (SQL タブ)	振り分けルール種別 選択	次の SQL 文を入力します。 SELECT 担当者コード FROM WCFUSER.商品別出荷担当, WCFUSER.納入明細 WHERE 商談番号 = '@PIName' AND 納入明細番号 = '@WIName' AND 納入明細.商品コード = 商品別出荷担当.商品コード

- 振り分けルール定義「部門別経理担当者」の定義内容

定義画面	定義項目	定義内容
[新規振り分けルール定義] ウィザード	プロジェクト	振り分けルール定義「商品別出荷担当者」と同じプロジェクトを選択します。
	作成ファイル名	「部門別経理担当者」と入力します。
	振り分けルール名	「部門別経理担当者」と入力します。
	バージョン	「1」を入力します。
振り分けルール定義エディタ (SQLタブ)	振り分けルール種別選択	次のSQL文を入力します。 SELECT 部門別経理担当.担当者コード FROM WCFUSER.部門別経理担当,WCFUSER.商談,WCFUSER.担当者 WHERE 商談番号 = '@PIName' AND 商談.担当者コード = 担当者.担当者コード AND 担当者.部門コード = 部門別経理担当.部門コード

### 3.3.3 振り分けルール定義をチェックする

振り分けルール定義の定義が一とおり終わったら、振り分けルール定義が正しく定義されているかどうかをチェックします。

定義のチェックは、定義を CSCIW に登録するときに自動的に実施されますが、ここでは任意のタイミングで実施する方法について説明します。

振り分けルール定義「商談別営業担当者」を例に、定義をチェックする方法を次に示します。

1. [ナビゲーター] ビューに表示されている振り分けルールの定義ファイル「商談別営業担当者.hcx」をダブルクリックする

振り分けルール定義「商談別営業担当者」が振り分けルール定義エディタ上の最前面に表示されます。

2. メニューの [CSCIW-Definer] - [チェック] を選択する

振り分けルール定義エディタに表示されている振り分けルール定義がチェックされます。チェック結果は、[コンソール] ビューに表示されます。

チェックの結果エラー、または警告があった場合は、振り分けルール定義を修正したあと、再度チェックをしてください。

#### メモ

すでに振り分けルール定義「商談別営業担当者」を振り分けルール定義エディタ上に表示している場合で、かつ複数の定義が振り分けルール定義エディタ上に表示されている場合は、タイトル「商談別営業担当者」をクリックするだけで最前面に表示できます。



### 3.3.4 振り分けルール定義を登録する

振り分けルール定義を、CSCIW に登録する方法を説明します。

ここでは、ワークスペース内に保存してある定義を CSCIW に登録する方法を次に示します。

1. [ナビゲーター] ビューに表示されている「商談別営業担当者.hcx」をダブルクリックする  
振り分けルール定義「商談別営業担当者」が振り分けルール定義エディタ上に表示されます。

2. メニューの [CSCIW-Definer] - [登録] を選択する  
振り分けルール定義を登録するかどうかを確認するメッセージダイアログが表示されます。

3. [はい] ボタンをクリックする

CSCIWManagementServer にログインしていない場合は、[ログイン] ダイアログが表示されるので、ログインします。CSCIWManagementServer にログインすると、定義内容がチェックされたあとで、振り分けルール定義が CSCIW に登録されます。

続けて操作 1.~3.の手順を繰り返して振り分けルール定義「商品別出荷担当者」、および「部門別経理担当者」を CSCIW へ登録します。

4. メニューの [ファイル] - [終了] を選択する

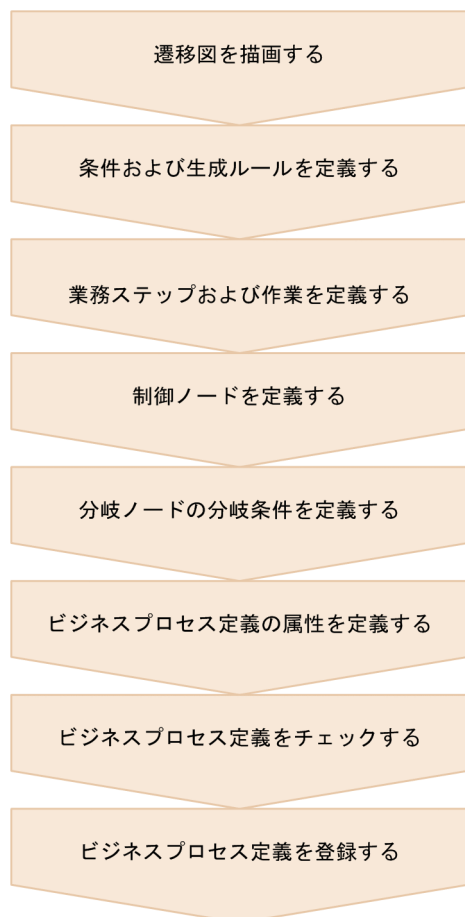
CSCIW-Definer が終了します。

これで、振り分けルール定義の登録は終了です。

## 3.4 ビジネスプロセス定義の定義

この節では、ビジネスプロセス定義の基本的な定義手順を、例題「販売業務」に沿って説明します。ビジネスプロセス定義を定義するときの操作の流れを、次の図に示します。

図 3-8 ビジネスプロセス定義を定義するときの操作の流れ



定義するビジネスプロセス定義の内容については、「3.1.1(2) 例題「販売業務」で定義するビジネスプロセス」を参照してください。

なお、ビュー、ウィザード、ダイアログなど CSCIW-Definer で表示する画面については、「6. CSCIW-Definer の画面構成」を参照してください。

ここでは、遷移図を描画したあとに、ビジネスプロセス定義を構成するオブジェクトの内容を定義していますが、実際にビジネスプロセス定義を定義するときには必要に応じて遷移図とオブジェクトを交互に定義できます。

また、この節では業務ステップ、作業、制御ノード、分岐ノードの分岐条件、ビジネスプロセス定義の属性の順に定義方法を説明していますが、実際にビジネスプロセス定義を定義するときにはその順番にこだわる必要はありません。業務の流れに合わせて定義してください。

## 3.4.1 遷移図を描画する

最初にビジネスプロセス定義の名称やバージョンなどの属性値を設定し、その後アイコンや遷移線を組み合わせて、ビジネスプロセス定義に含まれるオブジェクトとそれらの順序関係を遷移図として描画します。

次に遷移図を描画する方法について説明します。

### (1) ビジネスプロセス遷移エディタの表示

CSCIW-Definer のパースペクティブを開いて、ビジネスプロセス遷移エディタを表示させるまでの操作を次に示します。

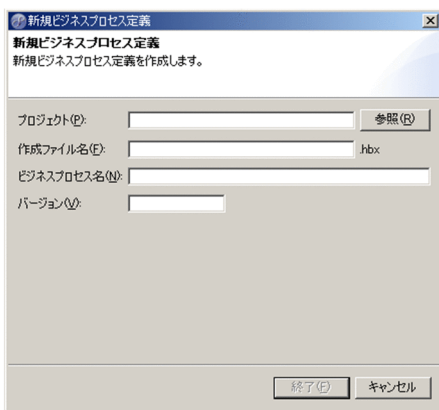
#### 1. CSCIW-Definer のパースペクティブを開く

操作方法については、「[5.1.2 CSCIW-Definer のパースペクティブを開く](#)」を参照してください。

#### 2. メニューの [ファイル] - [新規], またはナビゲータービューのポップアップメニューの [新規] から, [ビジネスプロセス定義] メニューをクリックする

[新規ビジネスプロセス定義] ウィザードが表示されます。

図 3-9 [新規ビジネスプロセス定義] ウィザード



#### 3. [プロジェクト] を選択する

[参照] ボタンを押して、作成した定義ファイルを保存するプロジェクトを選択します。

#### 4. 作成ファイル名を入力する

ファイル名として「販売業務」と入力します。

#### 5. ビジネスプロセス定義名を入力する

ビジネスプロセス定義の定義名として「販売業務」と入力します。

#### 6. バージョン番号を入力する

バージョン番号として「1」を入力します。

#### 7. [終了] ボタンをクリックする

ワークスペース内にビジネスプロセス定義ファイルが作成され、[ナビゲーター] ビューに「販売業務.hbx」が表示されます。

[新規ビジネスプロセス定義] ウィザードは閉じられ、ビジネスプロセス遷移エディタが表示されます。

## (2) アイコンを貼り付ける

ビジネスプロセス定義に含まれるソースノード、業務ステップ、制御ノード、およびシンクノードを [ビジネスプロセス遷移] ビューにアイコンとして貼り付ける方法を次に示します。

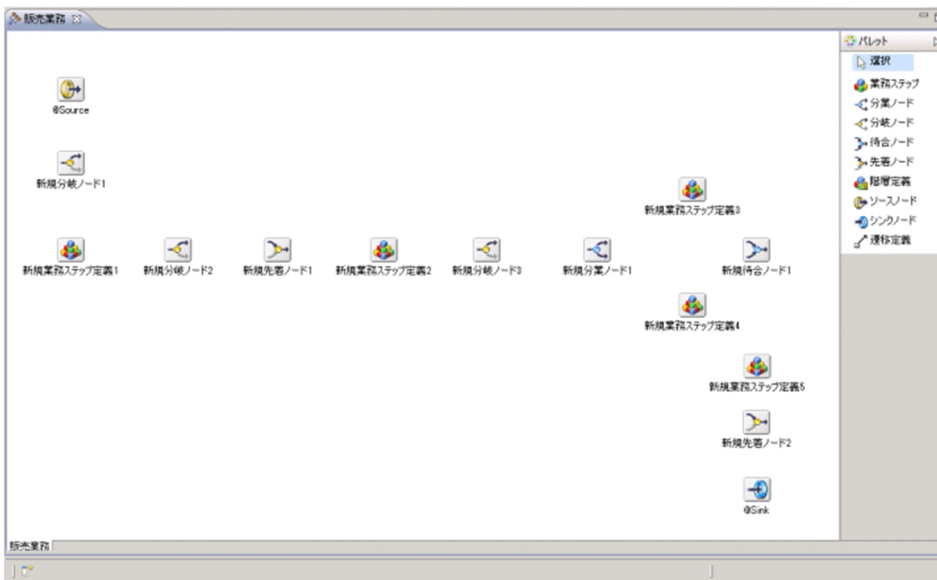
1. 貼り付けたいパレット上のアイコンをクリックする

2. ビジネスプロセス遷移エディタ上の任意の場所をポインタでクリックする

アイコンが貼り付けられます。アイコンを貼り付けたあとでオブジェクトの内容を定義するまでは、アイコンの下に「アイコン名+通し番号」が表示されます。また、ビジネスプロセス遷移エディタにアイコンを貼り付けると、[アウトライン] ビューにもその情報が反映されます。

例題「販売業務」では、次の図に示すように 14 個のアイコンを貼り付けてください。

図 3-10 アイコンを貼り付けた状態のビジネスプロセス遷移エディタ



## (3) 遷移線を描画する

貼り付けたアイコン間を遷移線で接続する方法を次に示します。

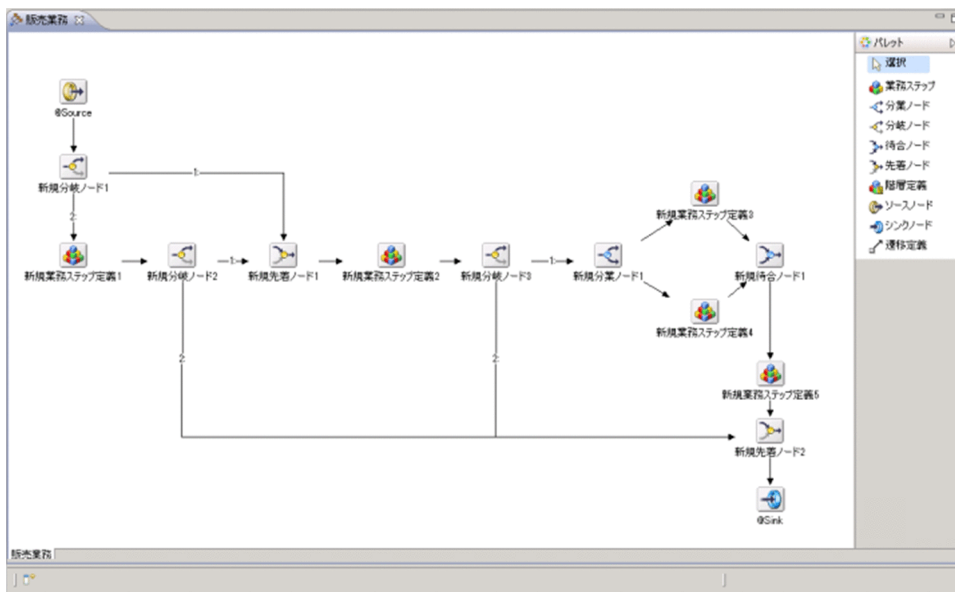
1. パレット上の [遷移定義] アイコンを選択する

2. 遷移線を描画する

ビジネスプロセス遷移エディタ上で、遷移元となるアイコンを選択して、そのまま遷移先となるアイコンまでポインタを移動してドラッグすると、アイコンを遷移線で接続できます。また、遷移の始点とするアイコン、終点とするアイコンの順にアイコンをクリックしても、アイコンを遷移線で接続できます。

例題「販売業務」では、次の図に示すようにアイコン間を遷移線で接続してください。

図 3-11 アイコン間を遷移線で接続したビジネスプロセス遷移エディタ



これでビジネスプロセス定義の遷移図の描画は終了です。

### 3.4.2 条件および生成ルールを定義する

条件および生成ルールは、SQL 文で定義します。

SQL 文を定義するときには考慮する内容、例題「販売業務」で定義する条件および生成ルールについて説明します。

#### (1) SQL 文を定義するときには考慮する内容

SQL 文を定義する場合、ビジネスプロセスを運用したときにワーク管理システムがどのようにデータベースを検索するかを考慮する必要があります。

SQL 文で条件および生成ルールを定義するときには考慮する内容を次の表に示します。

表 3-15 SQL 文で条件および生成ルールを定義するときには考慮する内容

評価対象		評価の戻り値
条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務ステップの完了条件</li> <li>作業の発生条件</li> <li>作業の完了条件</li> <li>分岐条件</li> </ul>	問い合わせ結果が存在する場合は、真とします。問い合わせ結果が存在しない場合は、偽とします。 なお、COUNT(*)を指定すると常に真と見なすので、指定しないこと。
生成ルール	<ul style="list-style-type: none"> <li>並列作業の生成ルール</li> </ul>	問い合わせ結果の先頭列のすべての行に格納された文字列を、子作業の識別子とします。

## SQL 文を記述するときの注意事項

「'」（半角シングルクォーテーション）で囲まれた文字列の間に改行を入れると、「¥n」という改行コードが入っているものとして扱われます（「¥r ¥n」にはなりません）。

## (2) 定義する条件および生成ルール

例題「販売業務」で定義する条件および生成ルールを次の表に示します。

表 3-16 例題「販売業務」で定義する条件（業務ステップの完了条件）

業務ステップ	定義する条件
見積中	見積終了
受注処理待ち	—
請求待ち	—
納品待ち	—
入金待ち	—

(凡例) —：該当しません

表 3-17 例題「販売業務」で定義する条件（作業の発生条件および完了条件）

作業	定義する条件	
	発生条件	完了条件
一般見積作成	一般見積開始	—
特別見積作成	特別見積開始	—
受注登録	—	—
売掛・請求レコード作成	—	—
納品日指示	—	—
納品確認	—	納品確認完了
請求書出力	—	—
入金登録	—	請求書出力完了

(凡例) —：該当しません

表 3-18 例題「販売業務」で定義する条件（作業の分岐条件）

制御ノード	定義する条件
分岐ノード（Source 後）	直接受注
分岐ノード（見積後）	見積完了
先着ノード（受注前）	—

制御ノード	定義する条件
分岐ノード（受注後）	受注完了
分業ノード（請求・納品前）	—
待合ノード（入金前）	—
先着ノード（Sink 前）	—

（凡例） —：該当しません

表 3-19 例題「販売業務」で定義する生成ルール（並列作業の生成ルール）

作業	定義する条件
一般見積作成	—
特別見積作成	—
受注登録	—
売掛・請求レコード作成	—
納品日指示	—
納品確認	納品子作業生成
請求書出力	—
入金登録	—

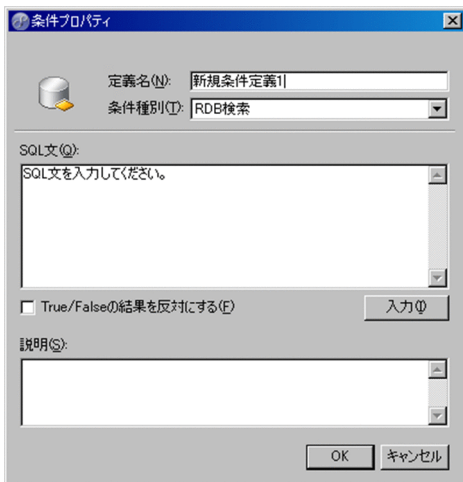
（凡例） —：該当しません

## (a) 条件の定義

条件の定義方法を次に示します。

1. [アウトライン] ビューのビジネスプロセスツリーから [条件] を右クリックし, [新規作成] を選択する  
[条件] の下に [新規条件定義 1] が作成されます。
2. [アウトライン] ビューのビジネスプロセスツリーから [新規条件定義 1] を右クリックし, [プロパティ] を選択する  
[条件プロパティ] ダイアログが表示されます。

図 3-12 [条件プロパティ] ダイアログ



3. 定義名を入力する
4. SQL 文を入力する
5. 必要に応じて説明を入力する
6. [OK] ボタンをクリックする

操作 2.および操作 3.で定義する内容を次に示します。

- 業務ステップ「見積中」で定義する「見積終了」の内容

表 3-20 業務ステップ「見積中」で定義する「見積終了」の内容

項目	定義する内容
定義名	見積終了
SQL 文	select * from 見積 where 商談番号=@PName' and 見積完了フラグ='0N'

- 作業「一般見積作成」で定義する「一般見積開始」の内容

表 3-21 作業「一般見積作成」で定義する「一般見積開始」の内容

項目	定義する内容
定義名	一般見積開始
SQL 文	select * from 商談 where 商談番号=@PName' and 見積区分='1'

- 作業「特別見積作成」で定義する「特別見積開始」の内容

表 3-22 作業「特別見積作成」で定義する「特別見積開始」の内容

項目	定義する内容
定義名	特別見積開始
SQL 文	select * from 商談 where 商談番号=@PName' and 見積区分='2'



- 作業「納品確認」で定義する「納品確認完了」の内容

表 3-23 作業「納品確認」で定義する「納品確認完了」の内容

項目	定義する内容
定義名	納品確認完了
SQL 文	<code>select * from 受注 where 商談番号=@PName' and 納品指示完了フラグ is not null</code>

- 作業「入金登録」で定義する「請求書出力完了」の内容

表 3-24 作業「入金登録」で定義する「請求書出力完了」の内容

項目	定義する内容
定義名	請求書出力完了
SQL 文	<code>select * from 受注 where 商談番号=@PName' and 請求書発行フラグ='ON'</code>

- 制御ノード「分岐ノード (Source 後)」で定義する「直接受注」の内容

表 3-25 制御ノード「分岐ノード (Source 後)」で定義する「直接受注」の内容

項目	定義する内容
定義名	直接受注
SQL 文	<code>select * from 商談 where 商談番号=@PName' and 見積区分='0'</code>

- 制御ノード「分岐ノード (見積後)」で定義する「見積完了」の内容

表 3-26 制御ノード「分岐ノード (見積後)」で定義する「見積完了」の内容

項目	定義する内容
定義名	見積完了
SQL 文	<code>select * from 見積 where 商談番号=@PName' and 見積完了日 is not null</code>

- 制御ノード「分岐ノード (受注後)」で定義する「受注完了」の内容

表 3-27 制御ノード「分岐ノード (受注後)」で定義する「受注完了」の内容

項目	定義する内容
定義名	受注完了
SQL 文	<code>select * from 受注 where 商談番号=@PName' and 受注完了日 is not null</code>

## (b) 生成ルールの定義

生成ルールの定義方法を次に示します。

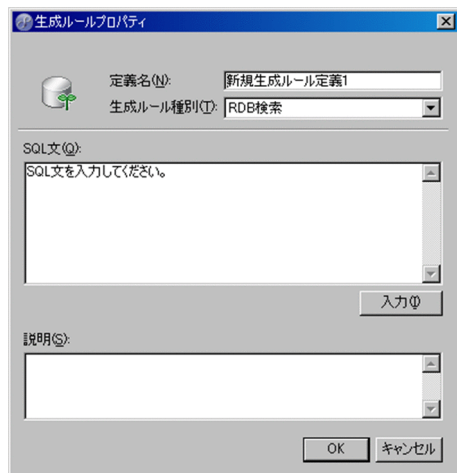
1. [アウトライン] ビューのビジネスプロセスツリーから [生成ルール] を右クリックし、[新規作成] を選択する

[生成ルール] の下に [新規生成ルール定義 1] が作成されます。

2. [アウトライン] ビューのビジネスプロセスツリーから [新規生成ルール定義 1] を右クリックし, [プロパティ] を選択する

[生成ルールプロパティ] ダイアログが表示されます。

図 3-13 [生成ルールプロパティ] ダイアログ



3. 定義名を入力する

4. SQL 文を入力する

5. 必要に応じて説明を入力する

6. [OK] ボタンをクリックする

操作 2.および操作 3.で定義する内容を次に示します。

- 並列作業「納品確認」で定義する「納品子作業生成」の内容

表 3-28 並列作業「納品確認」で定義する「納品子作業生成」の内容

項目	定義する内容
定義名	納品子作業生成
SQL 文	select 納入明細番号 from 納入明細 where 商談番号=@PIName' and 納品指示日 is not null and 納入日 is not null

### 3.4.3 業務ステップおよび作業を定義する

業務ステップ, および業務ステップに含まれる作業の定義方法を説明します。

例題「販売業務」では, 次の表に示す業務ステップ, および業務ステップに含まれる作業を定義します。

表 3-29 定義する業務ステップ、および業務ステップに含まれる作業

業務ステップ	業務ステップに含まれる作業
見積中	一般見積作成, 特別見積作成
受注処理待ち	受注登録
請求待ち	売掛・請求レコード作成
納品待ち	納品日指示, 納品確認
入金待ち	請求書出力, 入金登録

## (1) 業務ステップ「見積中」とその作業の定義

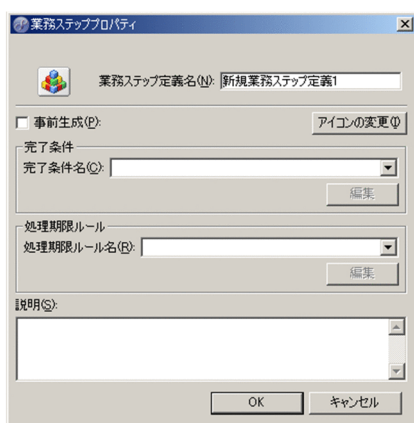
業務ステップ「見積中」、および業務ステップ「見積中」に含まれる作業の定義方法を説明します。

### (a) 業務ステップ「見積中」の定義

業務ステップ「見積中」の定義方法を次に示します。

1. ビジネスプロセス遷移エディタで「新規業務ステップ定義1」アイコン、または[アウトライン]ビューのビジネスプロセスツリーから「新規業務ステップ定義1」を右クリックし、[プロパティ]を選択する  
[業務ステッププロパティ]ダイアログが表示されます。

図 3-14 [業務ステッププロパティ] ダイアログ



2. 業務ステップ定義名を入力する

業務ステップの定義名として「見積中」と入力します。

3. 完了条件を指定する

条件として「見積終了」を選択します。

4. [OK] ボタンをクリックする

ビジネスプロセス遷移エディタに戻ります。次の名称が「見積中」に変更されていることを確認します。

- ビジネスプロセス遷移エディタに表示されている業務ステップのアイコン

- [アウトライン] ビューのビジネスプロセスツリーの項目

これで、業務ステップ「見積中」の定義は終了です。

## (b) 業務ステップ「見積中」の作業の定義

業務ステップ「見積中」に、一般作業として「一般見積作成」、および「特別見積作成」を定義します。

### ●作業「一般見積作成」の定義

作業「一般見積作成」の定義方法を次に示します。

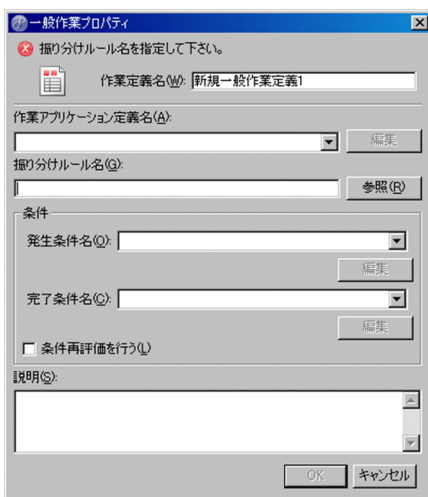
1. [アウトライン] ビューのビジネスプロセスツリーから「見積中」を右クリックし、メニューの[新規作成] - [一般作業] を選択する

[アウトライン] ビューのビジネスプロセスツリーの「見積中」の1階層下に「新規一般作業定義1」が作成されます。

2. 「新規一般作業定義1」を右クリックし、[プロパティ] を選択する

[一般作業プロパティ] ダイアログが表示されます。

図 3-15 [一般作業プロパティ] ダイアログ



3. 作業定義名を入力する

作業の定義名として「一般見積作成」と入力します。

4. 振り分けルール名を入力する

振り分けルール名として「商談別営業担当者」を入力します。

5. 発生条件名を指定する

発生条件として「一般見積開始」を選択します。

6. [OK] ボタンをクリックする

[アウトライン] ビューに戻ります。操作 1. で作成した「新規一般作業定義1」の名称が「一般見積作成」に変更されていることを確認します。

## ●作業「特別見積作成」の定義

作業「特別見積作成」の定義方法を次に示します。

1. [アウトライン] ビューのビジネスプロセスツリーから「見積中」を右クリックし、メニューの [新規作成] - [一般作業] を選択する  
[アウトライン] ビューのビジネスプロセスツリーの「見積中」の1階層下に「新規一般作業定義1」が作成されます。
2. 「新規一般作業定義1」を右クリックし、[プロパティ] を選択する  
[一般作業プロパティ] ダイアログが表示されます。
3. 作業定義名を入力する  
作業の定義名として「特別見積作成」と入力します。
4. 振り分けルール名を入力する  
振り分けルール名として「商談別営業担当者」を入力します。
5. 発生条件名を指定する  
発生条件として「特別見積開始」を選択します。
6. [OK] ボタンをクリックする  
[アウトライン] ビューに戻ります。操作1.で作成した「新規一般作業定義1」の名称が「特別見積作成」に変更されていることを確認します。

## (2) 業務ステップ「受注処理待ち」とその作業の定義

業務ステップ「受注処理待ち」、および業務ステップ「受注処理待ち」に含まれる作業の定義方法を説明します。

### (a) 業務ステップ「受注処理待ち」の定義

業務ステップ「受注処理待ち」の定義方法を次に示します。

1. ビジネスプロセス遷移エディタで「新規業務ステップ定義2」アイコン、または [アウトライン] ビューのビジネスプロセスツリーから「新規業務ステップ定義2」を右クリックし、[プロパティ] を選択する  
[業務ステッププロパティ] ダイアログが表示されます。
2. 業務ステップ定義名を入力する  
業務ステップの定義名として「受注処理待ち」と入力します。
3. [OK] ボタンをクリックする  
ビジネスプロセス遷移エディタに戻ります。次の名称が「受注処理待ち」に変更されていることを確認します。
  - ビジネスプロセス遷移エディタに表示されている業務ステップのアイコン

- [アウトライン] ビューのビジネスプロセスツリーの項目

これで、業務ステップ「受注処理待ち」の定義は終了です。

## (b) 業務ステップ「受注処理待ち」の作業の定義

業務ステップ「受注処理待ち」には、一般作業として「受注登録」を定義します。

1. [アウトライン] ビューのビジネスプロセスツリーから「受注処理待ち」を右クリックし、メニューの [新規作成] - [一般作業] を選択する  
[アウトライン] ビューのビジネスプロセスツリーの「受注処理待ち」の1階層下に「新規一般作業定義1」が作成されます。
2. 「新規一般作業定義1」を右クリックし、[プロパティ] を選択する  
[一般作業プロパティ] ダイアログが表示されます。
3. 作業定義名を入力する  
作業の定義名として「受注登録」と入力します。
4. 振り分けルール名を入力する  
振り分けルール名として「商談別営業担当者」を入力します。
5. [OK] ボタンをクリックする  
[アウトライン] ビューに戻ります。操作1.で作成した「新規一般作業定義1」の名称が「受注登録」に変更されていることを確認します。

## (3) 業務ステップ「請求待ち」とその作業の定義

業務ステップ「請求待ち」、および業務ステップ「請求待ち」に含まれる作業の定義方法を説明します。

### (a) 業務ステップ「請求待ち」の定義

業務ステップ「請求待ち」の定義方法を次に示します。

1. ビジネスプロセス遷移エディタで「新規業務ステップ定義3」アイコン、または [アウトライン] ビューのビジネスプロセスツリーから「新規業務ステップ定義3」を右クリックし、[プロパティ] を選択する  
[業務ステッププロパティ] ダイアログが表示されます。
2. 業務ステップ定義名を入力する  
業務ステップの定義名として「請求待ち」と入力します。
3. [OK] ボタンをクリックする  
ビジネスプロセス遷移エディタに戻ります。次の名称が「請求待ち」に変更されていることを確認します。
  - ビジネスプロセス遷移エディタに表示されている業務ステップのアイコン

- [アウトライン] ビューのビジネスプロセスツリーの項目

これで、業務ステップ「請求待ち」の定義は終了です。

## (b) 業務ステップ「請求待ち」の作業の定義

業務ステップ「請求待ち」には、作業として「売掛・請求レコード作成」を定義します。

1. [アウトライン] ビューのビジネスプロセスツリーから「請求待ち」を右クリックし、メニューの [新規作成] - [一般作業] を選択する  
[アウトライン] ビューのビジネスプロセスツリーの「請求待ち」の1階層下に「新規一般作業定義1」が作成されます。
2. 「新規一般作業定義1」を右クリックし、[プロパティ] を選択する  
[一般作業プロパティ] ダイアログが表示されます。
3. 作業定義名を入力する  
作業の定義名として「売掛・請求レコード作成」と入力します。
4. 振り分けルール名を入力する  
振り分けルール名として「部門別経理担当者」を入力します。
5. [OK] ボタンをクリックする  
[アウトライン] ビューに戻ります。操作1.で作成した「新規一般作業定義1」の名称が「売掛・請求レコード作成」に変更されていることを確認します。

## (4) 業務ステップ「納品待ち」とその作業の定義

業務ステップ「納品待ち」、および業務ステップ「納品待ち」に含まれる作業の定義方法を説明します。

### (a) 業務ステップ「納品待ち」の定義

業務ステップ「納品待ち」の定義方法を次に示します。

1. ビジネスプロセス遷移エディタで「新規業務ステップ定義4」アイコン、または [アウトライン] ビューのビジネスプロセスツリーから「新規業務ステップ定義4」を右クリックし、[プロパティ] を選択する  
[業務ステッププロパティ] ダイアログが表示されます。
2. 業務ステップ定義名を入力する  
業務ステップの定義名として「納品待ち」と入力します。
3. [OK] ボタンをクリックする  
ビジネスプロセス遷移エディタに戻ります。次の名称が「納品待ち」に変更されていることを確認します。
  - ビジネスプロセス遷移エディタに表示されている業務ステップのアイコン



- [アウトライン] ビューのビジネスプロセスツリーの項目

これで、業務ステップ「納品待ち」の定義は終了です。

## (b) 業務ステップ「納品待ち」の作業の定義

業務ステップ「納品待ち」では、次の作業を定義します。

- 作業「納品日指示」で、商談の担当者が商品ごとに納入日を指示します。
- 作業「納品確認」で、出荷担当者が納入作業をします。出荷担当者は商品ごとに違います。各商品担当者は並行して納入作業をします。

作業「納品確認」の定義には、組み込み作業を使います。組み込み作業とは、ワーク管理システムの基本的な機能を組み合わせた作業のことです。

ここでは、組み込み作業の一つである並列作業を使います。

並列作業は、案件が実行されたときに、同じ内容の作業を複数、動的に生成します。生成された作業を子作業と呼びます。作業「納品確認」を並列作業として定義することで、納入のために必要な作業を商品ごとに子作業として生成させることができます。

また、並列作業を定義するときには、子作業を生成するきっかけを作る作業を同一業務ステップ内に定義する必要があります。この作業を親作業と呼びます。この例題の場合は、作業「納品日指示」が親作業となります。

作業「納品日指示」、および作業「納品確認」の定義方法を説明します。

なお、組み込み作業の概要については、マニュアル「uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow システム構築・運用ガイド」を参照してください。

### ●作業「納品日指示」の定義

1. [アウトライン] ビューのビジネスプロセスツリーから「納品待ち」を右クリックし、メニューの[新規作成] - [一般作業] を選択する  
[アウトライン] ビューのビジネスプロセスツリーの「納品待ち」の1階層下に「新規一般作業定義1」が作成されます。
2. 「新規一般作業定義1」を右クリックし、[プロパティ] を選択する  
[一般作業プロパティ] ダイアログが表示されます。
3. 作業定義名を入力する  
作業の定義名として「納品日指示」と入力します。
4. 振り分けルール名を入力する  
振り分けルール名として「商談別営業担当者」を入力します。
5. [OK] ボタンをクリックする



[アウトライン] ビューに戻ります。操作 1. で作成した「新規一般作業定義 1」の名称が「納品日指示」に変更されていることを確認します。

## ●作業「納品確認」の定義

作業「納品確認」の定義方法を次に示します。

1. [アウトライン] ビューのビジネスプロセスツリーから「納品待ち」を右クリックし、メニューの[新規作成] - [並列作業] を選択する  
[アウトライン] ビューのビジネスプロセスツリーの「納品待ち」の「新規並列作業定義 1」の 1 階層下に「新規一般作業定義 1」が作成されます。
2. 「新規並列作業定義 1」を右クリックし、[プロパティ] を選択する  
[並列作業プロパティ] ダイアログが表示されます。
3. 作業定義名を入力する  
作業の定義名として「納品確認」と入力します。
4. [子作業定義名] の [編集] ボタンをクリックする  
並列作業「納品確認」の子作業を定義するための [一般作業プロパティ] ダイアログが表示されます。
5. 作業定義名を入力する  
子作業の定義名として「納品子作業」と入力します。
6. 振り分けルール名を入力する  
振り分けルール名として「商品別出荷担当者」を入力します。
7. [OK] ボタンをクリックする  
[並列作業プロパティ] ダイアログに戻ります。  
[子作業定義名] に「納品子作業」が表示されていることを確認します。
8. 子作業生成ルール名を指定する  
子作業の生成ルールとして「納品子作業生成」を選択します。
9. 完了条件名を指定する  
完了の条件として「納品確認完了」を選択します。
10. [OK] ボタンをクリックする  
[アウトライン] ビューに戻ります。操作 1. で作成した「新規並列作業定義 1」の名称が「納品確認」に変更されていることを確認します。

## (5) 業務ステップ「入金待ち」とその作業の定義

業務ステップ「入金待ち」、および業務ステップ「入金待ち」に含まれる作業の定義方法を説明します。

## (a) 業務ステップ「入金待ち」の定義

業務ステップ「入金待ち」の定義方法を次に示します。

1. ビジネスプロセス遷移エディタで「新規業務ステップ定義5」アイコン、または「アウトライン」ビューのビジネスプロセスツリーから「新規業務ステップ定義5」を右クリックし、[プロパティ] を選択します。

[業務ステッププロパティ] ダイアログが表示されます。

2. 業務ステップ定義名を入力する

業務ステップの定義名として「入金待ち」と入力します。

3. [OK] ボタンをクリックする

ビジネスプロセス遷移エディタに戻ります。次の名称が「入金待ち」に変更されていることを確認します。

- ビジネスプロセス遷移エディタに表示されている業務ステップのアイコン
- 「アウトライン」ビューのビジネスプロセスツリーの項目

これで、業務ステップ「入金待ち」の定義は終了です。

## (b) 業務ステップ「入金待ち」の作業の定義

業務ステップ「入金待ち」には、作業として「請求書出力」、および「入金登録」を定義します。

### ●作業「請求書出力」の定義

作業「請求書出力」の定義方法を次に示します。

1. 「アウトライン」ビューのビジネスプロセスツリーから「入金待ち」を右クリックし、メニューの「新規作成」 - 「一般作業」を選択する

「アウトライン」ビューのビジネスプロセスツリーの「入金待ち」の1階層下に「新規一般作業定義1」が作成されます。

2. 「新規一般作業定義1」を右クリックし、[プロパティ] を選択する

[一般作業プロパティ] ダイアログが表示されます。

3. 作業定義名を入力する

作業の定義名として「請求書出力」と入力します。

4. 振り分けルール名を入力する

振り分けルール名として「部門別経理担当者」を入力します。

5. [OK] ボタンをクリックする

「アウトライン」ビューに戻ります。操作1.で作成した「新規一般作業定義1」の名称が「請求書出力」に変更されていることを確認します。

## ●作業「入金登録」の定義

作業「入金登録」の定義方法を次に示します。

1. [アウトライン] ビューのビジネスプロセスツリーから「入金待ち」を右クリックし、メニューの[新規作成] - [一般作業] を選択する  
[アウトライン] ビューのビジネスプロセスツリーの「入金待ち」の1階層下に「新規一般作業定義1」が作成されます。
2. 「新規一般作業定義1」を右クリックし、[プロパティ] を選択する  
[一般作業プロパティ] ダイアログが表示されます。
3. 作業定義名を入力する  
作業の定義名として「入金登録」と入力します。
4. 振り分けルール名を入力する  
振り分けルール名として「部門別経理担当者」を入力します。
5. 発生条件名を指定する  
発生条件として「請求書出力完了」を選択します。
6. [OK] ボタンをクリックする  
[アウトライン] ビューに戻ります。操作1.で作成した「新規一般作業定義1」の名称が「入金登録」に変更されていることを確認します。

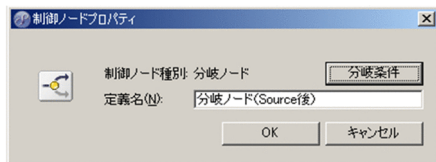
### 3.4.4 制御ノードを定義する

制御ノードは、案件が推進されたとき、処理を分岐させたり、待ち合わせたりするために定義します。

ここでは、分岐ノード「分岐 (Source 後)」を例に、制御ノードのプロパティの定義方法を次に示します。

1. ビジネスプロセス遷移エディタで [新規分岐ノード1] アイコンを右クリックし、[プロパティ] を選択する  
[制御ノードプロパティ] ダイアログが表示されます。  
「制御ノード種別」には「分岐ノード」が表示されています。制御ノード種別は変更できません。
2. 制御ノード名を指定する  
制御ノード名として、「定義名」に「分岐ノード (Source 後)」と入力します。  
[制御ノードプロパティ] ダイアログを次の図に示します。

図 3-16 [制御ノードプロパティ] ダイアログ



### 3. [OK] ボタンをクリックする

ビジネスプロセス遷移エディタに戻ります。ビジネスプロセス遷移エディタに表示されている制御ノードアイコンの制御ノード名が「分岐ノード (Source 後)」に変更されていることを確認します。

これで、分岐ノード「分岐 (Source 後)」のプロパティの定義は終了です。

同様にほかの制御ノードについてもプロパティを定義します。

例題「販売業務」で定義する制御ノードのプロパティを次の表に示します。

表 3-30 例題「販売業務」で定義する制御ノード

プロパティ定義前にアイコンに表示される名称	制御ノード種別	制御ノード名
新規分岐ノード 2	分岐ノード	分岐 (見積後)
新規先着ノード 1	先着ノード	先着 (受注前)
新規分岐ノード 3	分岐ノード	分岐 (受注後)
新規分業ノード 1	分業ノード	分業 (請求・納品前)
新規待合ノード 1	待合ノード	待合 (入金前)
新規先着ノード 2	先着ノード	先着 (Sink 前)

#### メモ

先着ノードでは、ビジネスプロセスを運用したときに複数の入力遷移が起こるおそれがあるため、2つ目以降の入力遷移を停止させる必要があります。そのため、先着ノードのプロパティを定義するときは、必ず「後続停止」を選択してください。

### 3.4.5 分岐ノードの分岐条件を定義する

分岐ノード「分岐 (Source 後)」, 「分岐 (見積後)」, および「分岐 (受注後)」には、ビジネスプロセスを運用したときにどのような条件で処理を分岐させるかを定義する必要があります。この条件を分岐条件と呼びます。各分岐ノードでの分岐条件の定義方法を説明します。

## (1) 分岐ノード「分岐 (Source 後)」の分岐条件

分岐ノード「分岐 (Source 後)」の分岐条件の定義方法を次に示します。

1. ビジネスプロセス遷移エディタで分岐ノード「分岐 (Source 後)」のアイコンを右クリックし、[プロパティ] を選択する  
[制御ノードプロパティ] ダイアログが表示されます。
2. [分岐条件] をクリックする  
[分岐条件の設定] ダイアログが表示されます。「遷移先一覧」に、「先着 (受注前)」および「見積中」が表示されていることを確認します。
3. [遷移先一覧] から「先着 (受注前)」を選択する
4. [分岐条件名] を指定する  
条件の定義名として「直接受注」を選択します。
5. [デフォルト遷移先名] を指定する  
「見積中」を選択します。  
「遷移先一覧」から「見積中」が消えます。
6. [OK] ボタンをクリックする  
[制御ノードプロパティ] ダイアログに戻ります。
7. [OK] ボタンをクリックする  
ビジネスプロセス遷移エディタに戻ります。分岐ノード「分岐 (Source 後)」と先着ノード「先着 (受注前)」の間の遷移線上に「1 : 直接受注」と表示されます。また、分岐ノード「分岐 (Source 後)」と業務ステップ「見積中」の間の遷移線上にデフォルト遷移先であることを表す「D」が表示されます。

これで、ビジネスプロセスが運用されたときに、まず「先着 (受注前)」の分岐条件を評価し、その分岐条件にあてはまらないときは「見積中」に遷移します。

## (2) 分岐ノード「分岐 (見積後)」の分岐条件

分岐ノード「分岐 (見積後)」の分岐条件の定義方法を次に示します。

1. ビジネスプロセス遷移エディタで分岐ノード「分岐 (見積後)」のアイコンを右クリックし、[プロパティ] を選択する  
[制御ノードプロパティ] ダイアログが表示されます。
2. [分岐条件] を選択する  
[分岐条件の設定] ダイアログが表示されます。「遷移先一覧」に、「先着 (受注前)」および「先着 (Sink 前)」が表示されていることを確認します。
3. [遷移先一覧] から「先着 (受注前)」を選択する

#### 4. [分岐条件名] を指定する

条件の定義名として「見積完了」を選択します。

#### 5. [デフォルト遷移先名] を指定する

「先着 (Sink 前)」を選択します。

「遷移先一覧」から「先着 (Sink 前)」が消えます。

#### 6. [OK] ボタンをクリックする

[制御ノードプロパティ] ダイアログに戻ります。

#### 7. [OK] ボタンをクリックする

ビジネスプロセス遷移エディタに戻ります。分岐ノード「分岐 (見積後)」と先着ノード「先着 (受注前)」の間の遷移線上に「1：見積完了」と表示されます。また、分岐ノード「分岐 (見積後)」と先着ノード「先着 (Sink 前)」の間の遷移線上にデフォルト遷移先であることを表す「D」が表示されます。

これで、ビジネスプロセスが運用されたときに、まず「先着 (受注前)」の分岐条件を評価し、その分岐条件にあてはまらないときは「先着 (Sink 前)」に遷移します。

### (3) 分岐ノード「分岐 (受注後)」の分岐条件

分岐ノード「分岐 (受注後)」の分岐条件の定義方法を次に示します。

#### 1. ビジネスプロセス遷移エディタで分岐ノード「分岐 (受注後)」のアイコンを右クリックし、[プロパティ] を選択する

[制御ノードプロパティ] ダイアログが表示されます。

#### 2. [分岐条件] を選択する

[分岐条件の設定] ダイアログが表示されます。「遷移先一覧」に、「分業 (請求・納品前)」, および「先着 (Sink 前)」が表示されていることを確認します。

#### 3. 「遷移先一覧」から「分業 (請求・納品前)」を選択する

#### 4. [分岐条件名] を指定する

条件の定義名として「受注完了」を選択します。

#### 5. [デフォルト遷移先名] を指定します。

「先着 (Sink 前)」を選択します。

「遷移先一覧」から「先着 (Sink 前)」が消えます。

#### 6. [OK] ボタンをクリックする

[制御ノードプロパティ] ダイアログに戻ります。

#### 7. [OK] ボタンをクリックする





チェックの結果エラー，または警告があった場合は，ビジネスプロセス定義を修正したあと，再度チェックをしてください。

### 3.4.7 ビジネスプロセス定義を登録する

ビジネスプロセス定義を，CSCIW に登録する方法を説明します。

ここでは，ワークスペース内に保存してある定義を CSCIW に登録する方法を次に示します。

1. [ナビゲーター] ビューに表示されている「販売業務.hbx」をダブルクリックする

ビジネスプロセス定義「販売業務」がビジネスプロセス遷移エディタ上に表示されます。

2. メニューの「CSCIW-Definer」－「登録」を選択する

ビジネスプロセス定義を登録するかどうかを確認するメッセージダイアログが表示されます。

3. [はい] ボタンをクリックする

CSCIWManagementServer にログインしていない場合は，[ログイン] ダイアログが表示されるので，ログインします。CSCIWManagementServer にログインすると，定義内容がチェックされたあとで，ビジネスプロセス定義が CSCIW に登録されます。

4. メニューの「ファイル」－「終了」を選択する

CSCIW-Definer が終了します。

これで，ビジネスプロセス定義の登録は終了です。



## 3.5 運用状態の確認および操作

ビジネスプロセスを運用するときには、振り分けルール定義、およびビジネスプロセス定義の運用状態が活性になっている必要があります。

### メモ

案件運用操作を使って、振り分けルール定義、およびビジネスプロセス定義の運用状態を確認することもできます。案件運用操作を使った運用状態の確認方法については、マニュアル「uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow 案件運用操作ガイド」を参照してください。

この節では、振り分けルール定義、およびビジネスプロセス定義の運用状態の確認および操作方法を説明します。

なお、ビュー、ウィザード、ダイアログなど CSCIW-Definer で表示する画面については、「6. CSCIW-Definer の画面構成」を参照してください。

### 3.5.1 振り分けルール定義の運用状態を確認する

振り分けルール定義の運用状態の確認および操作方法を説明します。

ここでは、「3.3 振り分けルール定義の定義」で定義した振り分けルール定義「商談別営業担当者」を例に示します。

#### 1. CSCIW-Definer のパースペクティブを開く

操作方法については、「5.1.2 CSCIW-Definer のパースペクティブを開く」を参照してください。

#### 2. [登録定義一覧] ビューの登録定義一覧ツリーを操作して振り分けルール定義の一覧を表示させる

[登録定義一覧] ビューの登録定義一覧ツリーを操作した時点で CSCIWManagementServer にログインしていない場合は、[ログイン] ダイアログが表示されるので、ログインします。

ログインしている場合は、振り分けルール定義の一覧が表示されます。

#### 3. 振り分けルール定義「商談別営業担当者」のアイコンを確認する

運用状態によってアイコンが異なるため、活性かどうかはアイコンで確認できます。

運用状態を操作する場合は、続けて操作 4.~操作 6.を実施してください。

#### 4. アイコンを右クリックし、ポップアップメニューから [属性変更] を選択する

[振り分けルール定義プロパティ] ダイアログが表示されます。

#### 5. [活性] にチェックを入れる

#### 6. [OK] ボタンをクリックする

振り分けルール定義を登録するかどうかを確認するメッセージダイアログが表示されます。

## 7. [はい] ボタンをクリックする

[振り分けルール定義プロパティ] ダイアログを閉じます。

### 注意事項

[登録定義一覧] ウィンドウに表示されているサーバの情報は、ログインしてから時間が経過している場合、更新されていることがありますので、注意してください。

最新の情報を表示したい場合は、[登録定義一覧] ビューで [振り分けルール定義] フォルダをクリックし、ポップアップメニューから [更新] を選択してください。

## 3.5.2 ビジネスプロセス定義の運用状態を確認する

ビジネスプロセス定義の運用状態の確認および操作方法を説明します。

ここでは、「3.4 ビジネスプロセス定義の定義」で定義したビジネスプロセス定義を例に示します。

### 1. CSCIW-Definer のパースペクティブを開く

操作方法については、「5.1.2 CSCIW-Definer のパースペクティブを開く」を参照してください。

### 2. [登録定義一覧] ビューの登録定義一覧ツリーを操作してビジネスプロセス定義の一覧を表示させる

[登録定義一覧] ビューの登録定義一覧ツリーを操作した時点で CSCIWManagementServer にログインしていない場合は、[ログイン] ダイアログが表示されるので、ログインします。

ログインしている場合は、ビジネスプロセス定義の一覧が表示されます。

### 3. ビジネスプロセス定義「販売業務」のアイコンを確認する

運用状態によってアイコンの形状が異なるため、活性かどうかはアイコンで確認できます。

運用状態を操作する場合は、続けて操作 4.~操作 6.を実施してください。

### 4. アイコンを右クリックし、ポップアップメニューから [属性変更] を選択する

[ビジネスプロセス定義プロパティ] ダイアログが表示されます。

### 5. [活性] にチェックを入れる

### 6. [OK] ボタンをクリックする

ビジネスプロセス定義を登録するかどうかを確認するメッセージダイアログが表示されます。

### 7. [はい] ボタンをクリックする

[ビジネスプロセス定義プロパティ] ダイアログを閉じます。

### 注意事項

[登録定義一覧] ウィンドウに表示されているサーバの情報は、ログインしてから時間が経過している場合、更新されていることがありますので、注意してください。

最新の情報を表示したい場合は、[登録定義一覧] ビューの [ビジネスプロセス定義] フォルダをクリックし、ポップアップメニューから [更新] を選択してください。

# 4

## CSCIW-Definer の環境の構築と削除

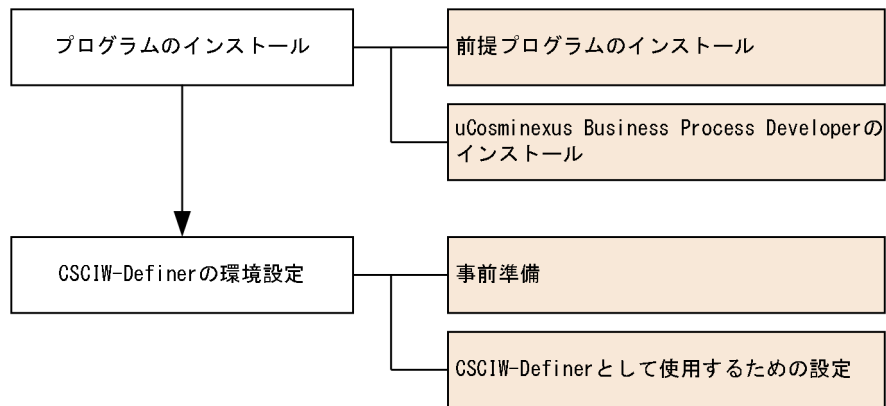
この章では、CSCIW-Definer を使用するための環境の構築方法、および削除方法について説明します。

## 4.1 環境の構築の流れ

CSCIW-Definer を使用してビジネスプロセスを開発，運用する環境をビジネスプロセス定義開発環境と  
いいます。

ビジネスプロセス定義開発環境は，次の図に示す流れで構築します。

図 4-1 ビジネスプロセス定義開発環境の構築の流れ



以降の節では，上記の流れに従って環境構築の手順を説明します。

## 4.2 プログラムのインストール

---

ビジネスプロセス定義開発環境を構築するときにインストールが必要なプログラムについて説明します。

### 4.2.1 前提プログラムのインストール

ビジネスプロセス定義を開発するときに必要な前提プログラムを次に示します。

#### (1) OS

Windows をインストールしてください。インストールについては、インストールする Windows のバージョンに該当する Windows のマニュアルを参照してください。

#### (2) Cosminexus 開発環境

Cosminexus の開発環境を利用するために必要なプログラムです。次のプログラムをインストールしてください。

- uCosminexus Developer

インストールおよび環境構築については、マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ アプリケーション開発ガイド」を参照してください。

#### (3) Eclipse

ビジネスプロセス定義、および振り分けルール定義を開発する場合に必要なプログラムです。CSCIW-Definer 用のプラグインを Eclipse に組み込むことで、ビジネスプロセス管理ツール (CSCIW-Definer) として使用できます。

Eclipse のインストールおよび環境構築については、マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ アプリケーション開発ガイド」を参照してください。

### 4.2.2 uCosminexus Business Process Developer のインストール

インストーラーを使用して、uCosminexus Business Process Developer をインストールする方法を次に示します。

1. Administrators グループのユーザでログインする

2. Setup.exe を起動する

ユーザ名、会社名を入力するダイアログが表示されます。

3. ユーザ名、会社名を入力する

#### 4. [次へ] ボタンをクリックする

インストール先フォルダを指定するダイアログが表示されます。

#### 5. インストール先フォルダを指定する

指定したフォルダの下にインストールされます。

### ❗ 重要

[インストール先のフォルダ] には、次のパスを指定しないでください。

- ネットワークドライブ
- 2 バイトコードを含むパス
- ¥ / : , ; \* ? " < > | \$ & % ^ ' ! ( ) = + { } @ [ ] を含むパス※（ただし、Windows の場合、デフォルト値を除く）
- 半角 129 文字を超えるパス
- 末尾が¥のパス（C:¥ など）

#### 注※

プログラムフォルダ名にも指定できません。; と / は、すべての入力情報にも指定できません。

#### 6. [次へ] ボタンをクリックする

インストール先フォルダを確認するためのダイアログが表示されます。インストール先フォルダを確認してください。

#### 7. [次へ] ボタンをクリックする

インストールが始まります。

インストールが終了すると、インストールが終了したことを通知するダイアログが表示されます。

#### 8. [完了] ボタンをクリックする

インストールが終了します。

### 注意事項

- uCosminexus Business Process Developer をインストールすると、日立ネットワークオブジェクトプラザトレース共通ライブラリもインストールされます。
- uCosminexus Business Process Developer のインストールでは、日立ネットワークオブジェクトプラザトレース共通ライブラリと Cosminexus のインストールパスを取得し、処理を実行するため、Cosminexus を先にインストールする必要があります。
- Cosminexus のインストールディレクトリを変更した場合は、uCosminexus Business Process Developer を、上書きインストールする必要があります。

## 4.3 CSCIW-Definer の環境設定

プログラムをインストールしたあと、ビジネスプロセス管理ツールとして使用するために、CSCIW-Definer の設定が必要です。

この節では、CSCIW-Definer を使用するための環境設定について説明します。

### 4.3.1 事前準備

CSCIW-Definer の環境設定の前に、次に示す設定を済ませておく必要があります。

- Cosminexus 開発環境の設定
- Eclipse の設定

### 4.3.2 CSCIW-Definer として使用するための設定

インストールした uCosminexus Business Process Developer を CSCIW-Definer として使用するには、CSCIW-Definer 用のプラグイン（インストール先の pluginsDefiner ディレクトリ）を Eclipse へ組み込む必要があります。

CSCIW-Definer として使用するための設定手順を次に示します。

作業の前に Eclipse を停止してください。

#### メモ

CSCIW 02-30 以前をお使いの場合

この項で説明する設定手順は、CSCIW 02-30 以前の場合とは異なります。対応するバージョンのマニュアルをご確認ください。

#### (1) eclipse.ini のバックアップの作成

次のファイルをコピーして、任意の場所に退避してください。退避したファイルは、CSCIW-Definer を Eclipse から削除する際、または CSCIW-Definer のバージョンアップの際に使用します。

```
<Eclipseのインストールディレクトリ>\eclipse.ini
```

#### (2) eclipse.ini の編集

eclipse.ini の編集方法を次に示します。



eclipse.ini の先頭行に次の記述を追加してください。

```
-vm  
<Cosminexusのインストールディレクトリ>%jdk%bin%javaw.exe
```

### (3) Eclipse への組み込み

CSCIW-Definer 用のプラグインを Eclipse へ組み込む方法を次に示します。

uCosminexus Business Process Developer のインストール先が、管理者だけに更新権限が与えられているフォルダ（「C:%Program Files」など）の場合、プラグインを組み込んだ Eclipse は、Windows の管理者特権モードで起動してください。

#### 1. link ファイルを組み込む

CSCIW-Definer のインストーラーが生成した jp.co.Hitachi.soft.csciw.link ファイルを組み込みます。jp.co.Hitachi.soft.csciw.link ファイルの格納パスは次のとおりです。

```
<uCosminexus Business Process Developerインストールディレクトリ>%pluginsDefiner
```

jp.co.Hitachi.soft.csciw.link ファイルを次のパスに格納してください。

```
<Eclipseのインストールディレクトリ>%dropins
```

#### ❗ 重要

uCosminexus Business Process Developer のインストールディレクトリに 2 バイト文字が含まれる場合は、プラグインが Eclipse に正しく組み込まれません。

詳細については、「[4.2.2 uCosminexus Business Process Developer のインストール](#)」の手順 5 を参照してください。

#### 2. Eclipse を起動する

CSCIW-Definer の設定を有効にするため、Eclipse を起動してください。構成変更があるため、起動に時間がかかる場合があります。

これで、Eclipse への組み込みは終了です。

プラグインが Eclipse に正しく組み込まれているかどうかを確認してください。確認方法を次に示します。

##### 1. メニューから [ウィンドウ] - [設定] を選択する

[設定] ダイアログが表示されます。

##### 2. [設定] ダイアログのツリービュー (左ペイン) から [CSCIW-Definer] を選択する

右ペインに CSCIW-Definer の設定ページが表示されていることを確認してください。CSCIW-Definer の設定ページが表示されれば、プラグインは Eclipse に正しく組み込まれています。CSCIW-Definer の設定ページが表示されない場合は、Eclipse を再起動したあと、再度確認して操作してください。

## (4) 設定ページで項目を設定する

CSCIW-Definer 用のプラグインの Eclipse への組み込みが完了したら、設定ページで CSCIW-Definer の動作環境を設定します。CSCIW-Definer の動作環境の設定方法を次に示します。

### 1. メニューから [ウィンドウ] - [設定] を選択する

[設定] ダイアログが表示されます。

### 2. [設定] ダイアログのツリービュー (左ペイン) から [CSCIW-Definer] を選択する

右ペインに CSCIW-Definer の設定ページが表示されます。

設定ページは 3 種類あります。設定ページで表示する画面については、「6.2.4(1) [設定] サブメニュー」を参照してください。

各ページで設定する内容を次の表に示します。

表 4-1 設定ページでの各ページで設定する内容

名称	設定内容
[CSCIW-Definer] ページ	CSCIW-Definer で使用する文字コードと遷移図に表示する情報を設定します。 <b>文字コード</b> ビジネスプロセス定義のチェック時、および定義の保存時に使用する文字コードを設定します。なお、設定する文字コードは、ワーク管理データベースで使用する文字コードと同じにします。 <b>ビジネスプロセス遷移図</b> 次の遷移図の作業定義名をタイトルに表示するか、表示しないかを設定します。 <ul style="list-style-type: none"><li>ビジネスプロセス遷移エディタに描画する遷移図</li><li>印刷時に出力される遷移図</li></ul>
[接続先] ページ	CSCIWManagementServer に接続するために次の情報を設定します。 <b>ホスト名</b> CSCIWManagementServer が属するアプリケーションサーバのホスト名 (または IP アドレス) を指定します。 <b>ポート番号</b> CSCIWManagementServer が属するアプリケーションサーバの HTTP 通信または HTTPS 通信の受付ポート番号を指定します。 <b>プロトコル</b> CSCIWManagementServer に接続するためのプロトコルとして HTTPS を使用するか、使用しないかを指定します。 HTTPS を使用する指定をした場合は HTTPS で、指定しない場合は HTTP で通信します。 なお、CSCIWManagementServer との通信は、Java の API を使用しています。そのため、HTTPS 通信を使用する場合は、必要に応じて Eclipse を起動する際に使用している JDK に証明書をインポートする必要があります。証明書のインポートの方法は JDK の説明書を参照してください。
[登録定義一覧ビュー] ページ	ビジネスプロセス定義または振り分けルール定義を一覧表示するときのフィルタ条件を設定します。

名称	設定内容
[登録定義一覧ビュー] ページ	<p><b>ビジネスプロセス定義を一覧表示するときのフィルタ条件</b></p> <p>次の条件を設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 最新バージョンの定義だけ表示するか、すべての定義を表示するか。</li> <li>• 案件投入可能期間内の定義だけ表示するか、すべての定義を表示するか。</li> <li>• 活性状態の定義だけ表示するか、非活性状態の定義だけ表示するか、すべての定義を表示するか。</li> </ul> <p><b>振り分けルール定義を一覧表示するときのフィルタ条件</b></p> <p>次の条件を設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 最新バージョンの定義だけ表示するか、すべての定義を表示するか。</li> <li>• 有効期間内の定義だけ表示するか、すべての定義を表示するか。</li> <li>• 活性状態の定義だけ表示するか、非活性状態の定義だけ表示するか、すべての定義を表示するか。</li> </ul>

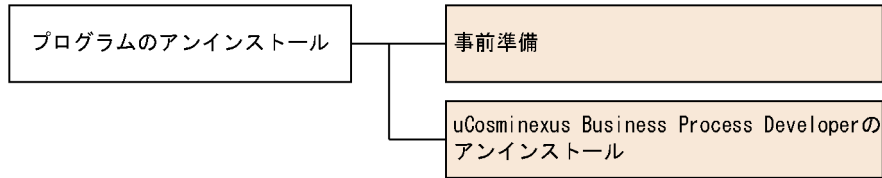
## 4.4 環境の削除の流れ

---

この節では、CSCIW-Definer が動作するビジネスプロセス定義開発環境の削除について説明します。

ビジネスプロセス定義開発環境は、次の図に示す流れで削除します。

図 4-2 ビジネスプロセス定義開発環境の削除の流れ



以降の節では、上記の流れに従って環境削除の手順を説明します。

## 4.5 プログラムのアンインストール

---

この節では、CSCIW-Definer の削除について説明します。

### 4.5.1 事前準備

CSCIW-Definer を削除する前の準備について説明します。

#### (1) 必要ファイルの退避

アンインストール時には環境設定ファイルも削除されます。環境設定ファイルが必要な場合は、アンインストール前に退避してください。

また、出力されたメッセージおよびトレースファイルの情報が必要な場合は、アンインストール前に退避してください。

#### (2) Eclipse に組み込んだプラグインの削除

uCosminexus Business Process Developer をアンインストールする前に、Eclipse に組み込んだ CSCIW-Definer 用のプラグインを削除する必要があります。

次の作業をしてください。

1. eclipse.ini ファイルを「4.3.2(1) eclipse.ini のバックアップの作成」で作成したバックアップに戻してください。
2. 「4.3.2(3) Eclipse への組み込み」で配置した link ファイルを削除してください。
3. 次のコマンドを実行して、Eclipse を起動してください。

```
<Eclipseのインストールディレクトリ>%eclipse.exe -clean
```

#### (3) 注意事項

CSCIW-Definer を Eclipse から削除する場合、CSCIW-Definer のパーспекティブを閉じてから削除してください。CSCIW-Definer のパーспекティブを開いた状態で削除すると、Eclipse を起動したときにパーспекティブ一覧に「<CSCIW-Definer>」という不要な情報が残ることがあります。

パーспекティブ一覧に「<CSCIW-Definer>」が残ってしまった場合は、CSCIW-Definer のパーспекティブを閉じてから、メニューの [ウィンドウ] - [設定] - [一般] - [パーспекティブ] から削除してください。

## 4.5.2 uCosminexus Business Process Developer のアンインストール

コントロールパネルの [アプリケーションの追加と削除] (または [プログラムの追加と削除]) を使用して、uCosminexus Business Process Developer をアンインストールする方法を次に示します。

1. Administrators グループのユーザでログインする

2. コントロールパネルの [アプリケーションの追加と削除] (または [プログラムの追加と削除]) をクリックする

[アプリケーションの追加と削除] (または [プログラムの追加と削除]) ダイアログが表示されます。

3. [uCosminexus Business Process Developer] を選択する

製品名のあとにインストールした際のバージョンも表示されるので、確認してください。

4. [変更と削除] ボタンをクリックする

削除を確認するダイアログが表示されます。

5. [はい] ボタンをクリックする

uCosminexus Business Process Developer のアンインストールが開始されます。アンインストールの中断はできません。

### 重要

このアンインストール操作では、インストール後に作成されたファイル、またはフォルダは削除されません。必要に応じて削除してください。

# 5

## CSCIW-Definer の基本操作

この章では、CSCIW-Definer の基本操作について説明します。

## 5.1 事前準備

この節では、CSCIW-Definer をビジネスプロセス管理ツールとして使用するために事前に準備する内容を説明します。

### 5.1.1 プロジェクトの作成

CSCIW-Definer でビジネスプロセスを定義する前に、定義ファイルを保存するためのプロジェクトを作成します。プロジェクトの作成は、Eclipse の機能を使用します。

プロジェクトの作成については、マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ アプリケーション開発ガイド」の「プロジェクトの作成」の説明を参照してください。

### 5.1.2 CSCIW-Definer のパースペクティブを開く

パースペクティブとは、作業の目的によって必要なビューなどを初期設定した作業環境のことです。CSCIW-Definer のパースペクティブは、「CSCIW-Definer」という名称で登録されています。

CSCIW-Definer パースペクティブの開き方を次に示します。

1. Eclipse を起動する
2. Eclipse のメニューの [ウィンドウ] - [パースペクティブを開く] をクリックする  
CSCIW-Definer のパースペクティブが表示されます。

#### メモ

Eclipse を閉じるときに、CSCIW-Definer のパースペクティブを開いた状態で、メニューの [ファイル] - [終了] をクリックして CSCIW-Definer のパースペクティブを閉じた場合は、Eclipse を起動すると、CSCIW-Definer のパースペクティブが表示されます。

Eclipse のメニューの [ウィンドウ] - [パースペクティブを閉じる] をクリックして、CSCIW-Definer のパースペクティブを閉じた場合は、上記の操作 1.~2.を実施して CSCIW-Definer のパースペクティブを開いてください。



## 5.2 ビジネスプロセスに関する操作

---

この節では、ビジネスプロセス（ビジネスプロセス定義、または振り分けルール定義）の新規作成、チェック、登録などの基本操作について説明します。

### 5.2.1 定義を新規に作成する

ビジネスプロセス定義、または振り分けルール定義を新規に作成するときの操作を次に示します。

#### (1) ビジネスプロセス定義を作成する場合

1. メニューの [ファイル] - [新規]、またはナビゲータービューのポップアップメニューの [新規] から、[ビジネスプロセス定義] メニューをクリックする  
[新規ビジネスプロセス定義] ウィザードが表示されます。
2. [プロジェクト] を選択する  
[参照] ボタンを押して、作成した定義ファイルを保存するプロジェクトを選択します。
3. [作成ファイル名] にファイル名を入力する
4. [ビジネスプロセス名] にビジネスプロセス定義名を入力する
5. [バージョン] にバージョン番号を入力する
6. [終了] ボタンをクリックする  
[新規ビジネスプロセス定義] ウィザードは閉じられ、作成した定義がビジネスプロセス遷移エディタに表示されます。

#### (2) 振り分けルール定義を作成する場合

1. メニューの [ファイル] - [新規]、または [ナビゲーター] ビューのポップアップメニューの [新規] から、[振り分けルール定義] メニューをクリックする  
[新規振り分けルール定義] ウィザードが表示されます。
2. [プロジェクト] を選択する  
[参照] ボタンを押して、作成した定義ファイルを保存するプロジェクトを選択します。
3. [作成ファイル名] にファイル名を入力する
4. [振り分けルール名] に振り分けルール定義名を入力する
5. [バージョン] にバージョン番号を入力する
6. [終了] ボタンをクリックする

[新規振り分けルール定義] ウィザードが閉じられ、作成した定義が振り分けルール定義エディタに表示されます。

## 5.2.2 定義を保存する

ビジネスプロセス遷移エディタ、または振り分けルール定義エディタの開き方とメニューの選択によって保存方法が異なります。エディタの開き方と選択したメニューによる動作の違いを次の表に示します。

表 5-1 エディタの開き方と選択したメニューによる動作の違い

エディタの開き方	保管動作	
	[保管] メニューを選択した場合	[別名保管] メニューを選択した場合
ワークスペース内から開く	元のワークスペース内のリソースに上書きをします。	ワークスペース内の別の場所に保存するためのダイアログを表示します。*
ローカルファイル上から開く	元のローカルファイル上のリソースに上書きをします。	ローカルファイル上の別の場所に保存するためのダイアログを表示します。*
登録定義一覧ビューから開く	ワークスペース内の別の場所に保存するためのダイアログを表示します。*	ワークスペース内の別の場所に保存するためのダイアログを表示します。*

注※

保管または別名保管をするときに別の場所に保存するためのダイアログが表示され、保存先を指定した場合、それ以降の保存ではダイアログで指定した保存先のリソースに上書きをします。

エディタで表示している定義を保存するときの操作を次に示します。

### (1) 新規で保存、または上書き保存する場合

1. メニューの [ファイル] - [保管] をクリックする

[保管] ページが表示されます。

2. 親フォルダを入力、または表示されているツリーからフォルダを選択する

3. ファイル名を入力する

4. [OK] ボタンをクリックする

[保管] ページが閉じられ、作成した定義が振り分けルール定義エディタに表示されます。

### (2) 別名で保存する場合

1. メニューの [ファイル] - [別名保管] をクリックする

[別名保管] ページが表示されます。

2. 親フォルダを入力、または表示されているツリーからフォルダを選択する

3. ファイル名を入力する

4. [OK] ボタンをクリックする

[別名保管] ページが閉じられ、作成した定義が振り分けルール定義エディタに表示されます。

## 5.2.3 定義を開く

ビジネスプロセス定義または振り分けルール定義の定義ファイルを開くときの操作を次に示します。

### (1) ワークスペース内の定義を開く場合

作成中の定義はワークスペース上にあります。ワークスペース上の定義を開く方法を次に示します。

1. ナビゲータビューに表示されている定義の中から、開きたい定義を選択する

2. ダブルクリック、ポップアップメニューの [開く] をクリック、または、エディタ上にドラッグ&ドロップする

選択した定義がビジネスプロセス遷移エディタまたは振り分けルール定義エディタに表示されます。

### (2) ローカルファイル上の定義を開く場合

ローカルファイル上に定義を保存した場合、ビジネスプロセス定義のファイルの拡張子は「.hbx」、振り分けルール定義のファイルの拡張子は「.hcx」になります。

ローカルファイル上に保存した定義を開く方法を次に示します。

1. メニューの [ファイル] - [ファイルを開く] をクリックする

[ファイルを開く] ダイアログが表示されます。

2. 開きたいファイルを選択する

3. [開く] ボタンをクリックする

選択した定義がビジネスプロセス遷移エディタまたは振り分けルール定義エディタに表示されます。

#### メモ

WorkCoordinator Definer で作成した定義を使用したい場合、ローカルファイルに保存してあれば、この方法で開くことができます。

### (3) 登録済みの定義を開く場合

CSCIW に登録済みの定義を開く方法を次に示します。

1. [登録定義一覧] ビューの登録定義一覧ツリーを操作して定義の一覧を表示させる

[登録定義一覧] ビューの登録定義一覧ツリーを操作した時点で CSCIWManagementServer にログインしていない場合は、[ログイン] ダイアログが表示されるので、ログインします。

2. 定義の一覧の中から開きたい定義を選択する

3. ダブルクリック、またはポップアップメニューの [開く] をクリックする

選択した定義がビジネスプロセス遷移エディタまたは振り分けルール定義エディタに表示されます。

## 5.2.4 遷移図を印刷する

ビジネスプロセス遷移エディタで表示している遷移図は常に 1 ページに印刷されます。遷移図が大きい場合は、縮小して 1 ページに収まるように自動補正されます。

ビジネスプロセス定義の定義中に階層定義がある場合は、定義全体の遷移図とは別に階層定義を表示した状態で印刷する必要があります。

ビジネスプロセス遷移エディタで表示している遷移図を印刷するときの操作を次に示します。

1. メニューの [ファイル] - [印刷] をクリック、またはツールバーの印刷用のアイコンをクリックする  
[印刷] ダイアログが表示されます。

2. 出力先プリンタ、用紙サイズなどを確認する  
必要に応じて設定を変更します。

3. [OK] ボタンをクリックする  
[印刷] ダイアログが閉じられ、印刷を開始します。

## 5.2.5 定義をチェックする

ビジネスプロセス遷移エディタまたは振り分けルール定義エディタで表示している定義をチェックするときの操作を次に示します。なお、チェックする内容については、「[2.2.2 定義のチェック](#)」を参照してください。

1. チェックする定義を [ナビゲーター] ビューまたは [アウトライン] ビューで選択する  
ビジネスプロセス定義の場合はビジネスプロセス遷移エディタに、振り分けルール定義の場合は振り分けルール定義エディタに表示されます。

2. メニューの [CSCIW-Definer] - [チェック] をクリックする  
チェック結果が [コンソール] ビューに表示されます。

## 5.2.6 CSCIWManagementServer へログインまたはログアウトする

CSCIWManagementServer へログイン，または CSCIWManagementServer からログアウトするときの操作を次に示します。

### (1) CSCIWManagementServer へログインする場合

1. 登録定義一覧ビューで，ローカルツールバー，またはポップアップメニューから [ログイン] をクリックする  
[ログイン] ダイアログが表示されます。
2. ユーザ ID，パスワードを入力する
3. [OK] ボタンをクリックする  
CSCIWManagementServer へログインします。

### (2) CSCIWManagementServer からログアウトする場合

1. 登録定義一覧ビューで，ローカルツールバーあるいはポップアップメニューから [ログアウト] をクリックする  
CSCIWManagementServer からログアウトします。

## 5.2.7 定義を登録する

ビジネスプロセス遷移エディタ，または振り分けルール定義エディタで表示している定義を登録するときの操作を次に示します。

1. 登録する定義を [ナビゲーター] ビューまたは [アウトライン] ビューで選択する  
ビジネスプロセス定義の場合はビジネスプロセス遷移エディタに，振り分けルール定義の場合は振り分けルール定義エディタに表示されます。
2. メニューの [CSCIW-Definer] - [登録] をクリックする  
ビジネスプロセス定義を登録するかどうかを確認するメッセージダイアログが表示されます。
3. [はい] ボタンをクリックする  
CSCIWManagementServer にログインしていない場合は，[ログイン] ダイアログが表示されるので，ログインします。CSCIWManagementServer にログインすると，定義内容がチェックされたあとで，ビジネスプロセス定義が CSCIW に登録されます。

#### メモ

定義のチェックで警告がある場合，警告内容をメッセージとして出力しますが，定義は CSCIW に登録されます。

## 5.2.8 定義の属性を変更する

ビジネスプロセス定義および振り分けルール定義の属性を変更するときの操作を次に示します。

1. [登録定義一覧] ビューの登録定義一覧ツリーを操作して定義の一覧を表示させる  
[登録定義一覧] ビューの登録定義一覧ツリーを操作した時点で CSCIWManagementServer にログインしていない場合は、[ログイン] ダイアログが表示されるので、ログインします。
2. 登録定義一覧ビューで属性を変更する定義を選択し、ポップアップメニューから「属性変更」をクリックする  
「ビジネスプロセス定義プロパティ」ダイアログ（変更用）、または「振り分けルール定義プロパティ」ダイアログ（変更用）が表示されます。
3. 属性値を変更する
4. [OK] ボタンをクリックする  
定義の属性を変更するかどうかを確認するメッセージダイアログが表示されます。
5. [はい] ボタンをクリックする

## 5.2.9 定義を削除する

ビジネスプロセス定義および振り分けルール定義を削除するときの操作を次に示します。

1. [登録定義一覧] ビューの登録定義一覧ツリーを操作して定義の一覧を表示させる  
[登録定義一覧] ビューの登録定義一覧ツリーを操作した時点で CSCIWManagementServer にログインしていない場合は、[ログイン] ダイアログが表示されるので、ログインします。
2. 登録定義一覧ビューで削除する定義を選択し、ポップアップメニューから「削除」をクリックする  
定義を削除するかどうかを確認するメッセージダイアログが表示されます。
3. [はい] ボタンをクリックする

## 5.3 定義を作成するときの注意事項

この節では、ビジネスプロセス定義および振り分けルール定義を作成するときの注意事項について説明します。

### 5.3.1 設定項目で入力できる文字

各種定義の定義名および設定項目で入力できる文字を次の表に示します。

なお、データベースの文字コードによっては、文字化けが生じることがあるので注意してください。

表 5-2 各種定義の定義名および設定項目で入力できる文字

設定項目	使用可能な文字
定義名	次に示す半角の文字および記号 <ul style="list-style-type: none"><li>• 英文字 (A~Z, a~z)</li><li>• カタカナ (ア~ン, ア~オ, ツ, ヤ, ュ, ヨ)</li><li>• 長音記号「ー」</li><li>• 濁点</li><li>• 半濁点</li><li>• アンダースコア「_」</li><li>• 数字「0~9」</li></ul> 次に示す全角の文字および記号 <ul style="list-style-type: none"><li>• 空白を除いた文字全般</li><li>• 数字全般</li><li>• ダブルクォーテーション「"」およびサーカムフレックスアクセント「^」を除いた記号全般</li></ul>
定義名を除く設定項目	Eclipse で入力できる文字全般

### 5.3.2 改行文字および XML 文書 (CDATA 節の終端文字列) の扱い

CSCIW および CSCIW-Definer では、入力した一部の文字列を変換して扱う場合や不正文字列として扱う場合があります。

改行文字および XML 文書 (CDATA 節の終端文字列) を入力した場合の、CSCIW および CSCIW-Definer の動作内容を次の表に示します。

表 5-3 入力文字列に対する CSCIW および CSCIW-Definer の動作内容

種別	入力文字列	CSCIW および CSCIW-Definer の動作内容 (文字列の扱い)
改行文字	LF (#xA),	すべて LF (#xA) として扱います。



種別	入力文字列	CSCIW および CSCIW-Definer の動作内容 (文字列の扱い)
改行文字	CRLF (#xD#xA), CR (#xD)	すべて LF (#xA) として扱います。
XML 文書の CDATA 節の終端文字列	]]>	不正な値として扱い、エラー処理して終了します。

(凡例)

LF：ラインフィード

CR：キャリッジリターン

### 5.3.3 名称の一意性

ビジネスプロセスを管理する場合、各種定義名称は一意にする必要があります。

名称を一意にするための規則を次に示します。

#### ●ビジネスプロセス名

ビジネスプロセス名とバージョンの組み合わせで一意にします。

#### ●業務ステップ定義名

ビジネスプロセス定義に含まれる業務ステップ定義の中で一意にします。

#### ●一般作業定義の作業定義名、並列作業定義の作業定義名

業務ステップ定義に含まれる一般作業定義および並列作業定義の中で一意にします。

#### ●分業ノード定義、分岐ノード定義、待合ノード定義、先着ノード定義の定義名

ビジネスプロセス定義に含まれる分業ノード定義、分岐ノード定義、待合ノード定義、先着ノード定義の中で一意にします。

#### ●条件定義の定義名

ビジネスプロセス定義に含まれる条件定義の中で一意にします。

#### ●生成ルール定義、時間取得ルール定義の定義名

ビジネスプロセス定義に含まれる生成ルール定義および時間取得ルール定義の中で一意にします。

#### ●作業アプリケーション定義の定義名

ビジネスプロセス定義に含まれる作業アプリケーション定義の中で一意にします。

#### ●階層名

ビジネスプロセス定義に含まれる階層定義の中で一意にします。

#### ●振り分けルール名

振り分けルール名とバージョンの組み合わせで一意にします。



# 6

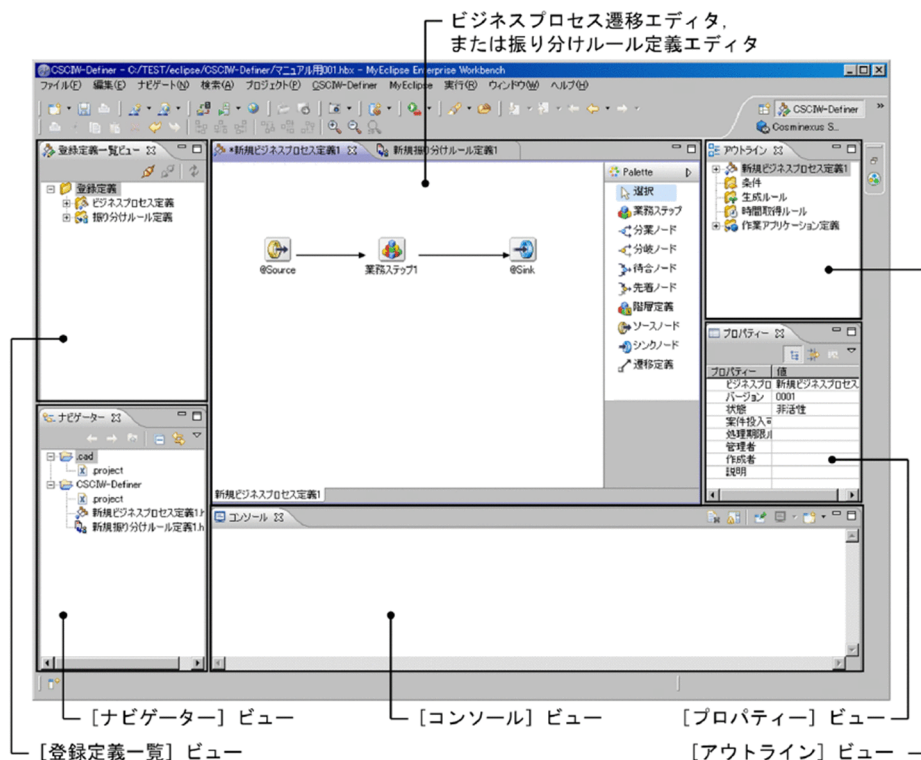
## CSCIW-Definer の画面構成

この章では、CSCIW-Definer の操作中に表示される画面について説明します。

## 6.1 CSCIW-Definer のデフォルト画面

CSCIW-Definer のデフォルト画面の画面構成を次に示します。画面構成は、Eclipse の仕様の範囲内であれば、表示方法、サイズおよび位置を自由に変更できます。

図 6-1 CSCIW-Definer のデフォルト画面の画面構成



デフォルトの画面構成で表示されるビューおよびエディタの一覧を次の表に示します。

表 6-1 デフォルトの画面構成で表示されるビューおよびエディタの一覧

名称	説明
[登録定義一覧] ビュー	ワーク管理データベースに登録されているビジネスプロセス定義および振り分けルール定義の一覧を、ツリー形式で表示します。
[ナビゲーター] ビュー	Eclipse 標準のリソースナビゲーターを表示します。
[アウトライン] ビュー	編集中（[ビジネスプロセス遷移エディタ] のアクティブなタブ）のビジネスプロセス定義の構成をツリー形式で表示します。
[プロパティ] ビュー	[登録定義一覧] ビュー，[アウトライン] ビュー，または [ビジネスプロセス遷移エディタ] で選択したオブジェクトの定義内容を表示します。
ビジネスプロセス遷移エディタ	ビジネスプロセスの遷移図を表示します。また表示した遷移図を編集できます。
振り分けルール定義エディタ	振り分けルール定義の内容を表示します。また表示した内容を編集できます。
[コンソール] ビュー	各種情報（ビジネスプロセス定義のチェック結果など）を表示します。

## 6.2 CSCIW-Definer のメニュー

この節では、CSCIW-Definer パースペクティブを表示したときのメインメニューの構成について説明します。

なお、メニュー項目については、Eclipse の仕様の範囲内であれば、表示方法、およびサイズを自由に変更できます。

### 6.2.1 [ファイル] メニュー

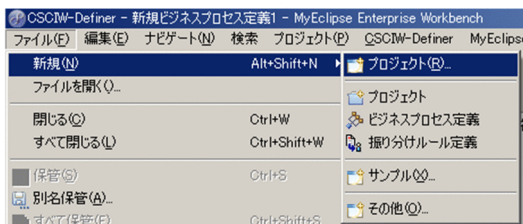
CSCIW-Definer の [ファイル] メニューは、Eclipse の [ファイル] メニューを利用します。そのため、設定を変更しなければ、表示される項目、各項目のアイコン、動作、有効性、ショートカット、アクセラレータキー、表示文字列は、Eclipse の標準仕様に従います。

[ファイル] メニューの中で、CSCIW-Definer の動作に関するサブメニューの内容を次に示します。

#### (1) [新規] サブメニュー

[ファイル] メニューの [新規] サブメニューを次に示します。

図 6-2 [新規] サブメニュー



[新規] サブメニューの各項目について説明します。

#### [プロジェクト]

選択した場合は、Eclipse 標準仕様に従い、[新規プロジェクトウィザード選択] ダイアログが起動されます。

CSCIW-Definer では、このメニューは使用しません。

#### [プロジェクト]

選択した場合は、Eclipse 標準仕様に従い、[新規プロジェクト・リソース作成] ウィザードが起動されます。

CSCIW-Definer では、このメニューは使用しません。

#### [ビジネスプロセス定義]

[新規ビジネスプロセス定義] ウィザードを起動する場合に選択します。

## [振り分けルール定義]

[新規振り分けルール定義] ウィザードを起動する場合に選択します。

## [サンプル]

選択した場合は、Eclipse 標準仕様に従い、[新規サンプルウィザード選択] ダイアログが起動されます。  
CSCIW-Definer では、このメニューは使用しません。

## [その他]

選択した場合は、Eclipse 標準仕様に従い、[新規ウィザード選択] ダイアログが起動されます。  
CSCIW-Definer では、このメニューは使用しません。

## (2) [保管] および [別名保管] メニュー

[保管] メニューは、ビジネスプロセス遷移エディタまたは振り分けルール定義エディタがアクティブで、かつ変更が加えられているときに有効になります。[別名保管] メニューは、ビジネスプロセス遷移エディタまたは振り分けルール定義エディタが開いているときに有効になります。また、エディタの開き方とメニューの選択によって保管方法が異なります。エディタの開き方と選択したメニューによる動作の違いを次の表に示します。

表 6-2 エディタの開き方と選択したメニューによる動作の違い

エディタの開き方	動作	
	[保管] メニューを選択した場合	[別名保管] メニューを選択した場合
ワークスペース内から開く	元のワークスペース内のリソースに上書きをします。	ワークスペース内の別の場所に保存するためのダイアログを表示します。*
ローカルファイルシステムから開く	元のローカルファイルシステムのファイルに上書きをします。	ローカルファイルシステムの別の場所に保存するためのダイアログを表示します。*
登録定義一覧ビューから開く	ワークスペース内の別の場所に保存するためのダイアログを表示します。*	ワークスペース内の別の場所に保存するためのダイアログを表示します。*

注※

保管または別名保管をするときに別の場所に保存するためのダイアログが表示され、保存先を指定した場合、それ以降の保存ではダイアログで指定した保存先のリソースに上書きをします。

## (3) [更新] メニュー

[更新] メニューを選択したときの動作は、対象となるビューまたはエディタがアクティブかどうかによって異なります。

更新の対象と [更新] メニューを選択したときの動作の関係を次の表に示します。

表 6-3 更新の対象と [更新] メニューを選択したときの動作の関係

更新の対象	メニュー選択時の動作
[登録定義一覧] ビュー	—

更新の対象	メニュー選択時の動作
[ナビゲーター] ビュー	Eclipse 標準仕様に従います。
[プロパティ] ビュー	
[コンソール] ビュー	
[アウトライン] ビュー	-
ビジネスプロセス遷移エディタ	
振り分けルール定義エディタ	

(凡例)

- : なし (メニューは常に非活性)

## (4) [印刷] メニュー

[印刷] メニューを選択したときの動作は、対象となるビューまたはエディタがアクティブかどうかによって異なります。

印刷の対象と [印刷] メニューを選択したときの動作の関係を次の表に示します。

表 6-4 印刷の対象と [印刷] メニューを選択したときの動作の関係

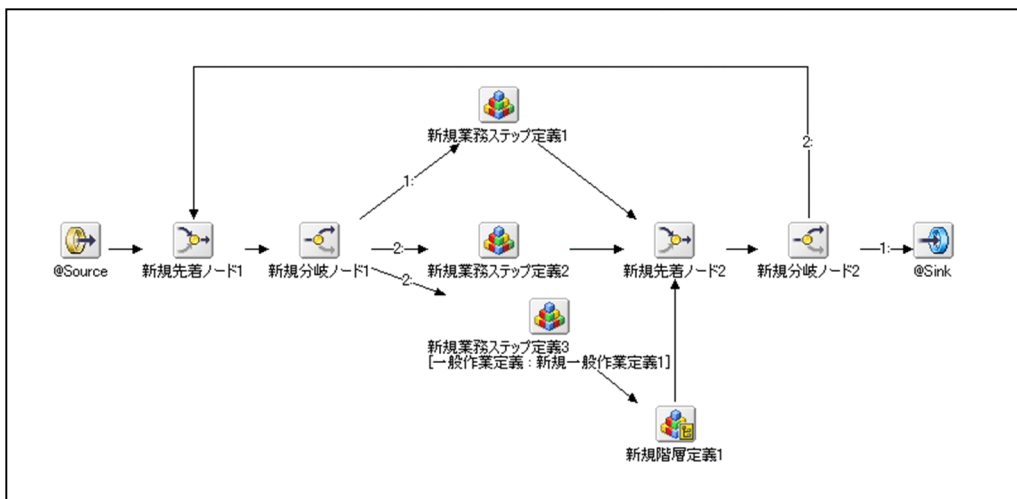
印刷の対象	メニュー選択時の動作
[登録定義一覧] ビュー	-
[ナビゲーター] ビュー	Eclipse 標準仕様に従います。
[プロパティ] ビュー	
[コンソール] ビュー	
[アウトライン] ビュー	-
ビジネスプロセス遷移エディタ	遷移図を 1 ページに印刷します。
振り分けルール定義エディタ	-

(凡例)

- : なし (メニューは常に非活性)

印刷イメージとしてビジネスプロセス遷移エディタの例を次の図に示します。

図 6-3 印刷イメージ (ビジネスプロセス遷移エディタの例)



## (5) [最近使ったファイル] リスト

[ファイル] メニューの [最近使ったファイル] リストへの追加の有無は、ファイルの開き方によって動作が異なります。ファイルの開き方と「最近使ったファイル」リストへの追加の有無を次の表に示します。

表 6-5 ファイルの開き方と「最近使ったファイル」リストへの追加の有無

エディタの開き方	リストへの追加の有無
ワークスペース内から開く	あり
ローカルファイルシステムから開く	あり
登録定義一覧ビューから開く	なし

## 6.2.2 [編集] メニュー

CSCIW-Definer の「編集」メニューは、Eclipse の [ファイル] メニューを利用します。そのため、CSCIW-Definer 用に変更を加えなければ、表示される項目、各項目のアイコン、ショートカット、アクセラレータキー、表示文字列は、Eclipse の標準仕様に従います。

[編集] メニューの活性の条件は、対象となるビューまたはエディタがアクティブかどうかによって異なります。

[編集] メニューの活性の条件を次の表に示します。

表 6-6 [編集] メニューの活性の条件

編集の対象	活性の条件
[登録定義一覧] ビュー	活性の条件は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [削除]</li> </ul>

編集の対象	活性の条件
[登録定義一覧] ビュー	ビジネスプロセス定義または振り分けルール定義を選択した場合 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [削除] 以外</li> </ul> なし（すべて非活性）
[アウトライン] ビュー	ポップアップメニューと同じです。 ポップアップメニューについては、「6.4.3(2) ポップアップメニュー」を参照してください。
[プロパティ] ビュー	Eclipse 標準仕様に従います。
ビジネスプロセス遷移エディタ	[すべて選択]（常に活性）以外は、ポップアップメニューと同じです。 ポップアップメニューについては、「6.5.1(1) 遷移図の表示エリアでできる操作」を参照してください。
振り分けルール定義エディタ	なし（すべて非活性）。 ただし、ショートカットによって文字列の編集だけはできます。
[ナビゲーター] ビュー	Eclipse 標準仕様に従います。
[コンソール] ビュー	

## 6.2.3 [CSCIW-Definer] メニュー

[CSCIW-Definer] メニュー，ビジネスプロセス遷移エディタまたは振り分けルール定義エディタがアクティブな場合だけ，Eclipse のメニューバーに表示されます。

表示される [CSCIW-Definer] メニューを次の図に示します。

図 6-4 [CSCIW-Definer] メニュー



[CSCIW-Definer] メニューの各項目について説明します。

### [プロパティ]

[ビジネスプロセス定義プロパティ] ダイアログ（定義用）を表示する場合に選択します。

この項目は，ビジネスプロセス遷移エディタがアクティブな場合だけ選択できます。

### [チェック]

ビジネスプロセス定義および振り分けルール定義の定義内容をチェックする場合に選択します。

### [登録]

ビジネスプロセス定義および振り分けルール定義をワーク管理システムに登録する場合に選択します。

## 6.2.4 [ウィンドウ] メニュー

CSCIW-Definer の [ウィンドウ] メニューは、Eclipse の [ウィンドウ] メニューを利用します。そのため、CSCIW-Definer 用に変更を加えなければ、表示される項目、各項目のアイコン、動作、有効性、ショートカット、アクセラレータキー、表示文字列は、Eclipse の標準仕様に従います。

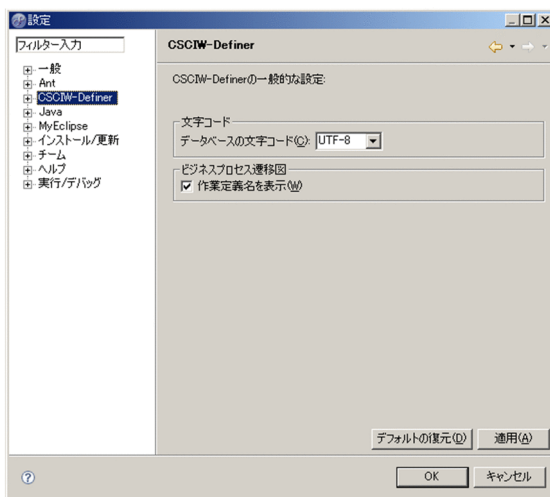
[ウィンドウ] メニューの中で、CSCIW-Definer の動作に関するサブメニューの内容を次に示します。

### (1) [設定] サブメニュー

[ウィンドウ] メニューの [設定] サブメニューを選択すると、CSCIW-Definer の動作に必要な情報を設定する設定ページが Eclipse の設定ダイアログ内に表示されます。

設定ページの画面を次の図に示します。

図 6-5 設定ページ



CSCIW-Definer の動作に必要な情報を設定する設定ページの一覧を次の表に示します。

表 6-7 設定ページの一覧

名称	説明
CSCIW-Definer ページ	CSCIW-Definer の一般的な設定をするページ
接続先ページ	CSCIWManagementServer の接続先を設定するページ
登録定義一覧ビューページ	登録定義一覧ビューのフィルタ条件を設定するページ

次に各設定ページの内容を示します。

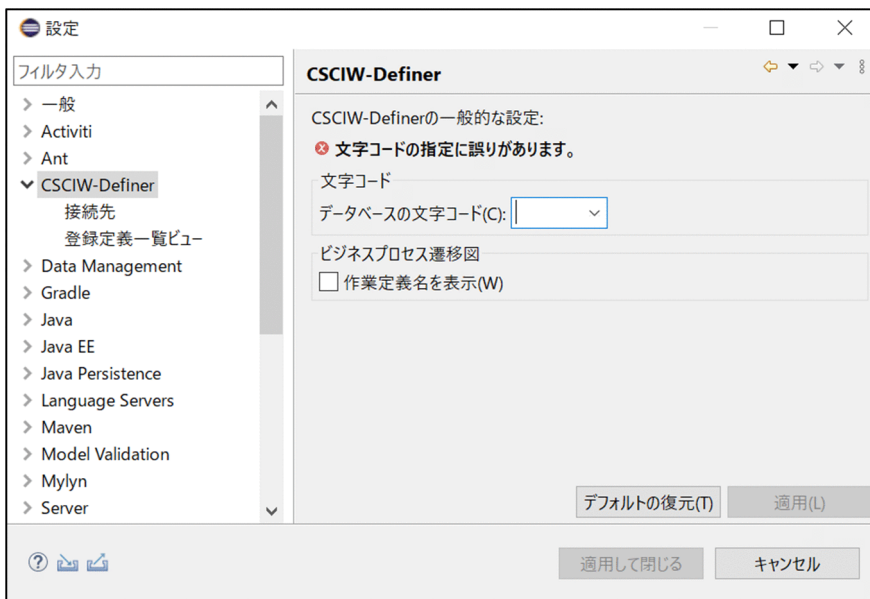
#### (a) CSCIW-Definer ページ

CSCIW-Definer ページでは、CSCIW-Definer の一般的な設定をします。

CSCIW-Definer ページを次に示します。



図 6-6 CSCIW-Definer ページ



CSCIW-Definer ページの各項目について説明します。

#### [文字コード]

##### [データベースの文字コード]

文字コードを入力、またはリストボックスから選択します。

デフォルトは「UTF-8」です。

#### [ビジネスプロセス遷移図]

##### [作業定義名を表示]

ビジネスプロセス遷移エディタに描画する遷移図、および保守情報として出力する遷移図の作業定義名をタイトルに表示する場合にチェックします。

デフォルトではチェックされていません。

#### [デフォルトの復元]

各項目の設定をデフォルトに戻します。

#### [適用]

各項目の設定を有効にします。

#### [適用して閉じる]

CSCIW-Definer ページを閉じます。各項目で設定した内容が反映されます。

#### [キャンセル]

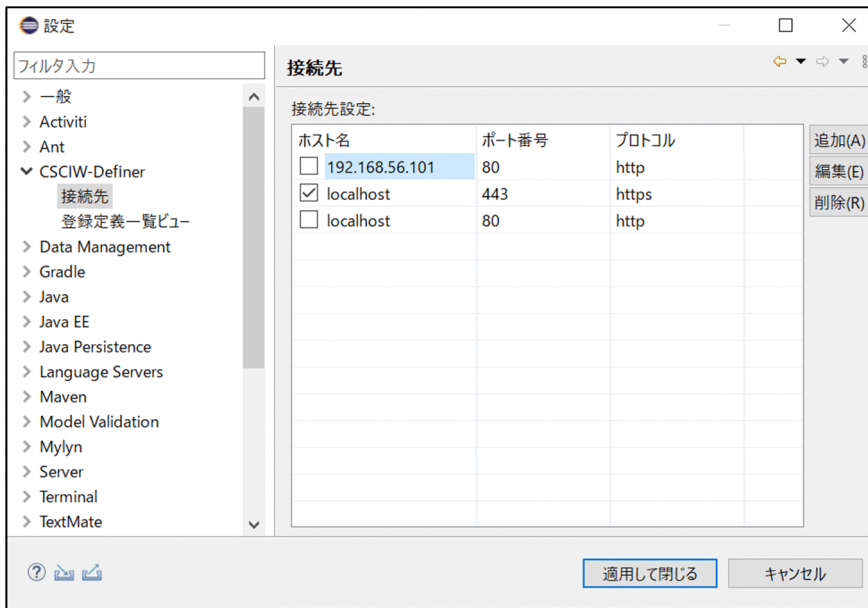
CSCIW-Definer ページを閉じます。各項目で設定した内容は反映されません。

### (b) 接続先ページ

接続先ページでは、CSCIWManagementServer へ接続するための設定をします。

接続先ページを次に示します。

図 6-7 接続先ページ



接続先ページの各項目について説明します。

#### [ホスト名]

[接続先設定] ダイアログで登録した接続先ホストの名称が表示されます。

登録したデータがない場合は、空欄です。

接続先ホストを指定する場合は、対象データのホスト名のチェックボックスをチェックします。

#### [ポート番号]

[接続先設定] ダイアログで登録済みの接続先ホストのポート番号が表示されます。

登録したデータがない場合は、空欄です。

#### [プロトコル]

[接続先設定] ダイアログで登録した [HTTPS を使用する] チェックボックスのチェック状態によって、次のように表示されます。

[HTTPS を使用する] チェックボックスにチェックあり：HTTPS

[HTTPS を使用する] チェックボックスにチェックなし：HTTP

#### [追加] ボタン

接続先ホストのデータを追加する場合にクリックします。

このボタンをクリックすると、[接続先設定] ダイアログが表示されます。

#### [編集] ボタン

登録済みの接続先ホストのデータを変更する場合にクリックします。

データが選択されていない場合は、このボタンは非活性になります。

このボタンをクリックすると、[接続先設定] ダイアログが表示されます。

## [削除] ボタン

登録済みの接続先ホストのデータを削除する場合にクリックします。

削除する場合は、対象のデータのホスト名を選択してから、このボタンをクリックします。

データが選択されていない場合は、このボタンは非活性になります。

## [適用して閉じる] ボタン

接続先ページを閉じます。各項目で設定した内容が反映されます。

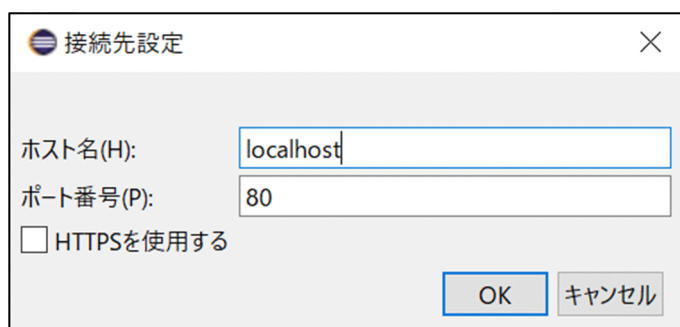
## [キャンセル] ボタン

接続先ページを閉じます。各項目で設定した内容は反映されません。

## ● [接続先設定] ダイアログ

[接続先設定] ダイアログを次に示します。

図 6-8 [接続先設定] ダイアログ



[接続先設定] ダイアログの各項目について説明します。

### [ホスト名]

接続先ホストの名称を入力します。

### [ポート番号]

接続先ホストのポート番号を入力します。

### [HTTPS を使用する]

CSCIWManagementServer に接続するためのプロトコルとして HTTPS を使用するかどうかを指定します。HTTPS を使用する場合は、チェックボックスをチェックします。なお、CSCIWManagementServer との通信は、Java の API を使用しています。そのため、HTTPS 通信を使用する場合は、必要に応じて Eclipse を起動する際に使用している JDK に証明書をインポートする必要があります。証明書のインポートの方法は JDK の説明書を参照してください。

### [OK]

[接続先設定] ダイアログを閉じます。各項目で設定した内容が反映されます。

### [キャンセル]

[接続先設定] ダイアログを閉じます。各項目で設定した内容は反映されません。

## 重要

ログインした状態で接続先の設定を変更した場合、自動的にログアウトします。

### (c) 登録定義一覧ビューページ

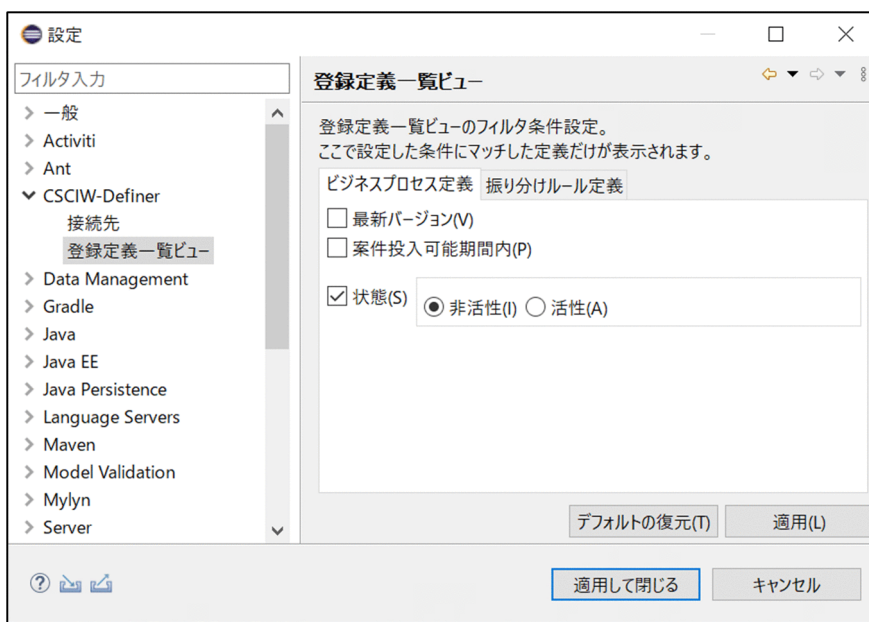
登録定義一覧ビューページでは、ビジネスプロセス定義または振り分けルール定義の一覧を表示するときのフィルタ条件（表示条件）を設定します。

登録定義一覧ビューを次に示します。

#### ●登録定義一覧ビューページ（ビジネスプロセス定義タブ）

登録定義一覧ビューページ（ビジネスプロセス定義タブ）を次に示します。

図 6-9 登録定義一覧ビューページ（ビジネスプロセス定義タブ）



登録定義一覧ビューページ（ビジネスプロセス定義タブ）の各項目について説明します。

#### [最新バージョン]

最新バージョン（いちばん大きいバージョン番号）のビジネスプロセス定義を表示する場合にチェックします。

デフォルトではチェックされていません。

#### [案件投入可能期間内]

案件投入期間内のビジネスプロセス定義を表示する場合にチェックします。

デフォルトではチェックされていません。

#### [状態]

運用属性が活性のビジネスプロセス定義だけを表示、または非活性のビジネスプロセス定義だけを表示する場合にチェックします。

運用属性の状態に関係なく、すべてのビジネスプロセス定義を表示させたい場合は、この項目をチェックしないでください。

デフォルトではチェックされていません。

この項目をチェックすると次の項目が活性になります。

#### [非活性]

非活性状態のビジネスプロセス定義だけを表示する場合にチェックします。

#### [活性]

活性状態のビジネスプロセス定義だけを表示する場合にチェックします。

#### [デフォルトの復元] ボタン

各項目の設定をデフォルトに戻します。

#### [適用] ボタン

各項目の設定を有効にします。

#### [適用して閉じる] ボタン

CSCIW-Definer ページを閉じます。各項目で設定した内容が反映されます。

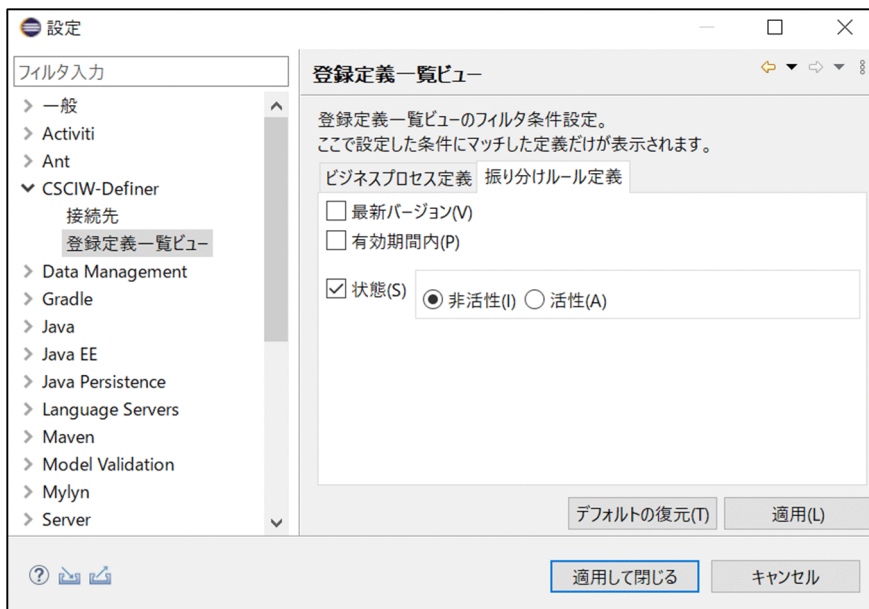
#### [キャンセル] ボタン

CSCIW-Definer ページを閉じます。各項目で設定した内容は反映されません。

### ●登録定義一覧ビューページ（振り分けルール定義タブ）

登録定義一覧ビューページ（振り分けルール定義タブ）を次に示します。

図 6-10 登録定義一覧ビューページ（振り分けルール定義タブ）



登録定義一覧ビューページ（振り分けルール定義タブ）の各項目について説明します。

#### [最新バージョン]

最新バージョンの振り分けルール定義を表示する場合にチェックします。

デフォルトではチェックされていません。

#### [有効期間内]

有効期間内の振り分けルール定義だけを表示する場合にチェックします。

デフォルトではチェックされていません。

#### [状態]

運用属性が活性の振り分けルール定義だけを表示、または非活性の振り分けルール定義だけを表示する場合にチェックします。

運用属性の状態に関係なく、すべての振り分けルール定義を表示させたい場合は、この項目をチェックしないでください。

デフォルトではチェックされていません。

この項目をチェックすると次の項目が活性になります。

#### [非活性]

非活性状態の振り分けルール定義だけを表示する場合にチェックします。

#### [活性]

活性状態の振り分けルール定義だけを表示する場合にチェックします。

#### [デフォルトの復元]

各項目の設定をデフォルトに戻します。

#### [適用]

各項目の設定を有効にします。

#### [適用して閉じる]

CSCIW-Definer ページを閉じます。各項目で設定した内容が反映されます。

#### [キャンセル]

CSCIW-Definer ページを閉じます。各項目で設定した内容は反映されません。

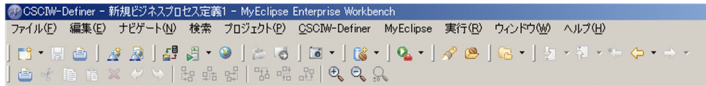
## 6.3 ツールバー

この節では、CSCIW-Definer パースペクティブを表示したときのツールバーに表示できるアイコンについて説明します。

ツールバーには、Eclipse の標準仕様のほかに、CSCIW-Definer 固有の機能のアイコンが表示できます。

ツールバーを次に示します。

図 6-11 ツールバー



ツールバーに表示できるアイコンの機能を次に示します。

- 印刷
- 切り取り
- コピー
- 貼り付け
- 削除
- 元に戻す
- やり直し
- 左寄せ
- 中央寄せ（左右）
- 右寄せ
- 上寄せ
- 中央寄せ（上下）
- 下寄せ
- 拡大
- 縮小
- 元のサイズに戻す

次に CSCIW-Definer 固有のアイコンを示します。



### 6.3.1 CSCIW-Definer 固有のアイコン



CSCIW-Definer 固有のアイコンの一覧を次の表に示します。

表 6-8 アイコン一覧

アイコン	種別
	CSCIW-Definer
	ビジネスプロセス定義
	ビジネスプロセス定義 (非活性)
	振り分けルール定義
	振り分けルール定義 (非活性)
	プロパティ
	開く
	新規作成
	更新
	登録定義フォルダ
	ビジネスプロセス定義フォルダ
	振り分けルール定義フォルダ
	ログイン
	ログアウト
	条件フォルダ
	生成ルールフォルダ
	時間取得ルールフォルダ
	作業アプリケーション定義フォルダ
	業務ステップ定義 (1)
	業務ステップ定義 (2)
	業務ステップ定義 (3)



アイコン	種別
	業務ステップ定義 (4)
	業務ステップ定義 (5)
	業務ステップ定義 (6)
	業務ステップ定義 (7)
	一般作業定義
	並列作業定義
	ソースノード
	シンクノード
	分業ノード定義
	分岐ノード定義
	待合ノード定義
	先着ノード定義
	条件定義 (RDB 検索)
	条件定義 (Java)
	生成ルール定義 (RDB 検索)
	生成ルール定義 (Java)
	時間取得ルール定義 (相対時間)
	作業アプリケーション定義 (Java)
	作業アプリケーション定義 (REST)
	階層定義 (1)
	階層定義 (2)
	階層定義 (3)

アイコン	種別
	階層定義（４）
	階層定義（５）
	階層定義（６）
	階層定義（７）
	遷移定義
	拡大
	縮小
	元のサイズに戻す
	カレンダー
	前月
	次月
	前年
	次年

## 6.4 CSCIW-Definer のビュー

この節では、CSCIW-Definer で使用する各種ビューについて説明します。

CSCIW-Definer のビューの一覧を次の表に示します。

表 6-9 CSCIW-Definer のビューの一覧

名称	説明
[登録定義一覧] ビュー	ワーク管理データベースに登録されているビジネスプロセス定義および振り分けルール定義の一覧を、ツリー形式で表示します。
[ナビゲーター] ビュー	Eclipse 標準のリソースナビゲーターを表示します。
[アウトライン] ビュー	編集集中（「ビジネスプロセス遷移エディタ」のアクティブなタブ）のビジネスプロセス定義の構成をツリー形式で表示します。
[プロパティ] ビュー	各種ビューまたは各種エディタで選択したオブジェクトの定義内容を表示します。
[コンソール] ビュー	各種情報（ビジネスプロセス定義のチェック結果など）を表示します。

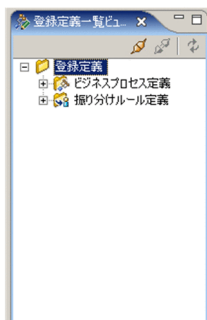
次に画面に表示されるビューの内容を示します。

### 6.4.1 [登録定義一覧] ビュー

[登録定義一覧] ビューは、ワーク管理データベースに登録されているビジネスプロセス定義および振り分けルール定義の一覧を、ツリー形式で表示します。

[登録定義一覧] ビューを次に示します。

図 6-12 [登録定義一覧] ビュー






次に [登録定義一覧] ビューに表示されるローカル・ツールバー、登録定義一覧ツリー、およびポップアップメニューについて説明します。

## (1) ローカル・ツールバー

[登録定義一覧] ビューで表示されるローカル・ツールバーに表示されるアイコンの機能を次の表に示します。

表 6-10 [登録定義一覧] ビューのローカル・ツールバーに表示されるアイコンの機能

アイコン	機能
	ワーク管理システムへログインします。
	ワーク管理システムからログアウトします。
	ビューの表示内容を、最新の情報に更新します。

## (2) 登録定義一覧ツリー

登録定義一覧ツリーは、登録されているビジネスプロセス定義および振り分けルール定義をツリー形式で表示します。

登録定義一覧ツリーの表示項目について説明します。

### [登録定義]

ビジネスプロセス定義および振り分けルール定義が登録されているワーク管理システムを示します。

[登録定義] は 1 つだけ表示されます。

### [ビジネスプロセス定義]

登録済みのビジネスプロセス定義がある場合は、このフォルダの 1 階層下に「ビジネスプロセス定義名-バージョン」で表示されます。登録済みのビジネスプロセス定義がない場合は、このフォルダの下には何も表示されません。

### [振り分けルール定義]

登録済みの振り分けルール定義がある場合は、このフォルダの 1 階層下に「振り分けルール定義名-バージョン」で表示されます。登録済みの振り分けルール定義がない場合は、このフォルダの下には何も表示されません。

### メモ

登録済みのビジネスプロセス定義および振り分けルール定義の一覧は、設定ページの登録定義一覧ビューページでフィルタリング条件（表示条件）を設定できます。登録定義一覧ビューページについては「[6.2.4\(1\)\(c\) 登録定義一覧ビューページ](#)」を参照してください。

## (3) ポップアップメニュー

[登録定義一覧] ビューのポップアップメニューの各項目について説明します。

## [ログイン]

ワーク管理システムへログインします。

このメニューをクリックすると、ログインダイアログが表示されます。

## [ログアウト]

ワーク管理システムからログアウトします。

## [属性変更]

登録済みのビジネスプロセス定義または振り分けルール定義の属性を変更する場合に選択します。

属性を変更したい定義を選択したあと、このメニューをクリックすると、ビジネスプロセス定義の場合は [ビジネスプロセス定義プロパティ] ダイアログ (変更用) が表示され、振り分けルール定義の場合は [振り分けルール定義プロパティ] ダイアログ (変更用) が表示されます。[ビジネスプロセス定義プロパティ] ダイアログ (変更用) については、[6.7.3 [ビジネスプロセス定義プロパティ] ダイアログ (変更用)] を参照してください。[振り分けルール定義プロパティ] ダイアログ (変更用) については、[6.7.14 [振り分けルール定義プロパティ] ダイアログ (変更用)] を参照してください。

## [開く]

登録済みのビジネスプロセス定義または振り分けルール定義を開く場合に選択します。

## [削除]

登録済みのビジネスプロセス定義または振り分けルール定義を削除する場合に選択します。

削除したい定義を選択したあと、このメニューをクリックすると、削除確認ダイアログが表示されます。

## [更新]

登録定義一覧ビューの表示内容を、最新の情報に更新する場合に選択します。

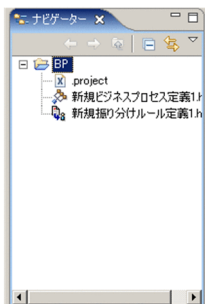
## 6.4.2 [ナビゲーター] ビュー

[ナビゲーター] ビューでは、CSCIW-Definer で現在作業中の項目を表示します。

[ナビゲーター] ビューの動作は、Eclipse の標準仕様のリソース・ナビゲータービュー (org.eclipse.ui.views.ResourceNavigator) に従います。

[ナビゲーター] ビューを次に示します。

図 6-13 [ナビゲーター] ビュー



## ❗ 重要

ビジネスプロセス定義または振り分けルール定義をエディタ上に開いた状態で、[ナビゲーター] ビューから次の操作をしないでください。操作をした場合、動作の保証はできません。

- ナビゲータビュー上のリソース（プロジェクト、フォルダ、ファイルなど）を変更、または削除する
  - 新規ウィンドウまたは新規エディタを使用して新しいエディタを開く
- 上記の操作をした場合は、表示される警告メッセージに従い、Eclipse を再起動してください。

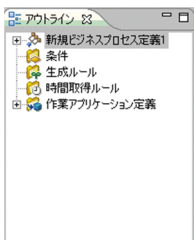
### 6.4.3 [アウトライン] ビュー

[アウトライン] ビューでは、編集中（ビジネスプロセス遷移エディタがアクティブな状態）のビジネスプロセス定義の構成を、ツリー形式で表示します。

[アウトライン] ビューの動作は、Eclipse の標準仕様のアウトラインビュー (org.eclipse.ui.views.ContentOutline) に従います。

[アウトライン] ビューを次に示します。

図 6-14 [アウトライン] ビュー



表示されているビジネスプロセスツリーの次の項目をクリックすると、ビジネスプロセス遷移エディタの遷移図上の要素も選択されます。また、次の項目が階層定義の中にある場合は、ビジネスプロセス遷移エディタのページも切り替えます。

- 業務ステップ定義
- ソースノード
- シンクノード
- 分業ノード定義
- 分岐ノード定義
- 待合ノード定義
- 先着ノード定義
- 階層定義

## 重要

ビジネスプロセス定義を編集したあと、階層定義に移動し、階層定義上で「元に戻す」を実行すると編集したビジネスプロセス定義は上で編集した内容が基に戻る。

次に [アウトライン] ビューで表示されるビジネスツリーおよびポップメニューについて説明します。

### (1) ビジネスプロセスツリー

[アウトライン] ビューで表示されるビジネスプロセスツリーは、第1階層から第4階層までの4段階の階層構造になっています。第2階層以下の定義が存在しないときは、第1階層だけがツリーに表示されません。

[アウトライン] ビューに表示される項目と表示内容を次の表に示します。

#### • ビジネスプロセス定義

表 6-11 [アウトライン] ビューに表示される項目と表示内容 (ビジネスプロセス定義)

項目	表示文字列	表示 個数	表示階層			
			第1	第2	第3	第4
遷移図 (ビジネスプロセス定義)	ビジネスプロセス定義の定義名	1	○			
業務ステップ定義	業務ステップの定義名	0~n		○		
一般作業定義	作業の定義名	0~n			○	
並列作業定義	作業の定義名	0~n			○	
子作業定義	子作業の定義名	1				○
ソースノード	[@Source] *	0~1		○		
シンクノード	[@Sink] *	0~1		○		
分業ノード定義	分業ノード定義の定義名	0~n		○		
分岐ノード定義	分岐ノード定義の定義名	0~n		○		
待合ノード定義	待合ノード定義の定義名	0~n		○		
先着ノード定義	先着ノード定義の定義名	0~n		○		
階層定義	階層の定義名	0~n		○		

(凡例)

n: 任意の整数

○: 表示される階層

注※

かぎ括弧の中の文字列が表示されます。文字列の変更はできません。

- 階層定義

表 6-12 [アウトライン] ビューに表示される項目と表示内容 (階層定義)

項目	表示文字列	表示 個数	表示階層			
			第 1	第 2	第 3	第 4
階層定義	階層の定義名	0~n	○			
業務ステップ定義	業務ステップの定義名	0~n		○		
一般作業定義	一般作業の定義名	0~n			○	
並列作業定義	並列作業の定義名	0~n			○	
子作業定義	子作業の定義名	1				○
ソースノード	[@Source] *	0~1		○		
シンクノード	[@Sink] *	0~1		○		
分業ノード定義	分業ノード定義の定義名	0~n		○		
分岐ノード定義	分岐ノード定義の定義名	0~n		○		
待合ノード定義	待合ノード定義の定義名	0~n		○		
先着ノード定義	先着ノード定義の定義名	0~n		○		
階層定義	階層の定義名	0~n		○		

(凡例)

n : 任意の整数

○ : 表示される階層

注※

かぎ括弧の中の文字列が表示されます。文字列の変更はできません。

- 条件

表 6-13 [アウトライン] ビューに表示される項目と表示内容 (条件)

項目	表示文字列	表示 個数	表示階層			
			第 1	第 2	第 3	第 4
条件定義フォルダ	[条件] *	1	○			
条件定義	条件定義の定義名	0~n		○		

(凡例)

n : 任意の整数

○ : 表示される階層

注※

かぎ括弧の中の文字列が表示されます。文字列の変更はできません。

- 生成ルール



表 6-14 [アウトライン] ビューに表示される項目と表示内容 (生成ルール)

項目	表示文字列	表示 個数	表示階層			
			第 1	第 2	第 3	第 4
生成ルール定義フォルダ	「生成ルール」※	1	○			
生成ルール定義	生成ルール定義の定義名	0~n		○		

(凡例)

n: 任意の整数

○: 表示される階層

注※

かぎ括弧の中の文字列が表示されます。文字列の変更はできません。

• 時間取得ルール

表 6-15 [アウトライン] ビューに表示される項目と表示内容 (時間取得ルール)

項目	表示文字列	表示 個数	表示階層			
			第 1	第 2	第 3	第 4
時間取得ルール定義フォルダ	「時間取得ルール」※	1	○			
時間取得ルール定義	時間取得ルール定義の定義名	0~n		○		

(凡例)

n: 任意の整数

○: 表示される階層

注※

かぎ括弧の中の文字列が表示されます。文字列の変更はできません。

• 作業アプリケーション定義

表 6-16 [アウトライン] ビューに表示される項目と表示内容 (作業アプリケーション定義)

項目	表示文字列	表示 個数	表示階層			
			第 1	第 2	第 3	第 4
作業アプリケーション定義フォルダ	「作業アプリケーション定義」※	1	○			
作業アプリケーション定義	作業アプリケーション定義の定義名	0~n		○		

(凡例)

n: 任意の整数

○: 表示される階層

注※

かぎ括弧の中の文字列が表示されます。文字列の変更はできません。

## (2) ポップアップメニュー

[アウトライン] ビューのポップアップメニューの各項目について説明します。

### [プロパティ]

ダイアログを表示し、各定義の属性を編集する場合に選択します。

### [新規作成]

定義を新規に作成する場合に選択します。

### [切り取り]

定義を切り取る場合に選択します。

### [コピー]

定義をコピーする場合に選択します。

### [貼り付け]

定義を貼り付ける場合に選択します。

### [削除]

定義を削除する場合に選択します。

### [元に戻す]

操作を元に戻す場合に選択します。

### [やり直し]

元に戻した操作をやり直す場合に選択します。

[アウトライン] ビューのビジネスツリーの各項目で、ポップアップメニューを表示させたときの状態を次の表に示します。

表 6-17 ビジネスツリーの各項目でポップアップメニューを表示させたときの状態

ビジネスツリーの項目	ポップアップメニューの項目							
	プロパティ	新規作成	切り取り	コピー	貼り付け	削除	元に戻す	やり直し
遷移図 (ビジネスプロセス定義)	○	×	×	×	×	×	△※1	△※2
業務ステップ定義	○	○※3	×	×	△※4	○		
一般作業定義	○	×	○	○	×	○		
並列作業定義	○	×	○	○	×	○		
子作業定義	○	×	×	×	×	×		
ソースノード定義	×	×	×	×	×	○		
シンクノード定義	×	×	×	×	×	○		
分業ノード定義	○	×	×	×	×	○		

ビジネスツリーの項目	ポップアップメニューの項目							
	プロパティ	新規作成	切り取り	コピー	貼り付け	削除	元に戻す	やり直し
分岐ノード定義	○	×	×	×	×	○	△※1	△※2
待合ノード定義	○	×	×	×	×	○		
先着ノード定義	○	×	×	×	×	○		
階層定義	○	×	×	×	×	○		
条件定義フォルダ	×	○	×	×	△※5	×		
条件定義	○※6	×	○	○	×	○		
生成ルール定義フォルダ	×	○	×	×	△※7	×		
生成ルール定義	○※6	×	○	○	×	○		
時間取得ルール定義フォルダ	×	○	×	×	△※8	×		
時間取得ルール定義	○	×	○	○	×	○		
作業アプリケーション定義フォルダ	×	○	×	×	△※9	×		
作業アプリケーション定義	○※6	×	○	○	×	○		

(凡例)

- ：常に活性
- △：条件によって活性
- ×

×：常に非活性

注※1

元に戻す操作がない場合は非活性になります。

注※2

やり直す操作がない場合は非活性になります。

注※3

サブメニューで「一般作業」または「並列作業」を選択する必要があります。

注※4

一般作業定義または並列作業定義を貼り付けるときだけ活性になります。一般作業定義または並列作業定義の貼り付けができない場合は、非活性になります。

注※5

条件定義を貼り付けるときだけ活性になります。条件定義の貼り付けができない場合は、非活性になります。

注※6

- 条件定義を新規作成するときは、種別に「RDB 検索」が設定されます。
- 生成ルール定義を新規作成するときは、種別に「RDB 検索」が設定されます。
- 作業アプリケーション定義を新規作成するときは、種別に「Java」が設定されます。

注※7

生成ルール定義を貼り付けるときだけ活性になります。生成ルール定義の貼り付けができない場合は、非活性になります。

注※8

時間取得ルール定義を貼り付けるときだけ活性になります。時間取得ルール定義の貼り付けができない場合は、非活性になります。

注※9

作業アプリケーション定義を貼り付けるときだけ活性になります。作業アプリケーション定義の貼り付けができない場合は、非活性になります。

## 6.4.4 【プロパティ】 ビュー

【プロパティ】ビューでは、各種のビューまたはエディタで選択したオブジェクトの定義内容を表示します。

【プロパティ】ビューの動作は、Eclipse の標準仕様のプロパティビュー (org.eclipse.ui.views.PropertySheet) に従います。

【プロパティ】ビューに定義情報を表示するビューまたはエディタの種類と表示される内容を次の表に示します。

表 6-18 【プロパティ】ビューに定義情報を表示するビューと表示される内容

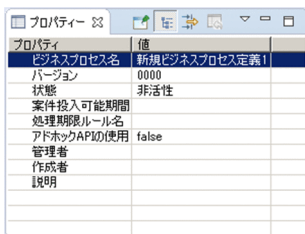
ビュー名	表示内容
【登録定義一覧】ビュー	ビジネスプロセス定義または振り分けルール定義を選択した場合、選択した定義の情報を表示します。
【アウトライン】ビュー	ビュー内で選択したビジネスプロセス定義の情報を表示します。

表 6-19 【プロパティ】ビューに定義情報を表示するエディタの種類と表示される内容

エディタ名	表示内容
ビジネスプロセス遷移エディタ	エディタ内で選択したビジネスプロセス定義の情報を遷移図で表示します。
振り分けルール定義エディタ	エディタに表示している振り分けルール定義の情報を表示します。

【プロパティ】ビューを次に示します。

図 6-15 【プロパティ】ビュー



【プロパティ】ビューの各項目について説明します。

## 「プロパティ」

プロパティの項目として、定義時に設定した項目が表示されます。

## 「値」

プロパティの値として、定義時に設定した情報が表示されます。定義時に設定を省略している場合は、空文字またはデフォルト値が表示されます。

### ❗ 重要

ビジネスプロセス定義、または振り分けルール定義をナビゲータビューや登録一覧定義ビューから開いた場合、プロパティビューが初期状態で表示されない現象が発生します。この場合、開いたエディタを1度クリックすると、プロパティビューに情報が表示されます。

次に「プロパティ」ビューに表示する内容を定義ごとに表で示します。

## (1) ビジネスプロセス定義

ビジネスプロセス定義の表示内容を次の表に示します。

表 6-20 ビジネスプロセス定義の表示内容

プロパティ名	値
ビジネスプロセス名	ビジネスプロセス定義の定義名が表示されます。
バージョン	バージョン番号が表示されます。
状態	「活性」または「非活性」が表示されます。
案件投入可能期間	期間を YYYY/MM/DD - YYYY/MM/DD で表示します。 期間開始だけ、または期間終了だけを指定した場合、指定がない方を「*****」で表示します。どちらも指定していない場合は空文字が表示されます。
処理期限ルール名	処理期限ルール名を表示します。 登録定義一覧ビューの定義を選択している場合は、「*****」が表示されます。
アドホック API の使用	アドホック API を使用するかどうかの設定値として、「true」または「false」が表示されます。
管理者	管理者が表示されます。
作成者	登録定義一覧ビューの定義を選択、または開いた場合、作成者を表示します。ファイルから開いた場合は、空文字になります。
説明	定義時に入力した内容が表示されます。

## (2) 業務ステップ定義

業務ステップ定義の表示内容を次の表に示します。

表 6-21 業務ステップ定義の表示内容

プロパティ名	値
業務ステップ定義名	業務ステップの定義名が表示されます。
事前生成	「あり」(True) または 「なし」(False) が表示されます。
完了条件名	完了条件名が表示されます。
処理期限ルール名	処理期限ルール名が表示されます。
説明	定義時に入力した内容が表示されます。

### (3) 一般作業定義

一般作業定義の表示内容を次の表に示します。

表 6-22 一般作業定義の表示内容

プロパティ名	値
作業定義名	一般作業の定義名が表示されます。
種別	常に「一般作業」が表示されます。
発生条件名	発生条件名が表示されます。
完了条件名	完了条件名が表示されます。
条件再評価	「あり」(True) または 「なし」(False) が表示されます。
作業アプリケーション定義名	作業アプリケーション定義名が表示されます。
振り分けルール名	振り分けルール名が表示されます。
説明	定義時に入力した内容が表示されます。

### (4) 並列作業定義

並列作業定義の表示内容を次の表に示します。

表 6-23 並列作業定義の表示内容

プロパティ名	値
作業定義名	並列作業の定義名が表示されます。
種別	常に「並列作業」が表示されます。
発生条件名	発生条件名が表示されます。
完了条件名	完了条件名が表示されます。
条件再評価	「あり」(True) または 「なし」(False) が表示されます。
子作業生成ルール名	子作業生成ルール名が表示されます。

プロパティ名	値
子作業定義名	子作業定義名表示されます。
説明	定義時に入力した内容が表示されます。

## (5) 分業ノード定義

分業ノード定義の表示内容を次の表に示します。

表 6-24 分業ノード定義の表示内容

プロパティ名	値
定義名	分業ノードの定義名が表示されます。
種別	常に「分業ノード」が表示されます。

## (6) 分岐ノード定義

分岐ノード定義の表示内容を次の表に示します。

表 6-25 分岐ノード定義の表示内容

プロパティ名	値
定義名	分岐ノードの定義名が表示されます。
種別	常に「分岐ノード」が表示されます。

## (7) 待合ノード定義

待合ノード定義の表示内容を次の表に示します。

表 6-26 待合ノード定義の表示内容

プロパティ名	値
定義名	待合ノードの定義名が表示されます。
種別	常に「待合ノード」が表示されます。

## (8) 先着ノード定義

先着ノード定義の表示内容を次の表に示します。

表 6-27 先着ノード定義の表示内容

プロパティ名	値
定義名	先着ノードの定義名が表示されます。

プロパティ名	値
種別	常に「先着ノード」が表示されます。
後続停止	「あり」(True) または「なし」(False) が表示されます。

## (9) ソースノード定義

ソースノード定義の表示内容を次の表に示します。

表 6-28 ソースノード定義の表示内容

プロパティ名	値
定義名	常に「@Source」が表示されます。
種別	常に「ソースノード」が表示されます。

## (10) シンクノード定義

シンクノード定義の表示内容を次の表に示します。

表 6-29 シンクノード定義の表示内容

プロパティ名	値
定義名	常に「@Sink」が表示されます。
種別	常に「シンクノード」が表示されます。

## (11) 遷移定義

遷移定義の表示内容を次の表に示します。

表 6-30 遷移定義の表示内容

プロパティ名	値
遷移元	遷移元の定義名が表示されます。
遷移先	遷移先の定義名が表示されます。
優先順位※	正の整数, または「Default」が表示されます。
分岐条件名※	分岐条件名が表示されます。

注※

遷移元が分岐ノード定義の場合だけ表示されます。

## (12) 条件定義

条件定義の表示内容を次に示します。



## (a) RDB 検索の場合

条件定義（RDB 検索）の表示内容を次の表に示します。

表 6-31 条件定義（RDB 検索）の表示内容

プロパティ名	値
定義名	条件の定義名が表示されます。
種別	常に「RDB 検索」が表示されます。
SQL 文	定義時に入力した SQL 文が表示されます。
結果の反転	「あり」(True) または「なし」(False) が表示されます。
説明	定義時に入力した内容が表示されます。

## (b) Java オブジェクト呼び出しの場合

条件定義（Java）の表示内容を次の表に示します。

表 6-32 条件定義（Java）の表示内容

プロパティ名	値
定義名	条件の定義名が表示されます。
種別	常に「Java」が表示されます。
Java クラス名	定義時に入力した Java クラス名が表示されます。
補助定数パラメタ	定義時に入力した補助定数パラメタが表示されます。
説明	定義時に入力した内容が表示されます。

## (13) 生成ルール定義

生成ルール定義の表示内容を次に示します。

### (a) RDB 検索の場合

生成ルール定義（RDB 検索）の表示内容を次の表に示します。

表 6-33 生成ルール定義（RDB 検索）の表示内容

プロパティ名	値
定義名	生成ルールの定義名が表示されます。
種別	常に「RDB 検索」が表示されます。
SQL 文	定義時に入力した SQL 文が表示されます。
説明	定義時に入力した内容が表示されます。

## (b) Java オブジェクト呼び出しの場合

生成ルール定義 (Java) の表示内容を次の表に示します。

表 6-34 生成ルール定義 (Java) の表示内容

プロパティ名	値
定義名	生成ルールの定義名が表示されます。
種別	常に「Java」が表示されます。
Java クラス名	定義時に入力した Java クラス名が表示されます。
補助定数パラメタ	定義時に入力した補助定数パラメタが表示されます。
説明	定義時に入力した内容が表示されます。

## (14) 時間取得ルール定義

時間取得ルール定義 (相対時間) の表示内容を次の表に示します。

表 6-35 時間取得ルール定義 (相対時間) の表示内容

プロパティ名	値
定義名	時間取得ルールの定義名が表示されます。
種別	常に「相対時間」が表示されます。
相対日数	相対日数が表示されます。
説明	定義時に入力した内容が表示されます。

## (15) 作業アプリケーション定義

作業アプリケーション定義の表示内容を次に示します。

### (a) Java オブジェクト呼び出しの場合

作業アプリケーション定義 (Java) の表示内容を次の表に示します。

表 6-36 作業アプリケーション定義 (Java) の表示内容

プロパティ名	値
定義名	作業アプリケーションの定義名が表示されます。
種別	常に「Java」が表示されます。
Java クラス名	定義時に入力した Java クラス名が表示されます。
補助定数パラメタ	定義時に入力した補助定数パラメタが表示されます。
説明	定義時に入力した内容が表示されます。

## (b) REST アプリケーション呼び出しの場合

作業アプリケーション定義（REST）の表示内容を次の表に示します。

表 6-37 作業アプリケーション定義（REST）の表示内容

プロパティ名	値
定義名	作業アプリケーションの定義名が表示されます。
種別	常に「REST」が表示されます。
ref 識別子	定義時に入力した ref 識別子が表示されます。
説明	定義時に入力した内容が表示されます。

## (16) 階層定義

階層定義の表示内容を次の表に示します。

表 6-38 階層定義の表示内容

プロパティ名	値
階層名	階層の定義名が表示されます。

## (17) 振り分けルール定義

振り分けルール定義の表示内容を次に示します。

### (a) RDB 検索の場合

振り分けルール定義（RDB 検索）の表示内容を次の表に示します。

表 6-39 振り分けルール定義（RDB 検索）の表示内容

プロパティ名	値
振り分けルール名	振り分けルール定義の定義名が表示されます。
バージョン	バージョン番号が表示されます。
状態	「活性」または「非活性」が表示されます。
有効期間	期間を YYYY/MM/DD - YYYY/MM/DD で表示します。 期間開始だけ、または期間終了だけを指定した場合、指定がない方を「*****」で表示します。どちらも指定していない場合は空文字が表示されます。
管理者	管理者が表示されます。
作成者	登録定義一覧ビューの定義を選択、または開いた場合、作成者を表示します。ファイルから開いた場合は、空文字になります。
種別	常に「RDB 検索」が表示されます。

プロパティ名	値
SQL 文	定義時に入力した SQL 文が表示されます。 登録定義一覧ビューの定義を選択している場合は、「*****」が表示されます。
説明	定義時に入力した内容が表示されます。

## (b) Java オブジェクト呼び出しの場合

振り分けルール定義 (Java) の表示内容を次の表に示します。

表 6-40 振り分けルール定義 (Java) の表示内容

プロパティ名	値
振り分けルール名	振り分けルール定義の定義名が表示されます。
バージョン	バージョン番号が表示されます。
状態	「活性」または「非活性」が表示されます。
有効期間	期間を YYYY/MM/DD - YYYY/MM/DD で表示します。 期間開始だけ、または期間終了だけを指定した場合、指定がない方を「*****」で表示します。どちらも指定していない場合は空文字が表示されます。
管理者	管理者が表示されます。
作成者	登録定義一覧ビューの定義を選択、または開いた場合、作成者を表示します。ファイルから開いた場合は、空文字になります。
種別	常に「Java」が表示されます。
Java クラス名	定義時に入力した Java クラス名が表示されます。 登録定義一覧ビューの定義を選択している場合は、「*****」が表示されます。
補助定数パラメタ	定義時に入力した補助定数パラメタが表示されます。 登録定義一覧ビューの定義を選択している場合は、「*****」が表示されます。
説明	定義時に入力した内容が表示されます。

## 6.4.5 [コンソール] ビュー

[コンソール] ビューの動作は、Eclipse の標準仕様のプロパティビュー (org.eclipse.ui.console.ConsoleView) に従います。

[コンソール] ビューでは、ビジネスプロセス定義のチェック結果など、さまざまな情報を表示します。

## 6.5 CSCIW-Definer のエディタ

この節では、CSCIW-Definer で使用する各種エディタについて説明します。

CSCIW-Definer のエディタの一覧を次の表に示します。

表 6-41 CSCIW-Definer のエディタの一覧

名称	説明
ビジネスプロセス遷移エディタ	ビジネスプロセスの遷移図を表示します。また、作成済みの遷移図を表示し、編集できます。
振り分けルール定義エディタ	振り分けルール定義の内容を表示します。また表示した内容を編集できます。

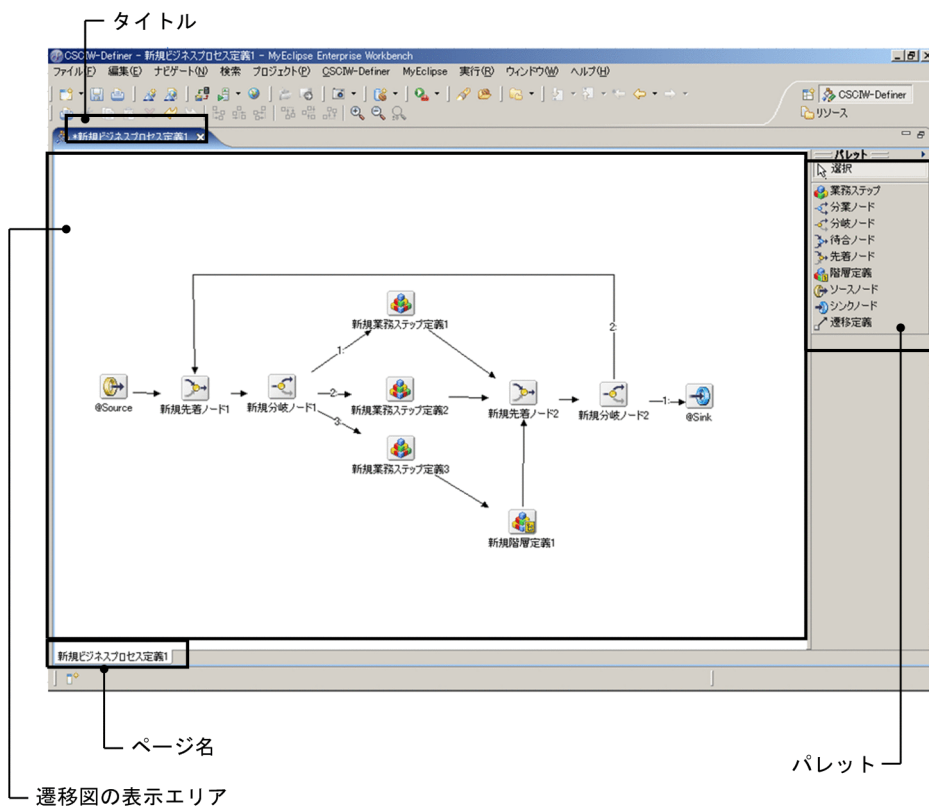
次に画面に表示されるエディタの内容を示します。

### 6.5.1 ビジネスプロセス遷移エディタ

ビジネスプロセス遷移エディタでは、ビジネスプロセスの遷移図を描画します。

ビジネスプロセス遷移エディタを次に示します。

図 6-16 ビジネスプロセス遷移エディタ



ビジネスプロセス遷移エディタに表示される内容について説明します。

## タイトル

ビジネスプロセス定義の定義名を表示します。

## 遷移図の表示エリア

ビジネスプロセスを遷移図で表示します。表示している遷移図のアイコンを直接選択してビジネスプロセス定義を編集できます。

CSCIW-Definer ページの設定によって、遷移図に作業定義名を表示できます。CSCIW-Definer ページについては、「[6.2.4\(1\)\(a\) CSCIW-Definer ページ](#)」を参照してください。

## パレット

遷移図を描画するための項目を表示します。

## ページ名

階層名を表示します。

階層定義内の遷移を表示していない場合は、ビジネスプロセス定義名を表示します。

次に遷移図の表示エリアおよびパレットの項目でできる操作について説明します。

## (1) 遷移図の表示エリアでできる操作

遷移図の表示エリアで、描画されているアイコンを右クリックするとポップアップメニューが表示されます。

ポップアップメニューによってできる操作を次の表に示します。

表 6-42 ポップアップメニューによってできる操作

メニュー	操作説明
プロパティ	ダイアログを表示し、各定義の属性を編集します。
開く	階層定義内の遷移図を別のページで開きます。 このメニューは、階層定義を 2 つ以上選択している場合、非活性になります。
切り取り	定義を切り取ります。 このメニューは、切り取る要素（業務ステップ、分業ノード、分岐ノード、待合ノード、先着ノード、階層定義）を 1 つ以上選択していない場合、非活性になります。
コピー	定義をコピーします。 このメニューは、コピーできる要素（業務ステップ、分業ノード、分岐ノード、待合ノード、先着ノード、階層定義）を 1 つ以上選択していない場合、非活性になります。
貼り付け	定義を貼り付けます。 このメニューは、次の条件をすべて満たしていない場合、非活性になります。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 貼り付ける定義がクリップボードにある</li><li>• 貼り付けた結果、描画上の制限に当てはまらない</li></ul>
削除	定義を削除します。 このメニューは、削除できる要素を 1 つ以上選択していない場合、非活性になります。
元に戻す	操作を元に戻します。

メニュー	操作説明
元に戻す	このメニューは、元に戻す操作がない場合、非活性になります。
やり直し	元に戻した操作をやり直します。 このメニューは、やり直す操作がない場合、非活性になります。
ズーム	遷移図のサイズを変更します。 次のサブメニューの操作ができます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 拡大 遷移図を拡大します。</li> <li>• 縮小 遷移図を縮小します。</li> <li>• 元のサイズに戻す 遷移図を元のサイズに戻します。</li> </ul> このサブメニューは元に戻す操作がない場合、非活性になります。
整列	定義（遷移定義を除く）を2つ以上選択している場合で、かつ複数選択した定義の最後が遷移定義でない場合に、次のサブメニューの操作ができます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 左寄せ</li> <li>• 中央寄せ（左右）</li> <li>• 右寄せ</li> <li>• 上寄せ</li> <li>• 中央寄せ（上下）</li> <li>• 下寄せ</li> </ul>

#### 注1

クリップボードに何も無い状態でコピー操作をした場合、コピー元の定義を選択した状態のままでは貼り付け操作はできません。コピー元の定義の選択を解除したあと、貼り付け操作をやり直してください。

#### 注2

次の順序で操作をすると、3.の操作は実行できません。

1. 切り取り
2. 元に戻す
3. 貼り付け

## (2) パレットの項目でできる操作

パレットの項目を選択することによって、遷移図を描画できます。

パレットの項目でできる操作を次の表に示します。

なお、操作説明の内容は、ツールチップや詳細情報として表示されます。

表 6-43 パレットの項目でできる操作

項目	操作説明
選択	遷移図に描かれた定義を選択します。
業務ステップ	遷移図に業務ステップを配置します。

項目	操作説明
分業ノード	遷移図に分業ノードを配置します。
分岐ノード	遷移図に分岐ノードを配置します。
待合ノード	遷移図に待合ノードを配置します。
先着ノード	遷移図に先着ノードを配置します。
階層定義	遷移図に階層定義を配置します。
ソースノード	遷移図にソースノードを配置します。
シンクノード	遷移図にシンクノードを配置します。
遷移定義	遷移図に遷移線を描画します。

### 遷移定義の折り曲げまたは直線化

遷移図の遷移定義を選択すると、点が表示されます。この点をドラッグ&ドロップすることで、遷移定義を折り曲げたり、直線にしたりできます。

## (3) 遷移定義を描画するときの制限事項

遷移定義を描画するときの制限事項を次に示します。

- ・ 遷移元または遷移先に定義が接続されていない遷移定義は描画できません。
- ・ 遷移元と遷移先が同一の定義である遷移定義は描画できません。
- ・ 一对の遷移元・遷移先の間には複数の遷移定義は描画できません。
- ・ 遷移定義の接続本数には制限があります。接続本数の制限値を次の表に示します。

表 6-44 遷移定義の接続本数の制限値

定義	接続本数の制限値	
	遷移元	遷移先
業務ステップ	1	1
分業ノード	1	なし（複数の描画が可能）
分岐ノード	1	なし（複数の描画が可能）
待合ノード	なし（複数の描画が可能）	1
先着ノード	なし（複数の描画が可能）	1
階層定義	1	1
ソースノード	0	1
シンクノード	1	0



- 遷移元と遷移先の組み合わせによっては遷移定義を描画できない場合があります。遷移定義の描画可否を次の表に示します。

表 6-45 遷移定義の描画可否

遷移元	遷移先							
	業務ステップ	分業ノード	分岐ノード	待合ノード	先着ノード	階層定義	ソースノード	シンクノード
業務ステップ	○	○	○	○	○	○	×	○
分業ノード	○	○	○	○	○	○	×	○※1
分岐ノード	○	○	○	○	○	○	×	○
待合ノード	○	○	○	○	○	○	×	○
先着ノード	○	○	○	○	○	○	×	○
階層定義	○	○	○	○	○	○	×	○
ソースノード	○	○	○	○※1	○※2	○	×	×
シンクノード	×	×	×	×	×	×	×	×

(凡例)

- ：描画できる
- ×

注※1

描画はできますが、定義をチェックしたときにエラーになります。

注※2

先着ノード（後続停止あり）の場合、定義をチェックしたときにエラーになります。

## (4) 遷移図を描画するときの注意事項

遷移図を描画するときの制限事項を次に示します。

- 100 個以上の多階層（階層定義が入れ子になった状態）は定義できません。
- ソースノードからシンクノードへ至る経路中に 1,000 個以上のノードを定義できません。
- ビジネスプロセス定義上で定義を編集したあと、階層定義に移動し、階層定義上で「元に戻す」を実行しないでください。「元に戻す」を実行すると、ビジネスプロセス定義上で編集した内容が無効（編集前の状態）になります。
- 折り曲げ点（遷移定義を折り曲げた部分）を移動する場合、折り曲げ点を含む遷移定義を選択した状態でドラッグしてください。

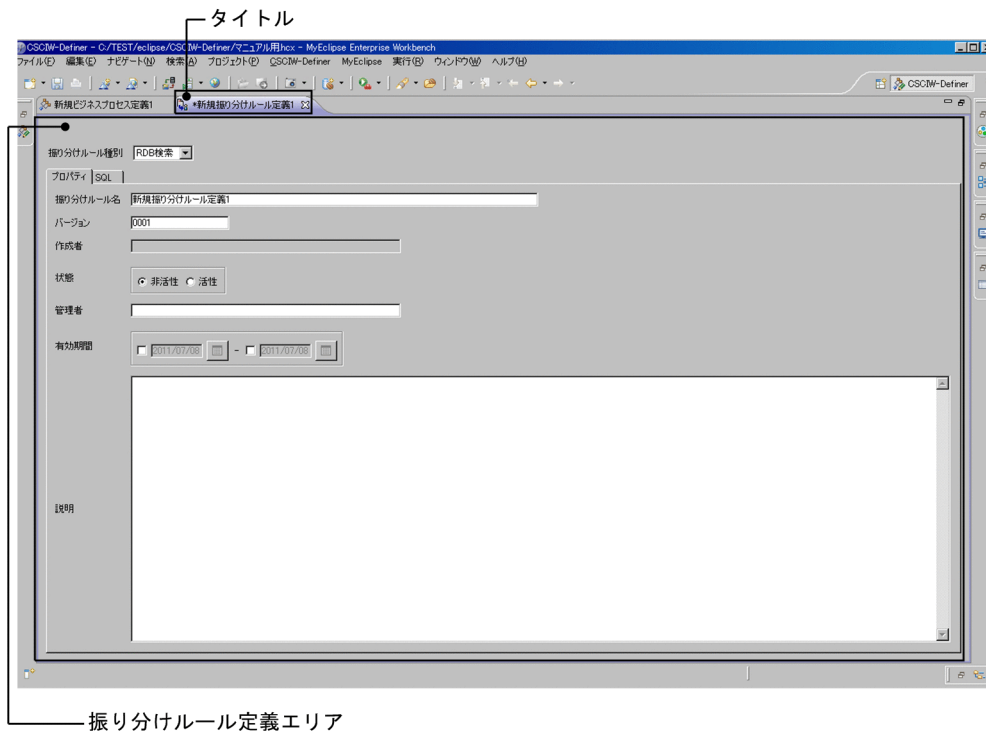
## 6.5.2 振り分けルール定義エディタ

振り分けルール定義エディタでは、振り分けルール、SQL 文、および Java クラス名を定義します。

このエディタは作成時に使用します。

振り分けルール定義エディタを次に示します。

図 6-17 振り分けルール定義エディタ



振り分けルール定義エディタに表示される内容について説明します。

## タイトル

振り分けルール定義の定義名を表示します。

## 振り分けルール定義エリア

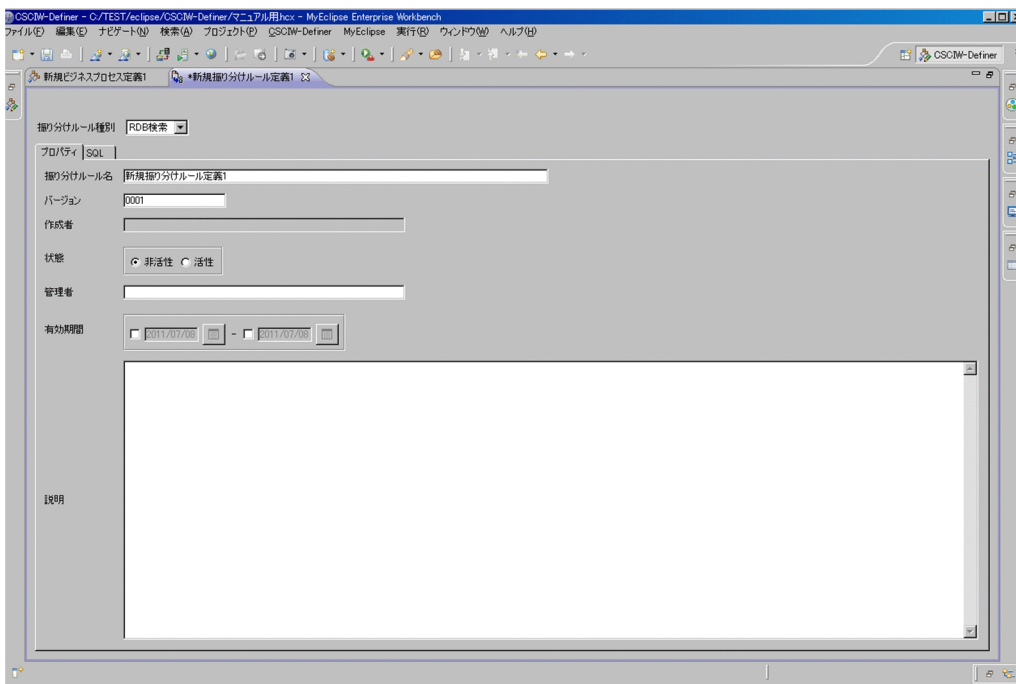
振り分けルール定義エリアには、振り分けルールを定義するプロパティタブ、振り分けルール種別が RDB 検索の場合に SQL 文を記述する SQL タブ、および Java オブジェクト呼び出しの場合に Java クラス名を記述する Java タブがあります。

次にプロパティタブ、SQL タブ、および Java タブの内容を示します。

### (1) プロパティタブ

振り分けルール定義エディタ（プロパティタブ）を次に示します。

図 6-18 振り分けルール定義エディタ (プロパティタブ)



振り分けルール定義エディタ (プロパティタブ) の各項目について説明します。

#### [振り分けルール種別]

振り分けルール種別を選択します。選択できる振り分けルール種別は次のどちらかです。

- RDB 検索
- Java

#### [振り分けルール名]

振り分けルール定義の定義名を入力します。

#### [バージョン]

振り分けルール定義のバージョンを入力します。

入力できる値は、0～9999 の整数です。

#### [作成者]

振り分けルール定義の作成者を表示します。

作成者を表示するのは、[登録定義一覧] ビューから振り分けルール定義エディタを開いた場合です。

振り分けルール定義ファイルから振り分けルール定義エディタを開いた場合は、空欄になります。

#### [状態]

##### [非活性]

振り分けルール定義を非活性状態にする場合にチェックします。

##### [活性]

振り分けルール定義を活性状態にする場合にチェックします。

## [管理者]

振り分けルール定義の管理者を入力します。

## [有効期間]

振り分けルール定義の有効期間を設定します。

開始日（左側のテキストボックス）と終了日（右側のテキストボックス）に分けて日付を設定します。開始日だけ、または終了日だけを設定することもできます。

日付の指定は、テキストボックス右側のカレンダーボタンをクリックし、表示された [カレンダー] ダイアログから選択します。[カレンダー] ダイアログについては、「6.7.18 [カレンダー] ダイアログ」を参照してください。

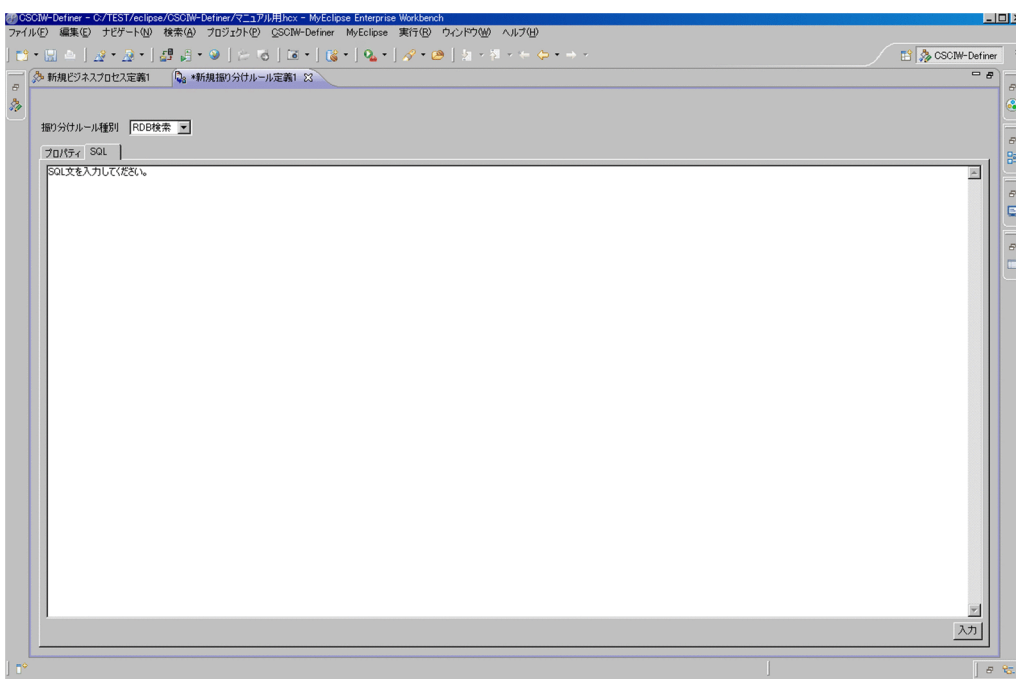
## [説明]

必要に応じて振り分けルールに関する説明を入力します。

## (2) SQL タブ

振り分けルール定義エディタ（SQL タブ）を次に示します。

図 6-19 振り分けルール定義エディタ（SQL タブ）



振り分けルール定義エディタ（SQL タブ）の各項目について説明します。

## [SQL]

作業者を取得するための SQL 文を記述します。

デフォルトでは、「SQL 文を入力してください。」が表示されます。デフォルトから変更していない場合は登録できません。

「振り分けルール種別」を変更すると、デフォルト値が再表示されます。

## [入力] ボタン

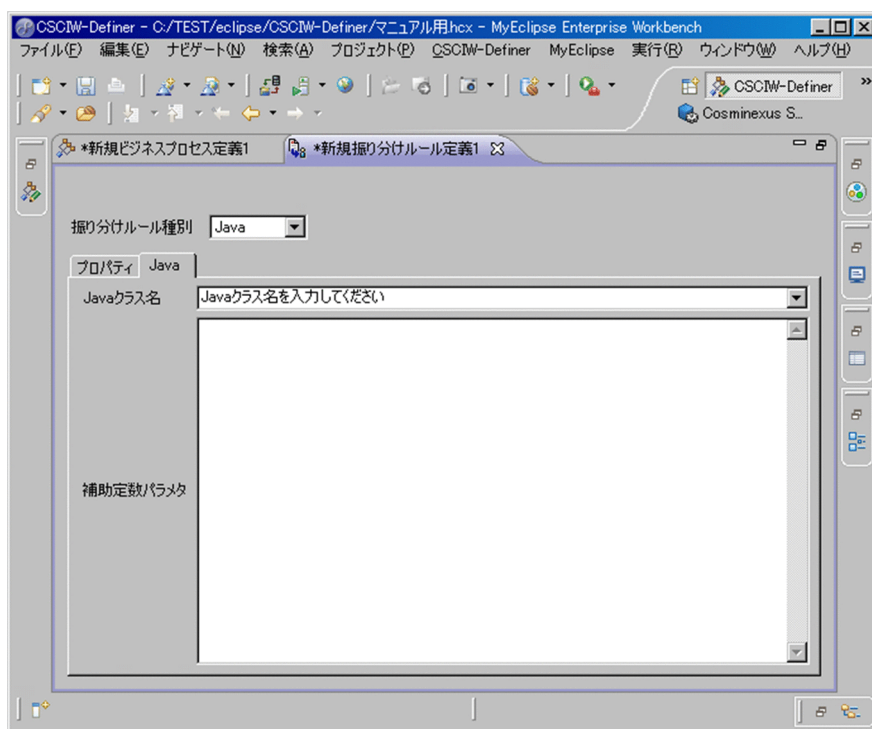
ファイルを指定して SQL 文の内容を設定する場合に選択します。

このボタンを押すと、ファイル選択ダイアログが表示されます。ファイル選択ダイアログから SQL 文を記述したファイルを指定すると、そのファイルの内容が設定されます。このとき、ファイルの文字コードは、CSCIW-Definer ページの設定に従います。CSCIW-Definer ページについては、「6.2.4(1) (a) CSCIW-Definer ページ」を参照してください。

## (3) Java タブ

振り分けルール定義エディタ (Java タブ) を次に示します。

図 6-20 振り分けルール定義エディタ (Java タブ)



振り分けルール定義エディタ (Java タブ) の各項目について説明します。

### [Java クラス名]

作業者を取得するための Java クラス名を記述します。

デフォルトでは、「Java クラス名を入力してください」が表示されます。デフォルトから変更していない場合は登録できません。

「振り分けルール種別」を変更すると、デフォルト値が再表示されます。

### [補助定数パラメタ]

Java オブジェクトを呼び出す場合、渡したい定数パラメタがあるときに、補助定数パラメタを記述します。

「振り分けルール種別」を変更すると、入力値は初期化されます。

## 6.6 CSCIW-Definer のウィザード

この節では、CSCIW-Definer の各種ウィザードについて説明します。

CSCIW-Definer のウィザードの一覧を次の表に示します。

表 6-46 CSCIW-Definer のウィザードの一覧

名称	説明
[新規ビジネスプロセス定義] ウィザード	ビジネスプロセス定義を新規に作成する場合に、必要な属性値を設定します。
[新規振り分けルール定義] ウィザード	振り分けルール定義を新規に作成する場合に、必要な属性値を設定します。

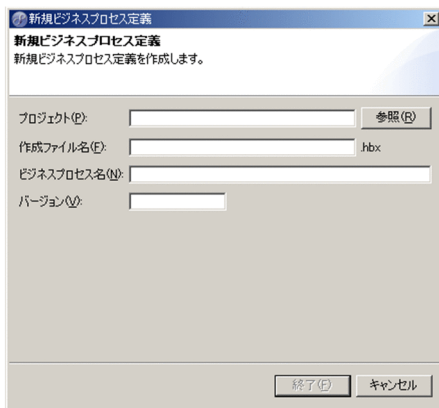
次に画面に表示されるウィザードの内容を示します。

### 6.6.1 [新規ビジネスプロセス定義] ウィザード

[新規ビジネスプロセス定義] ウィザードでは、ビジネスプロセス定義を新規に作成する場合に、必要な属性値を設定します。

[新規ビジネスプロセス定義] ウィザードを次に示します。

図 6-21 [新規ビジネスプロセス定義] ウィザード



[新規ビジネスプロセス定義] ウィザードの各項目について説明します。

#### [プロジェクト]

プロジェクト名を入力します。

すでに存在するプロジェクトの中から選択することもできます。

#### [参照] ボタン

すでに存在するプロジェクトを表示させる場合にクリックします。

このボタンをクリックすると、Eclipse 標準のプロジェクト選択ダイアログを表示します。

#### [作成ファイル名]

ビジネスプロセス定義の定義ファイル名を入力します。

#### [ビジネスプロセス名]

ビジネスプロセス定義の定義名を入力します。

#### [バージョン]

ビジネスプロセス定義のバージョンを入力します。

入力できる値は、0～9999 の整数です。

#### [終了] ボタン

[新規ビジネスプロセス定義] ウィザードを閉じます。各項目で入力した内容が設定されます。

#### [キャンセル] ボタン

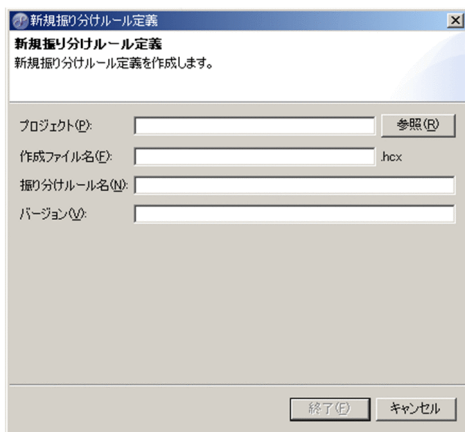
[新規ビジネスプロセス定義] ウィザードを閉じます。各項目で入力した内容は破棄されます。

## 6.6.2 [新規振り分けルール定義] ウィザード

[新規振り分けルール定義] ウィザードでは、振り分けルール定義を新規に作成する場合に、必要な属性値を設定します。

[新規振り分けルール定義] ウィザードを次に示します。

図 6-22 [新規振り分けルール定義] ウィザード



[新規振り分けルール定義] ウィザードの各項目について説明します。

#### [プロジェクト]

プロジェクト名を入力します。

すでに存在するプロジェクトの中から選択することもできます。

#### [参照] ボタン

すでに存在するプロジェクトを表示させる場合にクリックします。

このボタンをクリックすると、Eclipse 標準のプロジェクト選択ダイアログを表示します。

**[作成ファイル名]**

振り分けルール定義の定義ファイル名を入力します。

**[振り分けルール名]**

振り分けルール定義の定義名を入力します。

**[バージョン]**

振り分けルール定義のバージョンを入力します。

入力できる値は、0~9999 の整数です。

**[終了] ボタン**

[新規振り分けルール定義] ウィザードを閉じます。各項目で入力した内容が設定されます。

**[キャンセル] ボタン**

[新規振り分けルール定義] ウィザードを閉じます。各項目で入力した内容は破棄されます。



## 6.7 CSCIW-Definer のダイアログ

この節では、CSCIW-Definer で表示される各種ダイアログについて説明します。

CSCIW-Definer のダイアログの一覧を次の表に示します。

表 6-47 CSCIW-Definer のダイアログの一覧

名称	説明
ログイン	ログイン時に必要な値を設定します。
ビジネスプロセス定義プロパティ (定義用)	ビジネスプロセス定義の属性を設定します。
ビジネスプロセス定義プロパティ (変更用)	ビジネスプロセス定義の属性を変更します。
業務ステッププロパティ	業務ステップ定義の属性を設定します。
一般作業プロパティ	一般作業定義の属性を設定します。
並列作業プロパティ	並列作業定義の属性を設定します。
制御ノードプロパティ	分業ノード, 分岐ノード, 待合ノード, および先着ノードの属性を設定します。
分岐条件の設定	分岐ノードの分岐条件を設定します。
条件プロパティ	条件定義の属性を設定します。
生成ルールプロパティ	生成ルール定義の属性を設定します。
時間取得ルールプロパティ	時間取得ルール定義 (相対時間) の属性を設定します。
作業アプリケーション定義プロパティ	作業アプリケーション定義の属性を設定します。
階層定義プロパティ	階層定義の属性を設定します。
振り分けルール定義プロパティ (変更用)	振り分けルール定義の属性を設定します。
振り分けルール名選択	登録済みの振り分けルール名を選択します。
業務ステップアイコンの変更	業務ステップ定義のアイコンを変更します。
階層定義アイコンの変更	階層定義のアイコンを変更します。
カレンダー	日付を設定します。

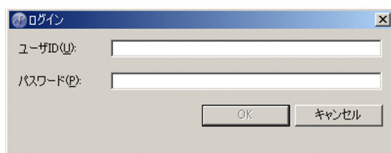
次に画面に表示されるダイアログの内容を示します。

### 6.7.1 [ログイン] ダイアログ

[ログイン] ダイアログでは、ワーク管理システムにログインするための認証をします。

[ログイン] ダイアログを次に示します。

図 6-23 [ログイン] ダイアログ



[ログイン] ダイアログの各項目について説明します。

**[ユーザ ID]**

ユーザ ID を入力します。

**[パスワード]**

パスワードを入力します。

**[OK]**

[ログイン] ダイアログを閉じます。ユーザ ID とパスワードの認証をします。

**[キャンセル]**

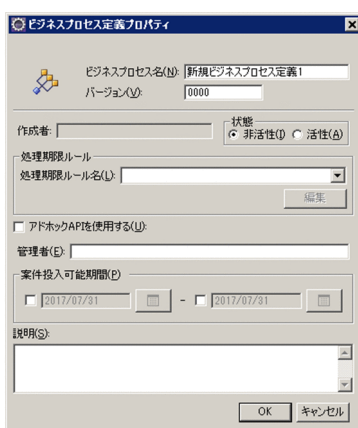
[ログイン] ダイアログを閉じます。何もしません。

## 6.7.2 [ビジネスプロセス定義プロパティ] ダイアログ (定義用)

[ビジネスプロセス定義プロパティ] ダイアログ (定義用) では、ビジネスプロセス定義の属性を設定します。

[ビジネスプロセス定義プロパティ] ダイアログ (定義用) を次に示します。

図 6-24 [ビジネスプロセス定義プロパティ] ダイアログ (定義用)



[ビジネスプロセス定義プロパティ] ダイアログ (定義用) の各項目について説明します。

**[ビジネスプロセス名]**

ビジネスプロセス定義の定義名を入力します。

## [バージョン]

ビジネスプロセス定義のバージョンを入力します。  
入力できる値は、0～9999 の整数です。

## [作成者]

ビジネスプロセス定義の作成者を表示します。

## [状態]

### [非活性]

ビジネスプロセス定義を非活性状態にする場合にチェックします。

### [活性]

ビジネスプロセス定義を活性状態にする場合にチェックします。

## [処理期限ルール]

### [処理期限ルール名]

案件の処理期限を設定する場合に選択します。  
処理期限は、時間取得ルールの定義名の一覧から選択します。  
省略した場合、処理期限はなしになります。

### [編集] ボタン

時間取得ルールを編集するときをクリックします。  
編集したい時間取得ルールを選択し、このボタンをクリックすると、[時間取得ルールプロパティ] ダイアログを表示します。[時間取得ルールプロパティ] ダイアログについては、[\[6.7.11 \[時間取得ルールプロパティ\] ダイアログ\]](#) を参照してください。  
時間取得ルールがない場合は、このボタンは非活性になります。

## [アドホック API を使用する] チェックボックス

アドホック API を使用する場合にチェックします。

## [管理者]

ビジネスプロセス定義の管理者を入力します。

## [案件投入可能期間]

案件を投入できる期間を設定する場合に選択します。  
開始日（左側のテキストボックス）と終了日（右側のテキストボックス）に分けて日付を設定します。  
開始日だけ、または期間日だけを設定することもできます。  
日付の指定は、テキストボックス右側のカレンダーボタンをクリックし、表示された [カレンダー] ダイアログから選択します。[カレンダー] ダイアログについては、[\[6.7.18 \[カレンダー\] ダイアログ\]](#) を参照してください。

## [説明]

必要に応じてビジネスプロセス定義に関する説明を入力します。

## [OK] ボタン

[ビジネスプロセス定義プロパティ] ダイアログ (定義用) を閉じます。各項目で設定した内容が反映されます。

## [キャンセル] ボタン

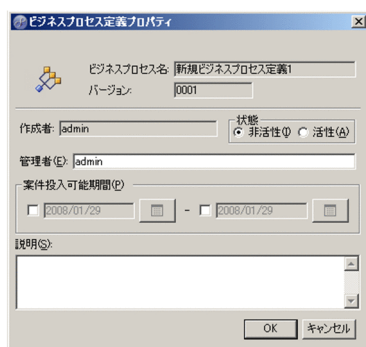
[ビジネスプロセス定義プロパティ] ダイアログ (定義用) を閉じます。各項目で設定した内容は反映されません。

## 6.7.3 [ビジネスプロセス定義プロパティ] ダイアログ (変更用)

[ビジネスプロセス定義プロパティ] ダイアログ (変更用) では、ビジネスプロセス定義の属性を変更します。

[ビジネスプロセス定義プロパティ] ダイアログ (変更用) を次に示します。

図 6-25 [ビジネスプロセス定義プロパティ] ダイアログ (変更用)



[ビジネスプロセス定義プロパティ] ダイアログ (定義用) の各項目について説明します。

### [ビジネスプロセス名]

選択したビジネスプロセス定義の定義名が表示されます。

### [バージョン]

選択したビジネスプロセス定義のバージョンが表示されます。

### [作成者]

選択したビジネスプロセス定義の作成者が表示されます。

### [状態]

#### [非活性]

ビジネスプロセス定義を非活性状態にする場合にチェックします。

#### [活性]

ビジネスプロセス定義を活性状態にする場合にチェックします。

### [管理者]

選択したビジネスプロセス定義の管理者が表示されます。

必要に応じて管理者を変更します。

#### [案件投入可能期間]

案件を投入できる期間を設定している場合に日付が表示されます。

必要に応じて開始日（左側のテキストボックス）と終了日（右側のテキストボックス）の日付を変更します。開始日だけ、または終了日だけを変更することもできます。

日付の指定は、テキストボックス右側のカレンダーボタンをクリックし、表示された [カレンダー] ダイアログから選択します。[カレンダー] ダイアログについては、「6.7.18 [カレンダー] ダイアログ」を参照してください。

#### [説明]

必要に応じてビジネスプロセス定義に関する説明を変更します。

#### [OK] ボタン

[ビジネスプロセス定義プロパティ] ダイアログ（定義用）を閉じます。各項目で設定した内容が反映されます。

#### [キャンセル] ボタン

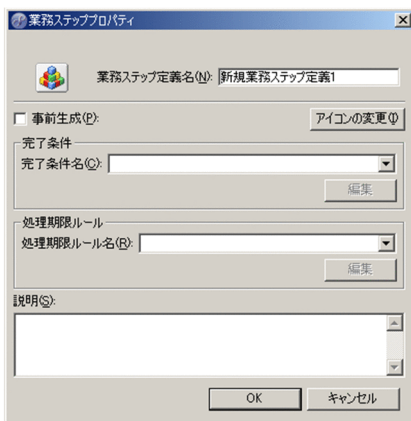
[ビジネスプロセス定義プロパティ] ダイアログ（定義用）を閉じます。各項目で設定した内容は反映されません。

## 6.7.4 [業務ステッププロパティ] ダイアログ

[業務ステッププロパティ] ダイアログでは、業務ステップ定義の属性を設定します。

[業務ステッププロパティ] ダイアログを次に示します。

### 図 6-26 [業務ステッププロパティ] ダイアログ



[業務ステッププロパティ] ダイアログの各項目について説明します。

#### [業務ステップ定義名]

業務ステップ定義の定義名を入力します。

デフォルトでは、新規業務ステップ定義 1～新規業務ステップ定義 n が表示されます。n は一意となる整数が割り当てられます。

#### [事前生成]

業務ステップを事前生成する場合にチェックします。

#### [アイコンの変更] ボタン

ダイアログの左上に表示されているアイコンのデザインを変更する場合にクリックします。

このボタンをクリックすると、[業務ステップアイコンの変更] ダイアログが表示されます。[業務ステップアイコンの変更] ダイアログについては、[「6.7.16 \[業務ステップアイコンの変更\] ダイアログ」](#)を参照してください。

#### [完了条件]

##### [完了条件名]

業務ステップの完了条件を設定するときに選択します。

完了条件は、完了条件の定義名の一覧から選択、または「@False」を選択します。

省略した場合、完了条件は常に偽 (FALSE) として評価されます。

##### [編集] ボタン

完了条件を編集するときにクリックします。

編集したい完了条件の定義名を選択したあと、このボタンをクリックすると、[条件プロパティ] ダイアログが表示されます。[条件プロパティ] ダイアログについては、[「6.7.9 \[条件プロパティ\] ダイアログ」](#)を参照してください。

完了条件がない場合、または「@False」が選択されている場合は、このボタンは非活性になります。

#### [処理期限ルール]

##### [処理期限ルール名]

業務ステップの処理期限を設定するときに選択します。

処理期限は、時間取得ルールの定義名の一覧から選択します。

省略した場合、処理期限はなしになります。

##### [編集] ボタン

時間取得ルールを編集するときにクリックします。

編集したい時間取得ルールを選択し、このボタンをクリックすると、[時間取得ルールプロパティ] ダイアログを表示します。[時間取得ルールプロパティ] ダイアログについては、[「6.7.11 \[時間取得ルールプロパティ\] ダイアログ」](#)を参照してください。

時間取得ルールがない場合は、このボタンは非活性になります。

#### [説明]

必要に応じて業務ステップ定義に関する説明を入力します。

#### [OK] ボタン

[業務ステップ定義プロパティ] ダイアログを閉じます。各項目で設定した内容が反映されます。

## [キャンセル] ボタン

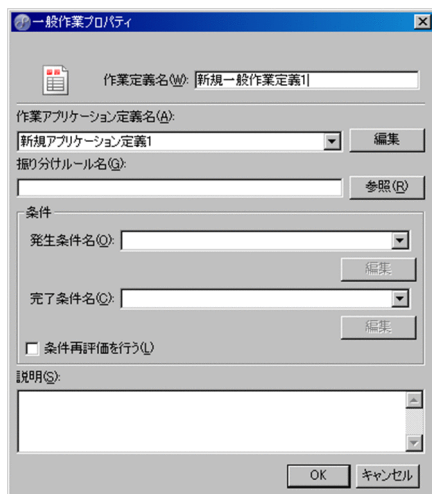
[業務ステップ定義プロパティ] ダイアログを閉じます。各項目で設定した内容は反映されません。

## 6.7.5 [一般作業プロパティ] ダイアログ

[一般作業プロパティ] ダイアログでは、一般作業の属性を設定します。

[一般作業プロパティ] ダイアログを次に示します。

図 6-27 [一般作業プロパティ] ダイアログ



[一般作業プロパティ] ダイアログの各項目について説明します。

### [作業定義名]

一般作業の定義名を入力します。

デフォルトでは、新規一般作業定義 1～新規一般作業定義 n が表示されます。n は一意となる整数が割り当てられます。

### [作業アプリケーション定義名]

作業の作業アプリケーション定義を設定するときに選択します。

作業アプリケーション定義名は、作業アプリケーション定義の定義名の一覧から選択します。

### [編集] ボタン

作業アプリケーション定義名を編集するときにクリックします。

編集したい作業アプリケーション定義名を選択したあと、このボタンをクリックすると、[作業アプリケーション定義プロパティ] ダイアログが表示されます。[作業アプリケーション定義プロパティ] ダイアログについては、「6.7.12 [作業アプリケーション定義プロパティ] ダイアログ」を参照してください。

### [振り分けルール名]

振り分けルール定義の定義名を入力します。



## [参照] ボタン

登録済み振り分けルール定義の名称一覧を参照するときにクリックします。

## [条件]

### [発生条件名]

作業の発生条件を設定するときに選択します。

発生条件は、発生条件の定義名の一覧から選択、または「@True」を選択します。

省略した場合、発生条件は常に真 (TRUE) として評価されます。

### [編集] ボタン

発生条件を編集するときにクリックします。

編集したい発生条件の定義名を選択したあと、このボタンをクリックすると、[条件プロパティ] ダイアログが表示されます。[条件プロパティ] ダイアログについては、「[6.7.9 \[条件プロパティ\] ダイアログ](#)」を参照してください。

発生条件がない場合、または「@True」が選択されている場合は、このボタンは非活性になります。

### [完了条件名]

作業の完了条件を設定するときに選択します。

完了条件は、完了条件の定義名の一覧から選択、または「@False」を選択します。

省略した場合、完了条件は常に偽 (FALSE) として評価されます。

### [編集] ボタン

完了条件を編集するときにクリックします。

編集したい完了条件の定義名を選択したあと、このボタンをクリックすると、[条件プロパティ] ダイアログが表示されます。[条件プロパティ] ダイアログについては、「[6.7.9 \[条件プロパティ\] ダイアログ](#)」を参照してください。

完了条件がない場合、または「@False」が選択されている場合は、このボタンは非活性になります。

### [条件再評価を行う]

条件の再評価をする場合にチェックします。

## [説明]

必要に応じて一般作業に関する説明を入力します。

## [OK] ボタン

[一般作業プロパティ] ダイアログを閉じます。各項目で設定した内容が反映されます。

## [キャンセル] ボタン

[一般作業プロパティ] ダイアログを閉じます。各項目で設定した内容は反映されません。

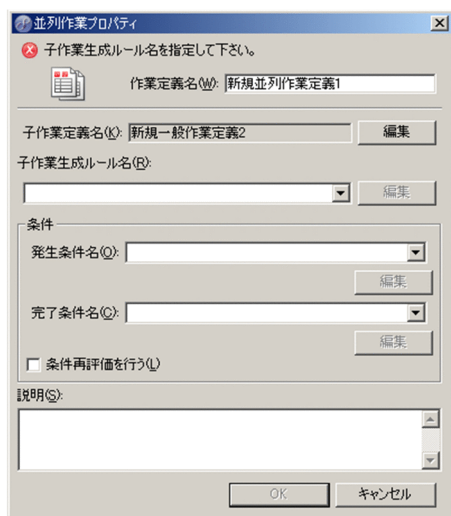
## 6.7.6 [並列作業プロパティ] ダイアログ

[並列作業プロパティ] ダイアログでは、並列作業の属性を設定します。



[並列作業プロパティ] ダイアログを次に示します。

図 6-28 [並列作業プロパティ] ダイアログ



[並列作業プロパティ] ダイアログの各項目について説明します。

### [作業定義名]

並列作業の定義名を入力します。

デフォルトでは、新規並列作業定義 1～新規並列作業定義 n が表示されます。n は一意となる整数が割り当てられます。

### [子作業定義名]

子作業の定義名が表示されます。

### [編集] ボタン

登録済みの子作業の定義を編集するときにクリックします。

このボタンをクリックすると、[一般作業プロパティ] ダイアログが表示されます。[一般作業条件プロパティ] ダイアログについては、[「6.7.5 \[一般作業プロパティ\] ダイアログ」](#)を参照してください。

### [子作業生成ルール名]

子作業生成ルールの定義名の一覧から選択します。

### [編集] ボタン

子作業生成ルールを編集するときにクリックします。

編集したい完了条件の定義名を選択したあと、このボタンをクリックすると、[生成ルールプロパティ] ダイアログが表示されます。[生成ルールプロパティ] ダイアログについては、[「6.7.10 \[生成ルールプロパティ\] ダイアログ」](#)を参照してください。

子作業生成ルールがない場合は、このボタンは非活性になります。

### [条件]

#### [発生条件名]

作業の発生条件を設定するときに選択します。

発生条件は、発生条件の定義名の一覧から選択、または「@True」を選択します。

省略した場合、発生条件は常に真（TRUE）として評価されます。

#### [編集] ボタン

発生条件を編集するときにクリックします。

編集したい発生条件の定義名を選択したあと、このボタンをクリックすると、[条件プロパティ] ダイアログが表示されます。[条件プロパティ] ダイアログについては、「6.7.9 [条件プロパティ] ダイアログ」を参照してください。

発生条件がない場合、または「@True」が選択されている場合は、このボタンは非活性になります。

#### [完了条件名]

作業の完了条件を設定するときに選択します。

完了条件は、完了条件の定義名の一覧から選択、または「@False」を選択します。

省略した場合、完了条件は常に偽（FALSE）として評価されます。

#### [編集] ボタン

完了条件を編集するときにクリックします。

編集したい完了条件の定義名を選択したあと、このボタンをクリックすると、[条件プロパティ] ダイアログが表示されます。[条件プロパティ] ダイアログについては、「6.7.9 [条件プロパティ] ダイアログ」を参照してください。

完了条件がない場合、または「@False」が選択されている場合は、このボタンは非活性になります。

#### [条件再評価を行う]

条件の再評価をする場合にチェックします。

#### [説明]

必要に応じて並列作業に関する説明を入力します。

#### [OK] ボタン

[並列作業プロパティ] ダイアログを閉じます。各項目で設定した内容が反映されます。

#### [キャンセル] ボタン

[並列作業プロパティ] ダイアログを閉じます。各項目で設定した内容は反映されません。

## 6.7.7 [制御ノードプロパティ] ダイアログ

[制御ノードプロパティ] ダイアログでは、分業ノード、分岐ノード、待合ノード、および先着ノードの属性を設定します。

### (1) 分業ノードの場合

[制御ノードプロパティ] ダイアログ（分業ノードの場合）を次に示します。

図 6-29 【制御ノードプロパティ】 ダイアログ (分業ノードの場合)



【制御ノードプロパティ】 ダイアログ (分業ノードの場合) の各項目について説明します。

#### 【制御ノード種別】

「分業ノード」が表示されます。

#### 【定義名】

分業ノードの定義名を入力します。

デフォルトでは、新規分業ノード 1~新規分業ノード n が表示されます。n は一意となる整数が割り当てられます。

#### 【OK】 ボタン

【制御ノードプロパティ】 ダイアログを閉じます。各項目で設定した内容が反映されます。

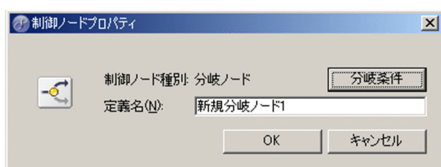
#### 【キャンセル】 ボタン

【制御ノードプロパティ】 ダイアログを閉じます。各項目で設定した内容は反映されません。

## (2) 分岐ノードの場合

【制御ノードプロパティ】 ダイアログ (分岐ノードの場合) を次に示します。

図 6-30 【制御ノードプロパティ】 ダイアログ (分岐ノードの場合)



【制御ノードプロパティ】 ダイアログ (分岐ノードの場合) の各項目について説明します。

#### 【制御ノード種別】

「分岐ノード」が表示されます。

#### 【分岐条件】 ボタン

分岐条件を変更する場合にクリックします。

このボタンをクリックすると、【分岐条件の設定】 ダイアログが表示されるので、変更する分岐条件を指定してください。【分岐条件の設定】 ダイアログについては、「[6.7.8 【分岐条件の設定】 ダイアログ](#)」を参照してください。

#### 【定義名】

分岐ノードの定義名を入力します。

デフォルトでは、新規分岐ノード 1～新規分岐ノード n が表示されます。n は一意となる整数が割り当てられます。

#### [OK] ボタン

[制御ノードプロパティ] ダイアログを閉じます。各項目の設定が有効になります。

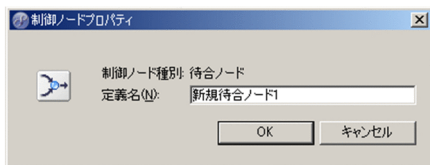
#### [キャンセル] ボタン

[制御ノードプロパティ] ダイアログを閉じます。各項目の設定が無効になります。

### (3) 待合ノードの場合

[制御ノードプロパティ] ダイアログ (待合ノードの場合) を次に示します。

図 6-31 [制御ノードプロパティ] ダイアログ (待合ノードの場合)



[制御ノードプロパティ] ダイアログ (待合ノードの場合) の各項目について説明します。

#### [制御ノード種別]

「待合ノード」が表示されます。

#### [定義名]

待合ノードの定義名を入力します。

デフォルトでは、新規待合ノード 1～新規待合ノード n が表示されます。n は一意となる整数が割り当てられます。

#### [OK] ボタン

[制御ノードプロパティ] ダイアログを閉じます。各項目で設定した内容が反映されます。

#### [キャンセル] ボタン

[制御ノードプロパティ] ダイアログを閉じます。各項目で設定した内容は反映されません。

### (4) 先着ノードの場合

[制御ノードプロパティ] ダイアログ (先着ノードの場合) を次に示します。

図 6-32 [制御ノードプロパティ] ダイアログ (先着ノードの場合)



[制御ノードプロパティ] ダイアログ (先着ノードの場合) の各項目について説明します。

## 【制御ノード種別】

「先着ノード」が表示されます。

## 【後続停止】

後続停止を設定する場合にチェックします。

## 【定義名】

先着ノードの定義名を入力します。

デフォルトでは、新規先着ノード 1～新規先着ノード n が表示されます。n は一意となる整数が割り当てられます。

## 【OK】 ボタン

【制御ノードプロパティ】 ダイアログを閉じます。各項目で設定した内容が反映されます。

## 【キャンセル】 ボタン

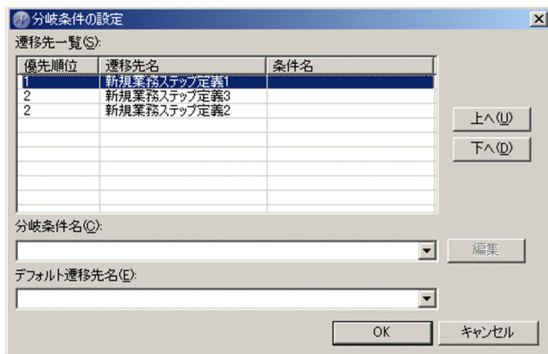
【制御ノードプロパティ】 ダイアログを閉じます。各項目で設定した内容は反映されません。

## 6.7.8 【分岐条件の設定】 ダイアログ

【分岐条件の設定】 ダイアログでは、分岐ノードの分岐条件を設定します。

【分岐条件の設定】 ダイアログを次に示します。

図 6-33 【分岐条件の設定】 ダイアログ



【分岐条件の設定】 ダイアログの各項目について説明します。

### 【遷移先一覧】

遷移先として遷移定義で結び付けられた定義の一覧を表示します。

ただし、【デフォルト遷移先名】に表示されている条件定義は、ここでは表示されません。

### 【優先順位】

優先度（昇順）を 1 以上の整数で表示します。

### 【遷移先名】

遷移先の定義名を表示します。

### [条件名]

分岐条件の条件名が表示されます。

[分岐条件名] の [編集] ボタンで選択した条件名が表示されます。

### [上へ] ボタン

[遷移先一覧] で選択した定義の行から、1 行上の位置へ移動させるときにクリックします。

いちばん上の行が選択されている場合は、このボタンは非活性になります。

### [下へ] ボタン

[遷移先一覧] で選択した定義の行から、1 行下の位置へ移動させるときにクリックします。

いちばん下の行が選択されている場合は、このボタンは非活性になります。

### [分岐条件名]

[遷移先一覧] で選択した定義の条件名が表示されます。

### [編集] ボタン

[分岐条件名] に表示されている分岐条件を編集するときをクリックします。

分岐条件がない場合、または「@True」もしくは「@False」が選択されている場合は、このボタンは非活性になります。

このボタンをクリックすると、[条件プロパティ] ダイアログが表示されるので、編集する分岐条件を指定してください。[条件プロパティ] ダイアログについては、[\[6.7.9 \[条件プロパティ\] ダイアログ\]](#) を参照してください。

### [デフォルト遷移先名]

[遷移先一覧] からデフォルトとして設定する定義を選択します。

遷移先の定義名が重複する場合、「定義名 (定義種別)」と表示されます。定義種別の文字列は、ビジネスプロセス遷移エディタのパレットの項目と同じです。定義名と定義種別の対応を次の表に示します。

表 6-48 遷移先の定義名に対応する定義種別の文字列

遷移先の定義名	定義種別の文字列
業務ステップ定義	業務ステップ
ソースノード	ソースノード
シンクノード	シンクノード
分業ノード定義	分業ノード
分岐ノード定義	分岐ノード
待合ノード定義	待合ノード
先着ノード定義	先着ノード
階層定義	階層定義

### [OK] ボタン

[分岐条件の設定] ダイアログを閉じます。各項目で設定した内容が反映されます。

## [キャンセル] ボタン

[分岐条件の設定] ダイアログを閉じます。各項目で設定した内容は反映されません。

## 6.7.9 [条件プロパティ] ダイアログ

[条件プロパティ] ダイアログでは、条件定義の属性を設定します。

[条件プロパティ] ダイアログの各項目について説明します。

### [定義名]

条件の定義名を入力します。

デフォルトでは、新規条件定義 1～新規条件定義 n が表示されます。n は一意となる整数が割り当てられます。

### [条件種別]

条件種別を選択します。条件種別によって表示される画面が異なります。

選択できる条件種別は次のとおりです。

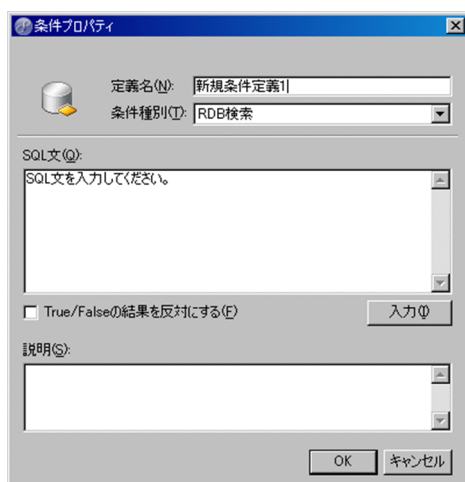
- RDB 検索
- Java

## (1) RDB 検索の場合

条件定義 (RDB 検索) の属性を設定します。

[条件プロパティ] ダイアログ (RDB 検索) を次に示します。

図 6-34 [条件プロパティ] ダイアログ (RDB 検索)



[条件プロパティ] ダイアログ (RDB 検索) の各項目について説明します。



## [SQL 文]

条件を評価するための SQL 文を記述します。

デフォルトでは、「SQL 文を入力してください。」が表示されます。デフォルトから変更していない場合は登録できません。

「条件種別」を変更すると、デフォルト値が再表示されます。

## [True/False の結果を反対にする]

True/False の結果を反対にする場合にチェックします。

## [入力] ボタン

ファイルを指定して SQL 文の内容を設定する場合に選択します。

このボタンを押すと、ファイル選択ダイアログが表示されます。ファイル選択ダイアログから SQL 文を記述したファイルを指定すると、そのファイルの内容が設定されます。このとき、ファイルの文字コードは、CSCIW-Definer ページの設定に従います。CSCIW-Definer ページについては、「[6.2.4\(1\) \(a\) CSCIW-Definer ページ](#)」を参照してください。

## [説明]

必要に応じて条件定義（RDB 検索）に関する説明を入力します。

## [OK] ボタン

「条件プロパティ」ダイアログ（RDB 検索）を閉じます。各項目で設定した内容が反映されます。

## [キャンセル] ボタン

「条件プロパティ」ダイアログ（RDB 検索）を閉じます。各項目で設定した内容は反映されません。

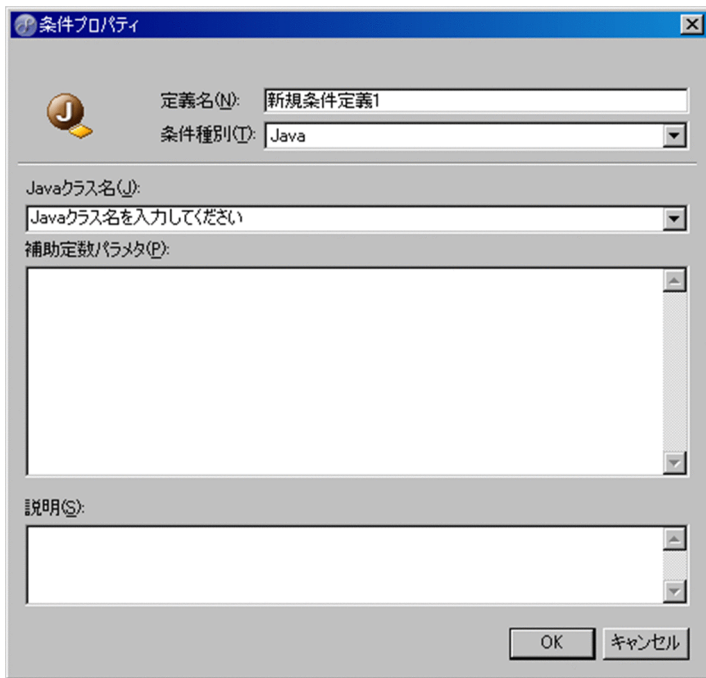
## (2) Java オブジェクト呼び出しの場合

条件定義（Java）の属性を設定します。

「条件プロパティ」ダイアログ（Java）を次に示します。



図 6-35 [条件プロパティ] ダイアログ (Java)



[条件プロパティ] ダイアログ (Java) の各項目について説明します。

#### [Java クラス名]

条件評価するための Java クラス名を記述します。

デフォルトでは、「Java クラス名を入力してください」が表示されます。デフォルトから変更していない場合は登録できません。

「条件種別」を変更すると、デフォルト値が再表示されます。

#### [補助定数パラメタ]

Java オブジェクトを呼び出す場合、渡したい定数パラメタがあるときに、補助定数パラメタを記述します。

「条件種別」を変更すると、入力値は初期化されます。

#### [説明]

必要に応じて条件定義 (Java) に関する説明を入力します。

#### [OK] ボタン

[条件プロパティ] ダイアログ (Java) を閉じます。各項目で設定した内容が反映されます。

#### [キャンセル] ボタン

[条件プロパティ] ダイアログ (Java) を閉じます。各項目で設定した内容は反映されません。

## 6.7.10 [生成ルールプロパティ] ダイアログ

[生成ルールプロパティ] ダイアログでは、生成ルール定義の属性を設定します。

[生成ルールプロパティ] ダイアログの各項目について説明します。

### [定義名]

生成ルールの定義名を入力します。

デフォルトでは、新規生成ルール定義 1～新規生成ルール定義 n が表示されます。n は一意となる整数が割り当てられます。

### [生成ルール種別]

生成ルール種別を選択します。生成ルール種別によって表示される画面が異なります。選択できる生成ルール種別は次のとおりです。

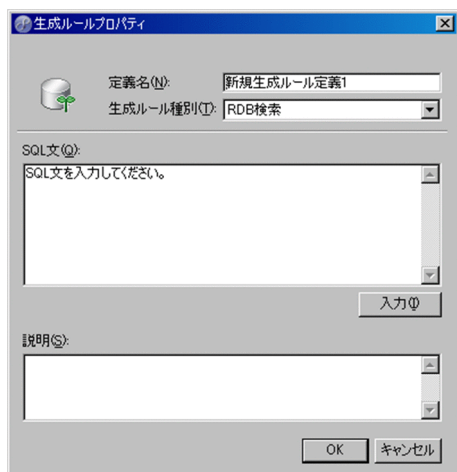
- RDB 検索
- Java

## (1) RDB 検索の場合

生成ルール定義 (RDB 検索) の属性を設定します。

[生成ルールプロパティ] ダイアログ (RDB 検索) を次に示します。

図 6-36 [生成ルールプロパティ] ダイアログ (RDB 検索)



[生成ルールプロパティ] ダイアログ (RDB 検索) の各項目について説明します。

### [SQL 文]

生成識別子のリストを取得するための SQL 文を記述します。

デフォルトでは、「SQL 文を入力してください。」が表示されます。デフォルトから変更していない場合は登録できません。

「生成ルール種別」を変更すると、デフォルト値が再表示されます。

### [入力] ボタン

ファイルを指定して SQL 文の内容を設定する場合に選択します。

このボタンを押すと、ファイル選択ダイアログが表示されます。ファイル選択ダイアログから SQL 文を記述したファイルを指定すると、そのファイルの内容が設定されます。このとき、ファイルの文字コードは、CSCIW-Definer ページの設定に従います。CSCIW-Definer ページについては、「6.2.4(1) (a) CSCIW-Definer ページ」を参照してください。

#### [説明]

必要に応じて生成ルール定義（RDB 検索）に関する説明を入力します。

#### [OK] ボタン

[生成ルールプロパティ] ダイアログ（RDB 検索）を閉じます。各項目で設定した内容が反映されます。

#### [キャンセル] ボタン

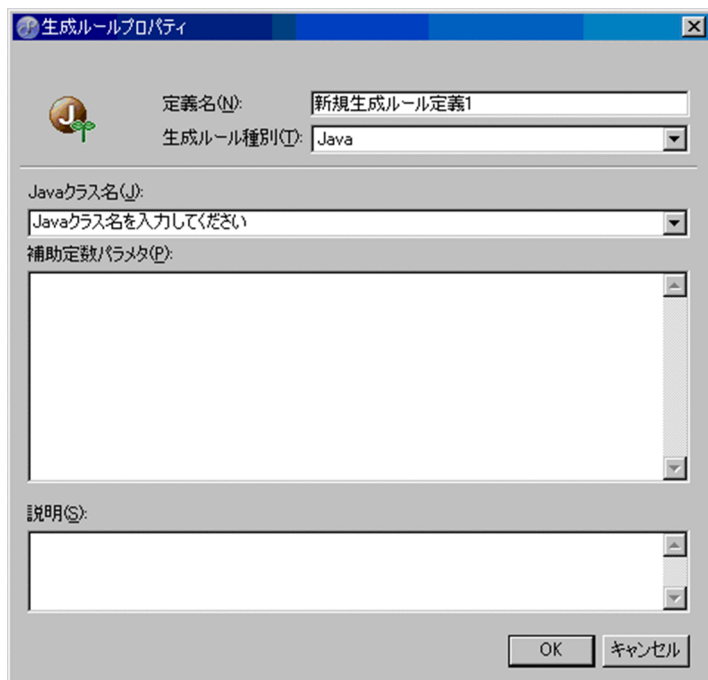
[生成ルールプロパティ] ダイアログ（RDB 検索）を閉じます。各項目で設定した内容は反映されません。

## (2) Java オブジェクト呼び出しの場合

生成ルール定義（Java）の属性を設定します。

[生成ルールプロパティ] ダイアログ（Java）を次に示します。

図 6-37 [生成ルールプロパティ] ダイアログ（Java）



[生成ルールプロパティ] ダイアログ（Java）の各項目について説明します。

#### [Java クラス名]

生成識別子のリストを取得するための Java クラス名を記述します。

デフォルトでは、「Java クラス名を入力してください」が表示されます。デフォルトから変更していない場合は登録できません。

「生成ルール種別」を変更すると、デフォルト値が再表示されます。

#### 【補助定数パラメタ】

Java オブジェクトを呼び出す場合、渡したい定数パラメタがあるときに、補助定数パラメタを記述します。

「生成ルール種別」を変更すると、入力値は初期化されます。

#### 【説明】

必要に応じて生成ルール定義（Java）に関する説明を入力します。

#### 【OK】 ボタン

【生成ルールプロパティ】 ダイアログ（Java）を閉じます。各項目で設定した内容が反映されます。

#### 【キャンセル】 ボタン

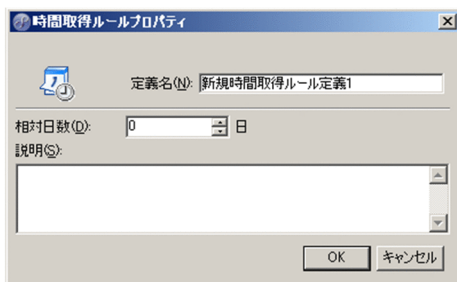
【生成ルールプロパティ】 ダイアログ（Java）を閉じます。各項目で設定した内容は反映されません。

## 6.7.11 【時間取得ルールプロパティ】 ダイアログ

【時間取得ルールプロパティ】 ダイアログでは、時間取得ルール定義（相対時間）の属性を設定します。

【時間取得ルールプロパティ】 ダイアログを次に示します。

図 6-38 【時間取得ルールプロパティ】 ダイアログ



【時間取得ルールプロパティ】 ダイアログの各項目について説明します。

#### 【定義名】

時間取得ルールの定義名を入力します。

デフォルトでは、新規時間取得ルール定義 1～新規時間取得ルール定義 n が表示されます。n は一意となる整数が割り当てられます。

#### 【相対日数】

相対日数を入力します。

入力できる値は、0～9999 の整数です。

デフォルトでは、0（ゼロ）が表示されます。

#### 【説明】

必要に応じて時間取得ルールに関する説明を入力します。

## [OK] ボタン

[時間取得ルールプロパティ] ダイアログを閉じます。各項目で設定した内容が反映されます。

## [キャンセル] ボタン

[時間取得ルールプロパティ] ダイアログを閉じます。各項目で設定した内容は反映されません。

## 6.7.12 [作業アプリケーション定義プロパティ] ダイアログ

[作業アプリケーション定義プロパティ] ダイアログでは、作業アプリケーション定義の属性を設定します。

[作業アプリケーション定義プロパティ] ダイアログを次に示します。

図 6-39 [作業アプリケーション定義プロパティ] ダイアログ (作業アプリケーション定義種別が Java の場合)

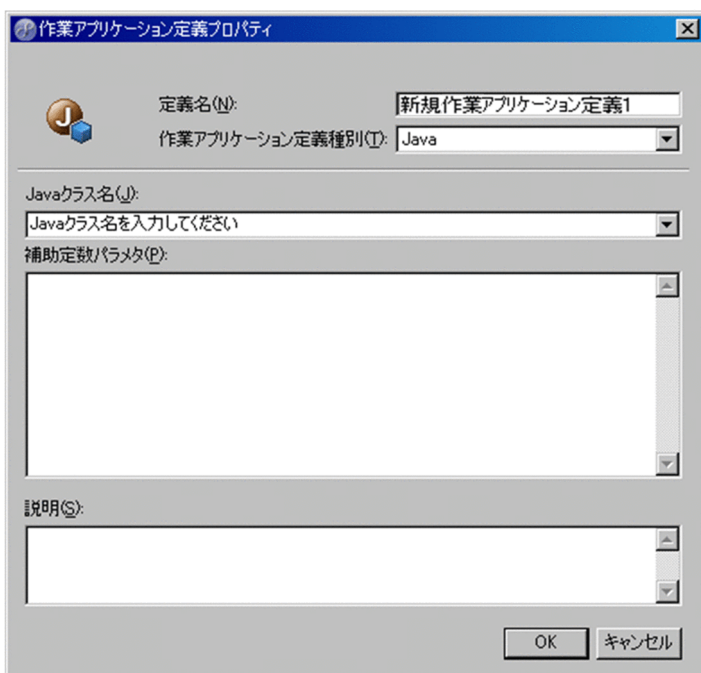
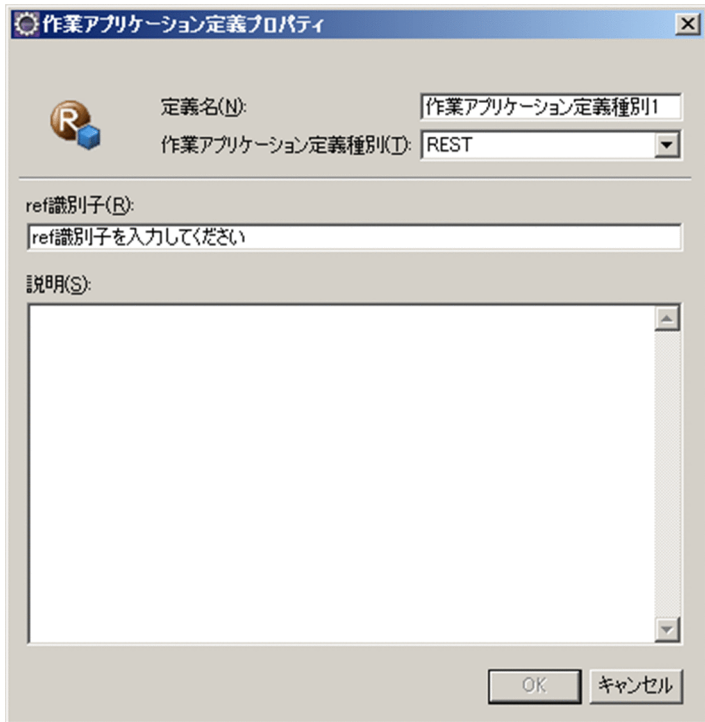


図 6-40 「作業アプリケーション定義プロパティ」ダイアログ（作業アプリケーション定義種別が REST の場合）



「作業アプリケーション定義プロパティ」ダイアログの各項目について説明します。

#### 【定義名】

作業アプリケーションの定義名を入力します。

デフォルトでは、新規作業アプリケーション定義 1～新規作業アプリケーション定義 n が表示されます。n は一意となる整数が割り当てられます。

#### 【作業アプリケーション定義種別】

「Java」または「REST」が表示されます。

「Java」を選択すると、「図 6-39 「作業アプリケーション定義プロパティ」ダイアログ（作業アプリケーション定義種別が Java の場合）」が表示され、「REST」を選択すると、「図 6-40 「作業アプリケーション定義プロパティ」ダイアログ（作業アプリケーション定義種別が REST の場合）」が表示されます。

#### 【Java クラス名】

作業アプリケーションとして呼び出す Java クラス名を記述します。

デフォルトでは、「Java クラス名を入力してください」が表示されます。デフォルトから変更していない場合は登録できません。

#### 【補助定数パラメタ】

Java オブジェクトを呼び出す場合、渡したい定数パラメタがあるときに、補助定数パラメタを記述します。

## [ref 識別子]

作業アプリケーションとして呼び出す ref 識別子を記述します。

デフォルトでは、「ref 識別子を入力してください」が表示されます。デフォルトから変更していない場合は登録できません。

## [説明]

必要に応じて作業アプリケーション定義に関する説明を入力します。

## [OK] ボタン

[作業アプリケーション定義プロパティ] ダイアログを閉じます。各項目で設定した内容が反映されます。

## [キャンセル] ボタン

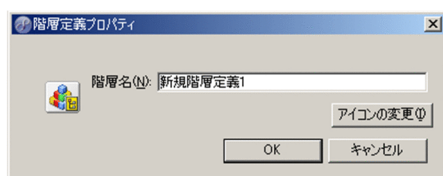
[作業アプリケーション定義プロパティ] ダイアログを閉じます。各項目で設定した内容は反映されません。

## 6.7.13 [階層定義プロパティ] ダイアログ

[階層定義プロパティ] ダイアログでは、階層定義の属性を設定します。

[階層定義プロパティ] ダイアログを次に示します。

### 図 6-41 [階層定義プロパティ] ダイアログ



[階層定義プロパティ] ダイアログの各項目について説明します。

## [階層名]

階層の定義名を入力します。

デフォルトでは、新規階層定義 1～新規階層定義 n が表示されます。n は一意となる整数が割り当てられます。

## [アイコンの変更] ボタン

アイコンを変更する場合にクリックします。

このボタンをクリックすると、[階層定義アイコンの変更] ダイアログが表示されるので、変更するアイコンを指定してください。[階層定義アイコンの変更] ダイアログについては、「6.7.17 [階層定義アイコンの変更] ダイアログ」を参照してください。

## [OK] ボタン

[階層定義プロパティ] ダイアログを閉じます。各項目で設定した内容が反映されます。



## [キャンセル] ボタン

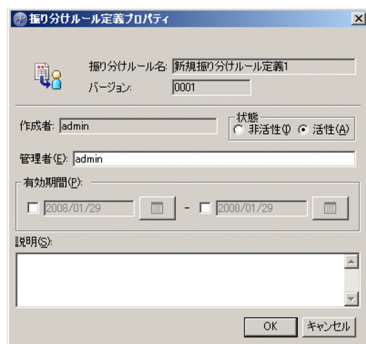
[階層定義プロパティ] ダイアログを閉じます。各項目で設定した内容は反映されません。

## 6.7.14 [振り分けルール定義プロパティ] ダイアログ (変更用)

[振り分けルール定義プロパティ] ダイアログ (変更用) では、振り分けルール定義の属性を設定します。

[振り分けルール定義プロパティ] ダイアログ (変更用) を次に示します。

図 6-42 [振り分けルール定義プロパティ] ダイアログ (変更用)



[振り分けルール定義プロパティ] ダイアログ (変更用) の各項目について説明します。

### [振り分けルール名]

選択した振り分けルール定義の定義名が表示されます。

### [バージョン]

選択した振り分けルール定義のバージョンが表示されます。

### [作成者]

選択した振り分けルール定義の作成者を表示します。

### [状態]

振り分けルール定義の現在の状態を表示します。

非活性状態の場合は [非活性] に、活性状態の場合は [活性] にチェックが入った状態で表示されます。

#### [非活性]

振り分けルール定義を非活性状態にする場合にチェックします。

#### [活性]

振り分けルール定義を活性状態にする場合にチェックします。

### [管理者]

選択した振り分けルール定義の管理者が表示されます。

必要に応じて管理者を変更します。



## [有効期間]

振り分けルール定義の有効期間を設定している場合に日付が表示されます。

必要に応じて開始日（左側のテキストボックス）と終了日（右側のテキストボックス）の日付を変更します。開始日だけ、または終了日だけを変更することもできます。

日付の指定は、テキストボックス右側のカレンダーボタンをクリックし、表示された [カレンダー] ダイアログから選択します。[カレンダー] ダイアログについては、「6.7.18 [カレンダー] ダイアログ」を参照してください。

## [説明]

必要に応じて振り分けルール定義に関する説明を変更します。

## [OK] ボタン

[振り分けルール定義プロパティ] ダイアログ（変更用）を閉じます。各項目で設定した内容が反映されます。

## [キャンセル] ボタン

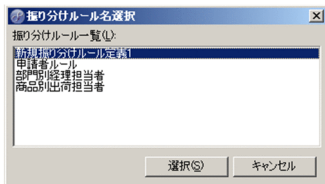
[振り分けルール定義プロパティ] ダイアログ（変更用）を閉じます。各項目で設定した内容は反映されません。

## 6.7.15 [振り分けルール名選択] ダイアログ

[振り分けルール名選択] ダイアログでは、登録済みの振り分けルール名を選択します。

[振り分けルール名選択] ダイアログを次に示します。

図 6-43 [振り分けルール名選択] ダイアログ



[振り分けルール名選択] ダイアログの各項目について説明します。

### [振り分けルール一覧]

登録済みの振り分けルールの定義名を表示します。

表示された一覧の中から定義名を指定します。

### [選択] ボタン

[振り分けルール名選択] ダイアログを閉じます。振り分けルール一覧で指定した振り分けルールが選択されます。

### [キャンセル] ボタン

[振り分けルール名選択] ダイアログを閉じます。振り分けルールは選択されません。

## 6.7.16 [業務ステップアイコンの変更] ダイアログ

[業務ステップアイコンの変更] ダイアログでは、業務ステップ定義のアイコンを変更します。

[業務ステップアイコンの変更] ダイアログを次に示します。

図 6-44 [業務ステップアイコンの変更] ダイアログ



[業務ステップアイコンの変更] ダイアログの各項目について説明します。

### [アイコン一覧]

アイコンの一覧が表示されます。

表示された一覧の中から変更後のアイコンを指定します。

### [現在の設定]

変更対象のアイコンが表示されます。

### [OK] ボタン

[業務ステップアイコンの変更] ダイアログを閉じます。アイコンの一覧で指定したアイコンに変更されます。

### [キャンセル] ボタン

[業務ステップアイコンの変更] ダイアログを閉じます。アイコンは変更されません。

## 6.7.17 [階層定義アイコンの変更] ダイアログ

[階層定義アイコンの変更] ダイアログでは、階層定義のアイコンを変更します。

[階層定義アイコンの変更] ダイアログを次に示します。

図 6-45 [階層定義アイコンの変更] ダイアログ



[階層定義アイコンの変更] ダイアログの各項目について説明します。

## [アイコン一覧]

アイコンの一覧が表示されます。

表示された一覧の中から変更後のアイコンを指定します。

## [現在の設定]

変更対象のアイコンが表示されます。

## [OK] ボタン

[階層定義アイコンの変更] ダイアログを閉じます。アイコンの一覧で指定したアイコンに変更されます。

## [キャンセル] ボタン

[階層定義アイコンの変更] ダイアログを閉じます。アイコンは変更されません。

## 6.7.18 [カレンダー] ダイアログ

[カレンダー] ダイアログでは、日付を設定します。

[カレンダー] ダイアログを開くと、開いた日付のカレンダーが表示されます。

[カレンダー] ダイアログを次に示します。

### 図 6-46 [カレンダー] ダイアログ



[カレンダー] ダイアログの各項目について説明します。

### 年月表示

#### 前年アイコン (◀◀)

現在表示しているカレンダーの1つ前の年を表示させるときにクリックします。

#### 前月アイコン (◀)

現在表示しているカレンダーの1つ前の月を表示させるときにクリックします。

#### [YYYY/MM]

西暦の年と月を表示します。

デフォルトでは、現在の年月が表示されます。

### 次月アイコン (▶)

現在表示しているカレンダーの 1 つ先の月を表示させるときにクリックします。

### 次年アイコン (▶▶)

現在表示しているカレンダーの 1 つ先の年を表示させるときにクリックします。

### 日付表示

日付を指定したい場合に選択します。

指定したい日付をクリックすると、[カレンダー] ダイアログを表示させた画面の日付欄に反映され、[カレンダー] ダイアログを閉じます。

デフォルトでは、[カレンダー] ダイアログを開いたときの日付が紫色の太字で表示されます。

### [キャンセル] ボタン

[カレンダー] ダイアログを閉じます。

# 付録

## 付録 A 環境設定ファイル

ここでは、CSCIW-Definer の環境設定ファイルについて説明します。

CSCIW-Definer の環境設定ファイルは次の 3 種類です。

- ビジネスプロセス管理プロパティファイル  
CSCIW-Definer を使用するための情報を設定するファイルです。
- クラス名設定プロパティファイル  
CSCIW-Definer で定義ごとのクラス名に設定する候補値を設定するファイルです。

環境設定ファイルの内容を次に示します。

### 付録 A.1 ビジネスプロセス管理プロパティファイル

ビジネスプロセス管理プロパティファイルは、設定内容を使用する環境に合わせて直接変更できます。また、上書きインストール時に、ビジネスプロセス管理プロパティファイルは上書きされません。

ビジネスプロセス管理プロパティファイルの格納パスは、次のとおりです。

```
<uCosminexus Business Process Developerインストールディレクトリ>%conf%csciwdefiner.properties
```

ビジネスプロセス管理プロパティファイルの設定値は、CSCIW-Definer パースペクティブを開くなど、CSCIW-Definer の初期化をしたときに一度だけ読み込まれます。初期化したあとに設定値を変更した場合は、Eclipse を再起動し、CSCIW-Definer の初期化をし直す必要があります。

ビジネスプロセス管理プロパティファイルの設定内容を次に示します。

なお、ビジネスプロセス管理プロパティファイルはプロパティファイル形式のため、Java のプロパティファイルの仕様に従います。

表 A-1 ビジネスプロセス管理プロパティファイルの設定内容

キー※	内容	設定
MsgFileDir	メッセージファイル出力先ディレクトリ メッセージファイルの出力先ディレクトリを指定します。	任意
TraceFileDir	トレースファイル出力先ディレクトリ トレースファイルの出力先ディレクトリを指定します。	任意
MsgFileNum	メッセージファイル出力面数 メッセージファイルの出力面数を、1～16 の整数で指定します。 デフォルトは 2 です。	任意

キー※	内容	設定
TraceFileNum	<b>トレースファイル出力面数</b> トレースファイルの出力面数を、1～16の整数で指定します。 デフォルトは4です。	任意
MsgFileSize	<b>メッセージファイル出力サイズ</b> メッセージファイルの出力サイズを、100000～2147483647の整数で指定します。(単位：バイト) デフォルトは2097152です。	任意
TraceFileSize	<b>トレースファイル出力サイズ</b> トレースファイルの出力サイズを、100000～2147483647の整数で指定します。(単位：バイト) デフォルトは16777216です。	任意
MsgOutputThreshold	<b>メッセージ出力レベル</b> メッセージ出力レベルを、-1～1000の数値で指定します。 デフォルトは20です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>出力しない場合 -1を指定</li> <li>値以下のレベルを出力する場合 0以上の値を指定</li> </ul>	任意
TraceOutputThreshold	<b>トレース出力レベル</b> トレース出力レベルを、-1～1000の数値で指定します。 デフォルトは20です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>出力しない場合 -1を指定</li> <li>値以下のレベルを出力する場合 0以上の値を指定</li> </ul>	任意
LogRotationMode	<b>ログのローテーション種別</b> 次のどちらかを指定します。 デフォルトはWRAPです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>WRAP ラップアラウンドモード</li> <li>SHIFT シフトモード</li> </ul>	任意
RotationTime	<b>ログのローテーション時刻</b> ログのローテーション時刻を、[HHMMSS]形式の6桁固定文字列で、000000～235959の範囲で指定します。 ログのローテーション時刻が有効なのは、ローテーション種別がシフトモードの場合だけです。 デフォルトは空文字列です。 なお、空文字列の場合は時刻によるローテーションは無効となり、ローテーション条件にファイルサイズだけを使用します。	任意

注※

記載しているキー以外の内容を指定した場合、指定したキーおよび値は無視されます。

## 付録 A.2 クラス名設定プロパティファイル

CSCIW-Definer で定義ごとの Java オブジェクト呼び出しのクラス名を設定する場合、このプロパティファイルで設定した値を選択できます。

クラス名設定プロパティファイルの格納パスは、次のとおりです。

```
<uCosminexus Business Process Developerインストールディレクトリ>%conf%csciwclassnamelist.properties
```

クラス名設定プロパティファイルの設定値は、CSCIW-Definer の初期化をしたときに一度だけ読み込まれます。初期化したあとに設定値を変更した場合は、Eclipse を再起動し、CSCIW-Definer の初期化をし直す必要があります。

クラス名設定プロパティファイルの設定内容を次に示します。

なお、クラス名設定プロパティファイルはプロパティファイル形式のため、Java のプロパティファイルの仕様に従います。

表 A-2 クラス名設定プロパティファイルの設定内容

キー名称	内容
condition.java.classname.<文字列>	条件定義の Java クラス名の候補値 条件定義の Java クラス名の候補値を指定します。
creationrule.java.classname.<文字列>	生成ルール定義の Java クラス名の候補値 生成ルール定義の Java クラス名の候補値を指定します。
application.java.classname.<文字列>	作業アプリケーション定義の Java クラス名の候補値 作業アプリケーション定義の Java クラス名の候補値を指定します。
castingrule.java.classname.<文字列>	振り分けルール定義の Java クラス名の候補値 振り分けルール定義の Java クラス名の候補値を指定します。

- <文字列>には 1 文字以上の任意の文字列を指定してください。
- キー名称が重複している場合、その中から 1 つの値だけを読み込みます。1 つの項目に複数の候補値を設定するときは、キー名称の重複を避けてください。
- 1 つの項目に複数の候補値を設定した場合、候補値は Unicode 順にソートされます。
- キー名称が表の形式と一致しない場合、または Java クラス名に設定できない文字列を指定した場合は、エラーとなります。
- ファイルのエンコーディングは UTF-8 とし、BOM を付けずに保存してください。
- CSCIW 02-20 以前で使用していたクラス名設定プロパティファイル（Unicode 形式のファイルを含む）を、そのまま使用することもできます。



## 付録 B 各種定義の設定項目

ここでは、ビジネスプロセス定義、業務ステップ定義など各種定義で設定する項目について説明します。

なお、テーブルについては、マニュアル「uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow システム構築・運用ガイド」の「テーブルおよびインデクス定義」の説明を参照してください。

### 付録 B.1 ビジネスプロセス定義の設定項目

ビジネスプロセス定義を定義するときに [ビジネスプロセス定義プロパティ] ダイアログで設定する項目、設定の要否、および設定値を次の表に示します。

表 B-1 ビジネスプロセス定義の設定項目一覧

項目	要否	設定値
ビジネスプロセス名	○	ビジネスプロセス定義の定義名を入力します。 定義名は、テーブル「PROCESS_DEF」の Name カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 64 バイトです。
バージョン	○	0~9999 の範囲で設定します。
作成者	×	定義登録者の ID が設定されます。 作成者は、テーブル「PROCESS_DEF」の Author カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 32 バイトです。
状態		「活性」または「非活性」のどちらかを選択します。 省略した場合、「非活性」になります。
処理期限ルール名		時間取得ルール定義（相対時間）の定義名を設定します。 省略した場合、処理期限ルールなしになります。
アドホック API を使用する		アドホック API を使用する場合にチェックします。
管理者		管理者を入力します。 管理者は、テーブル「PROCESS_DEF」の Responsible カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 32 バイトです。 省略した場合、作成者と同じ値が登録時に設定されます。
案件投入可能期間		1970/01/03~9999/12/30 の範囲で設定します。 省略時は、開始日には無限遠の過去（ORIGIN）、終了日には無限遠の未来（BEYOND）を設定します。 開始日と終了日の両方を省略した場合、常に案件を投入できる状態になります。
説明		必要に応じてビジネスプロセス定義に関する説明を入力します。

項目	要否	設定値
説明		説明は、テーブル「PROCESS_DEF」の Description カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 250 バイトです。 省略した場合、説明なし（空欄）になります。

(凡例)

- ：必須
- ×：不可
- 空欄：任意

## 付録 B.2 業務ステップ定義の設定項目

業務ステップ定義を定義するときに [業務ステッププロパティ] ダイアログで設定する項目、設定の要否、および設定値を次の表に示します。

表 B-2 業務業務ステップ定義の設定項目一覧

項目	要否	設定値
業務ステップ定義名	○	業務ステップ定義の定義名を入力します。 定義名は、テーブル「ACTICITY_DEF」の Name カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 64 バイトです。
事前生成		「する」または「しない」のどちらかを選択します。 省略した場合、事前生成は「しない」になります。
完了条件名		完了条件の定義名、または「@False」を選択します。 省略した場合、完了条件は常に偽 (FALSE) として評価されます。
処理期限ルール名		時間取得ルール定義 (相対時間) の定義名を設定します。 省略した場合、処理期限ルールなしになります。
説明		必要に応じて業務ステップ定義に関する説明を入力します。 説明は、テーブル「ACTICITY_DEF」の Description カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 250 バイトです。 省略した場合、説明なし（空欄）になります。

(凡例)

- ：必須
- 空欄：任意

## 付録 B.3 一般作業定義の設定項目

一般作業を定義するときに [一般作業プロパティ] ダイアログで設定する項目、設定の要否、および設定値を次の表に示します。

表 B-3 一般作業定義の設定項目一覧

項目	要否	設定値
作業定義名	○	作業の定義名を入力します。 定義名は、テーブル「WORK_DEF」の Name カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 64 バイトです。
作業アプリケーション定義名		作業アプリケーション定義の定義名を入力します。 省略した場合、作業アプリケーション定義なしになります。
振り分けルール名	△	振り分けルール定義の定義名を入力します。 省略した場合、振り分けルールなしになります。 作業アプリケーション定義名が定義されていない場合、入力必須です。
条件	発生条件名	発生条件の定義名、または「@True」を選択します。 省略した場合、発生条件は常に真 (TRUE) として評価されます。
	完了条件名	完了条件の定義名、または「@False」を選択します。 省略した場合、完了条件は常に偽 (FALSE) として評価されます。
	条件再評価	「する」または「しない」のどちらかを選択します。 省略した場合、再評価は「しない」になります。
説明		必要に応じて一般作業に関する説明を入力します。 説明は、テーブル「WORK_DEF」の Description カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 250 バイトです。 省略した場合、説明なし (空欄) になります。

(凡例)

○：必須

△：場合によって必須

空欄：任意

## 付録 B.4 並列作業定義の設定項目

並列作業を定義するときに [並列作業プロパティ] ダイアログで設定する項目、設定の要否、および設定値を次の表に示します。

表 B-4 並列作業定義の設定項目一覧

項目	要否	設定値
作業定義名	○	作業の定義名を入力します。 定義名は、テーブル「WORK_DEF」の Name カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 64 バイトです。
子作業定義名	○	一般作業の定義名を選択します。
子作業生成ルール名	○	生成ルールの定義名を選択します。
条件	発生条件名	発生条件の定義名、または「@True」を選択します。 省略した場合、発生条件は常に真 (TRUE) として評価されます。
	完了条件名	完了条件の定義名、または「@False」を選択します。 省略した場合、完了条件は常に偽 (FALSE) として評価されます。
	条件再評価	「する」または「しない」のどちらかを選択します。 省略した場合、再評価は「しない」になります。
説明		必要に応じて並列作業に関する説明を入力します。 説明は、テーブル「WORK_DEF」の Description カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 250 バイトです。 省略した場合、説明なし (空欄) になります。

(凡例)

○：必須

空欄：任意

## 付録 B.5 制御ノード定義の設定項目

制御ノード定義では、分業ノード、分岐ノード、待合ノード、および先着ノードの属性を設定します。

### (1) 分業ノード定義の設定項目

分業ノード定義を定義するときに [制御ノードプロパティ] ダイアログで設定する項目、設定の要否、および設定値を次の表に示します。

表 B-5 分業ノード定義の設定項目一覧

項目	要否	設定値
定義名	○	分業ノードの定義名を入力します。 定義名は、テーブル「CONTROLNODE_DEF」の Name カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 64 バイトです。

(凡例)

○：必須

## (2) 分岐ノード定義の設定項目

分岐ノードを定義するときに [制御ノードプロパティ] ダイアログで設定する項目、設定の要否、および設定値を次の表に示します。

表 B-6 分岐ノード定義の設定項目一覧

項目	要否	設定値
定義名	○	分岐ノードの定義名を入力します。 定義名は、テーブル「CONTROLNODE_DEF」の Name カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 64 バイトです。
分岐条件	優先順位	○ 優先度 (昇順) を正の整数を設定します。
	遷移先名	○ 次のどれかを選択します。ただし、「デフォルト遷移先名」に表示されている条件定義は、ここでは表示されません。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 業務ステップ定義</li><li>• 分業ノード定義</li><li>• 分岐ノード定義</li><li>• 待合ノード定義</li><li>• 先着ノード定義</li><li>• 階層定義</li></ul>
	条件名	○ 分岐条件の定義名、「@True」(常に真)、または「@False」(常に偽)を選択します。
	分岐条件名	— [遷移先一覧] で選択した遷移先の条件名が表示されます。
	デフォルト遷移先名	○ 次のどれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 業務ステップ定義</li><li>• 分業ノード定義</li><li>• 分岐ノード定義</li><li>• 待合ノード定義</li><li>• 先着ノード定義</li><li>• 階層定義</li></ul>

(凡例)

○：必須

—：該当しません

## (3) 待合ノード定義の設定項目

待合ノードを定義するときに [制御ノードプロパティ] ダイアログで設定する項目、設定の要否、および設定値を次の表に示します。

表 B-7 待合ノード定義の設定項目一覧

項目	要否	設定値
定義名	○	待合ノードの定義名を入力します。 定義名は、テーブル「CONTROLNODE_DEF」の Name カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 64 バイトです。

(凡例)

○：必須

#### (4) 先着ノード定義の設定項目

先着ノードを定義するときに [制御ノードプロパティ] ダイアログで設定する項目、設定の要否、および設定値を次の表に示します。

表 B-8 先着ノード定義の設定項目一覧

項目	要否	設定値
定義名	○	先着ノードの定義名を入力します。 定義名は、テーブル「CONTROLNODE_DEF」の Name カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 64 バイトです。
後続停止		「あり」または「なし」のどちらかを選択します。 省略した場合、後続停止は「なし」になります。

(凡例)

○：必須

空欄：任意

### 付録 B.6 遷移定義の設定項目

遷移を定義するときに設定する項目、設定の要否、および設定値を次の表に示します。

表 B-9 遷移定義の設定項目一覧

項目	要否	設定値
遷移元	○	次のどれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ソースノード※</li> <li>• 業務ステップ定義</li> <li>• 分業ノード定義</li> <li>• 分岐ノード定義</li> <li>• 待合ノード定義</li> <li>• 先着ノード定義</li> </ul>

項目	要否	設定値
遷移元	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>階層定義</li> </ul>
遷移先	○	次のどれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>シンクノード※</li> <li>業務ステップ定義</li> <li>分業ノード定義</li> <li>分岐ノード定義</li> <li>待合ノード定義</li> <li>先着ノード定義</li> <li>階層定義</li> </ul>

(凡例)

○：必須

注※

遷移元にソースノード，遷移先にシンクノードの組み合わせは定義できません。

## 付録 B.7 条件定義の設定項目

条件定義を定義するときに [条件プロパティ] ダイアログで設定する項目，設定の要否，および設定値を次の表に示します。

表 B-10 条件定義の設定項目一覧

項目	要否	設定値
定義名	○	条件の定義名を入力します。 定義名は，テーブル「CONDITION_DEF」の Name カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 64 バイトです。
条件種別	○	条件種別を選択します。条件種別によって表示される画面が異なります。 選択できる条件種別は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>RDB 検索</li> <li>Java</li> </ul>

(凡例)

○：必須

### (1) RDB 検索の設定項目

条件定義（RDB 検索）を定義するときに [条件プロパティ] ダイアログ（RDB 検索）で設定する項目，設定の要否，および設定値を次の表に示します。

表 B-11 条件定義 (RDB 検索) の設定項目一覧

項目	要否	設定値
SQL 文	○	SQL 文を入力します。 SQL 文は、テーブル「CONDITION_SQL_DEF」の Content カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 2,000 バイトです。
True/False の結果を反対にする		「する」または「しない」のどちらかを選択します。 省略した場合、「しない」になります。
説明		必要に応じて条件定義 (RDB 検索) に関する説明を入力します。 説明は、テーブル「CONDITION_DEF」の Description カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 250 バイトです。 省略した場合、説明なし (空欄) になります。

(凡例)

○：必須

空欄：任意

## (2) Java オブジェクト呼び出しの設定項目

条件定義 (Java) を定義するときに [条件プロパティ] ダイアログ (Java) で設定する項目、設定の要否、および設定値を次の表に示します。

表 B-12 条件定義 (Java) の設定項目一覧

項目	要否	設定値
Java クラス名	○	Java クラス名を入力します。 Java クラス名は、テーブル「CONDITION_JAVA_DEF」の ClassName カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 255 バイトです。 入力できる文字は Java 識別子として使用できる文字です。
補助定数パラメタ		補助定数パラメタを入力します。 補助定数パラメタは、テーブル「CONDITION_JAVA_DEF」の ExParameter カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 2,000 バイトです。
説明		必要に応じて条件定義 (Java) に関する説明を入力します。 説明は、テーブル「CONDITION_DEF」の Description カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 250 バイトです。 省略した場合、説明なし (空欄) になります。

(凡例)

○：必須

空欄：任意



## 付録 B.8 生成ルール定義の設定項目

生成ルール定義を定義するときに [生成ルールプロパティ] ダイアログで設定する項目、設定の要否、および設定値を次の表に示します。

表 B-13 生成ルール定義の設定項目一覧

項目	要否	設定値
定義名	○	生成ルールの定義名を入力します。 定義名は、テーブル「CREATIONRULE_DEF」の Name カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 64 バイトです。
生成ルール種別	○	生成ルール種別を選択します。生成ルール種別によって表示される画面が異なります。選択できる生成ルール種別は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• RDB 検索</li><li>• Java</li></ul>

(凡例)

○：必須

### (1) RDB 検索の設定項目

生成ルール定義 (RDB 検索) を定義するときに [生成ルールプロパティ] ダイアログ (RDB 検索) で設定する項目、設定の要否、および設定値を次の表に示します。

表 B-14 生成ルール定義 (RDB 検索) の設定項目一覧

項目	要否	設定値
SQL 文	○	SQL 文を入力します。 SQL 文は、テーブル「CREATIONRULE_SQL_DEF」の Content カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 2,000 バイトです。
説明		必要に応じて生成ルール定義 (RDB 検索) に関する説明を入力します。 説明は、テーブル「CREATIONRULE_DEF」の Description カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 250 バイトです。 省略した場合、説明なし (空欄) になります。

(凡例)

○：必須

空欄：任意

### (2) Java オブジェクト呼び出しの設定項目

生成ルール定義 (Java) を定義するときに [生成ルールプロパティ] ダイアログ (Java) で設定する項目、設定の要否、および設定値を次の表に示します。

表 B-15 生成ルール定義 (Java) の設定項目一覧

項目	要否	設定値
Java クラス名	○	Java クラス名を入力します。 Java クラス名は、テーブル「CREATIONRULE_JAVA_DEF」の ClassName カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 255 バイトです。 入力できる文字は Java 識別子として使用できる文字です。
補助定数パラメタ		補助定数パラメタを入力します。 補助定数パラメタは、テーブル「CREATIONRULE_JAVA_DEF」の ExParameter カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 2,000 バイトです。
説明		必要に応じて生成ルール定義 (Java) に関する説明を入力します。 説明は、テーブル「CREATIONRULE_DEF」の Description カラムのデー タ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 250 バイトです。 省略した場合、説明なし (空欄) になります。

(凡例)

○：必須

空欄：任意

## 付録 B.9 時間取得ルール定義 (相対時間) の設定項目

時間取得ルール定義 (相対時間) を定義するときに [時間取得ルールプロパティ] ダイアログで設定する項目、設定の要否、および設定値を次の表に示します。

表 B-16 時間取得ルール定義 (相対時間) の設定項目一覧

項目	要否	設定値
定義名	○	時間取得ルールの定義名を入力します。 定義名は、テーブル「TIMERULE_DEF」の Name カラムのデータ型および 長さに従います。 デフォルトの長さは 64 バイトです。
相対日数	○	0~9999 の範囲で設定します。
説明		必要に応じて時間取得ルールに関する説明を入力します。 説明は、テーブル「TIMERULE_DEF」の Description カラムのデータ型およ び長さに従います。 デフォルトの長さは 250 バイトです。 省略した場合、説明なし (空欄) になります。

(凡例)

○：必須

空欄：任意

## 付録 B.10 作業アプリケーション定義の設定項目

作業アプリケーション定義を定義するときに [作業アプリケーション定義プロパティ] ダイアログで設定する項目、設定の要否、および設定値を次の表に示します。

表 B-17 作業アプリケーション定義の設定項目一覧

項目	要否	設定値
定義名	○	作業アプリケーション定義の定義名を入力します。 定義名は、テーブル「APPLICATION_DEF」の Name カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 64 バイトです。
作業アプリケーション定義種別	○	作業アプリケーション定義種別を選択します。 選択できる作業アプリケーション定義種別は「Java」または「REST」です。
Java クラス名	○	Java クラス名を入力します。 作業アプリケーション定義種別で「Java」を選択したときに設定できます。 Java クラス名は、テーブル「APPLICATION_JAVA_DEF」の ClassName カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 255 バイトです。 入力できる文字は Java 識別子として使用できる文字です。
補助定数パラメタ		補助定数パラメタを入力します。 作業アプリケーション定義種別で「Java」を選択したときに設定できます。 補助定数パラメタは、テーブル「APPLICATION_DEF」の ApplicationParam カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 2,000 バイトです。
ref 識別子	○	ref 識別子を入力します。 作業アプリケーション定義種別で「REST」を選択したときに設定できます。 ref 識別子は、テーブル「APPLICATION_LOCK_INFO」の LockName カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 25 バイトです。 入力できる文字は半角英数字およびアンダースコア ( _ ) です。
説明		必要に応じて作業アプリケーション定義に関する説明を入力します。 説明は、テーブル「APPLICATION_DEF」の Description カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 250 バイトです。 省略した場合、説明なし (空欄) になります。

(凡例)

○：必須

空欄：任意

## 付録 B.11 階層定義の設定項目

階層を定義するときに [階層定義プロパティ] ダイアログで設定する項目、設定の可否、および設定値を次の表に示します。

表 B-18 階層定義の設定項目一覧

項目	可否	設定値
階層名	<input type="radio"/>	階層の定義名を入力します。 定義名は、テーブル「HIERARCHY_DEF」の Name カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 64 バイトです。

(凡例)

: 必須

## 付録 B.12 振り分けルール定義の設定項目

振り分けルール定義を定義するときに設定する項目、設定の可否、および設定値を次の表に示します。

表 B-19 振り分けルール定義の設定項目一覧

項目	可否	設定値
振り分けルール種別	<input type="radio"/>	振り分けルール種別を選択します。振り分けルール種別によって表示される画面が異なります。選択できる振り分けルール種別は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• RDB 検索</li><li>• Java</li></ul>

(凡例)

: 必須

### (1) RDB 検索の設定項目

振り分けルール定義 (RDB 検索) を定義するときに設定する項目、設定の可否、および設定値を次の表に示します。

表 B-20 振り分けルール定義 (RDB 検索) の設定項目一覧

項目	可否	設定値
振り分けルール名	<input type="radio"/>	振り分けルール定義 (RDB 検索) の定義名を入力します。 定義名は、テーブル「CASTINGRULE_DEF」の Name カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 64 バイトです。
バージョン	<input type="radio"/>	0~9999 の範囲で設定します。

項目	要否	設定値
作成者	×	定義登録者の ID が設定されます。 作成者は、テーブル「CASTINGRULE_DEF」テーブルの Author カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 32 バイトです。
状態		「活性」または「非活性」のどちらかを選択します。 省略した場合、「非活性」になります。
管理者		管理者を入力します。 管理者は、テーブル「CASTINGRULE_DEF」の Responsible カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 32 バイトです。 省略した場合、作成者と同じ値が登録時に設定されます。
有効期間		1970/01/03～9999/12/30 の範囲で設定します。 省略時は、開始日には無限遠の過去 (ORIGIN)、終了日には無限遠の未来 (BEYOND) を設定します。 開始日と終了日の両方を省略した場合、常に有効な状態になります。
説明		必要に応じて振り分けルール定義 (RDB 検索) に関する説明を入力します。 説明は、テーブル「CASTINGRULE_DEF」の Description カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 250 バイトです。 省略した場合、説明なし (空欄) になります。
SQL 文	○	SQL 文を入力します。 SQL 文は、テーブル「CASTINGRULE_SQL_DEF」の Content カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 2,000 バイトです。

(凡例)

○：必須

×：不可

空欄：任意

## (2) Java オブジェクト呼び出しの設定項目

振り分けルール定義 (Java) を定義するときに設定する項目、設定の要否、および設定値を次の表に示します。

表 B-21 振り分けルール定義 (Java) の設定項目一覧

項目	要否	設定値
振り分けルール名	○	振り分けルール定義 (Java) の定義名を入力します。 定義名は、テーブル「CASTINGRULE_DEF」の Name カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 64 バイトです。

項目	要否	設定値
バージョン	○	0~9999 の範囲で設定します。
作成者	×	定義登録者の ID が設定されます。 作成者は、テーブル「CASTINGRULE_DEF」テーブルの Author カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 32 バイトです。
状態		「活性」または「非活性」のどちらかを選択します。 省略した場合、「非活性」になります。
管理者		管理者を入力します。 管理者は、テーブル「CASTINGRULE_DEF」の Responsible カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 32 バイトです。 省略した場合、作成者と同じ値が登録時に設定されます。
有効期間		1970/01/03~9999/12/30 の範囲で設定します。 省略時は、開始日には無限遠の過去 (ORIGIN)、終了日には無限遠の未来 (BEYOND) を設定します。 開始日と終了日の両方を省略した場合、常に有効な状態になります。
説明		必要に応じて振り分けルール定義 (Java) に関する説明を入力します。 説明は、テーブル「CASTINGRULE_DEF」の Description カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 250 バイトです。 省略した場合、説明なし (空欄) になります。
Java クラス名	○	Java クラス名を入力します。 Java クラス名は、テーブル「CASTINGRULE_JAVA_DEF」の ClassName カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 255 バイトです。 入力できる文字は Java 識別子として使用できる文字です。
補助定数パラメタ		補助定数パラメタを入力します。 補助定数パラメタは、テーブル「CASTINGRULE_JAVA_DEF」の ExParameter カラムのデータ型および長さに従います。 デフォルトの長さは 2,000 バイトです。

(凡例)

- ：必須
- ×
- 空欄：任意

## 付録 C WorkCoordinator Definer で作成した定義の利用

ビジネスプロセス定義および振り分けルール定義は、CSCIW-Definer で作成するため、通常の運用では WorkCoordinator Definer で作成した定義を利用することはありません。

WorkCoordinator Definer で作成した定義を利用する必要がある場合は、その定義がローカルファイルシステム上に保存してある場合に限って利用できます。

利用できる WorkCoordinator Definer の機能、および利用方法を次に示します。

### 付録 C.1 利用できる WorkCoordinator Definer の機能

WorkCoordinator Definer でサポートしているビジネスプロセス定義および振り分けルール定義の機能のうち、CSCIW-Definer で読み込んで利用できるのは CSCIW でサポートしている機能だけです。CSCIW でサポートしていない項目が定義されている場合は、読み込み時に CSCIW-Definer が対象の項目を削除します。削除された項目については、メッセージに出力されます。

WorkCoordinator Definer でサポートしているビジネスプロセス定義および振り分けルール定義の機能のうち、CSCIW で利用できる機能を次の表に示します。

表 C-1 CSCIW で利用できる WorkCoordinator Definer の機能（ビジネスプロセス定義の場合）

機能		利用可否
ソースノード		○
シンクノード		○
業務ステップ	事前生成	○
	完了条件	○
	処理期限	○
	説明	○
作業	作業アプリケーション	×
	振り分けルール	○
	発生条件	○
	完了条件	○
	条件再評価	○
	説明	○
組み込み作業	並列業務ステップ	×

機能				利用可否	
組み込み作業	並列作業			○	
	計時作業			×	
	先手通知作業			×	
制御ノード	分岐			○	
	分業			○	
	先着（後続停止あり）			○	
	先着（後続停止なし）			○	
	待合			○	
アロー				○	
条件	論理データモデル	論理データ項目		×	
	物理データモデル	RDB 検索		○	
		分散オブジェクト		×	
		プロセスデータ		×	
ルール	生成ルール	論理データモデル	論理データ項目	×	
		物理データモデル	RDB 検索	○	
			分散オブジェクト	×	
			プロセスデータ	×	
	時間取得ルール	論理データモデル	論理データ項目		×
			物理データモデル		×
		物理データモデル	RDB 検索	×	
			分散オブジェクト	×	
			プロセスデータ	×	
			相対時刻	○	
作業アプリケーション情報				×	
論理データ項目				×	
プロセスデータ				×	
階層				○	
ビジネスプロセスのプロパティ	バージョン			○	
	処理期限ルール			○	
	アドホック要求を使用する			×	
	状態			○	



機能		利用可否
ビジネスプロセスのプロパティ	管理者	○
	案件投入可能期間	○
	説明	○

(凡例)

- ：利用できます。
- ×：利用できません。

表 C-2 CSCIW で利用できる WorkCoordinator Definer の機能（振り分けルール定義の場合）

機能		利用可否
振り分けルール	RDB 検索	○
	分散オブジェクト	×
振り分けルールのプロパティ	バージョン	○
	管理者	○
	有効期間	○
	説明	○

(凡例)

- ：利用できます。
- ×：利用できません。

## 付録 C.2 WorkCoordinator Definer で作成した定義の利用方法

WorkCoordinator Definer で作成した定義を、CSCIW-Definer で利用する方法を次に示します。

1. 「ファイル」メニューの「ファイルを開く」メニューをクリックする  
ダイアログが表示されます。
2. ローカルファイルシステム上に保存されている定義ファイルを選択する  
選択した定義がビジネスプロセス遷移エディタまたは振り分けルール定義エディタに表示されます。
3. 必要に応じて定義を編集する
4. 「ファイル」メニューの「別名保管」メニューをクリックする  
定義を別名で保存します。

## メモ

1. WorkCoordinator Definer で作成した定義ファイルを CSCIW-Definer 開くとき、並列作業定義の子作業定義が定義されていないと、警告メッセージが出力されますが、CSCIW-Definer が子作業定義を自動生成します。
2. WorkCoordinator Definer で作成した定義ファイルを CSCIW-Definer 開くとき、オブジェクトの削除ではなく削除しただけの業務ステップ定義を含んでいると、該当業務ステップはビジネスプロセス遷移エディタの左上に表示されます。

## 付録 D CSCIW-Definer のバージョンアップ

---

CSCIW-Definer のバージョンアップについて説明します。

### 付録 D.1 CSCIW-Definer をバージョンアップする

CSCIW-Definer をバージョンアップする手順を次に示します。

#### 1. プログラムをアンインストールする

uCosminexus Business Process Developer をアンインストールします。

アンインストールについては、「[4.5 プログラムのアンインストール](#)」を参照してください。

02-30 以前からバージョンアップする場合、uCosminexus Interactive Workflow Development Plug-in をアンインストールしてください。

#### 2. プログラムをインストールする

プログラムのインストールについては、「[4.2 プログラムのインストール](#)」を参照してください。

#### 3. CSCIW-Definer の環境を設定する

CSCIW-Definer の環境設定については、「[4.3 CSCIW-Definer の環境設定](#)」を参照してください。

### 付録 D.2 バージョンアップ時の注意事項

CSCIW-Definer をバージョンアップする際の注意事項について説明します。

#### (1) 02-30 より前のバージョンから 02-30 以降にバージョンアップする場合の注意事項

CSCIW-Definer を 02-30 より前のバージョンから 02-30 以降にバージョンアップする場合は、CSCIWManagementServer に接続するためのポート番号を、HTTP 通信の受付ポート番号に変更する必要があります。

Eclipse を起動したあとに、次の手順を実施してください。

##### 1. メニューから [ウィンドウ] - [設定] を選択する

[設定] ダイアログが表示されます。

##### 2. [設定] ダイアログのツリービュー (左ペイン) から [CSCIW-Definer] - [接続先] を選択する

右ペインに CSCIW-Definer の接続先設定ページが表示されます。

##### 3. CSCIW-Definer の接続先設定を変更する

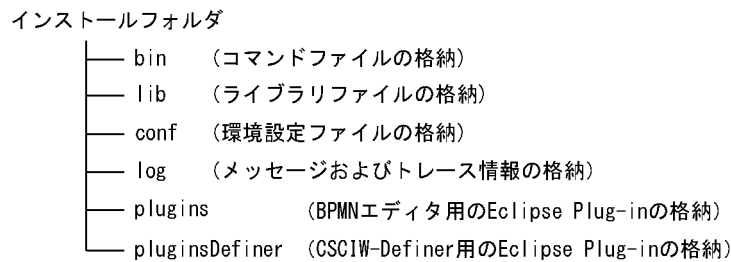
設定済みの接続先がある場合は接続先設定を削除し、CSCIWManagementServer が属するアプリケーションサーバのホスト名（または IP アドレス）と HTTP 通信の受付ポート番号を指定して、接続先を追加してください。

## 付録 E インストールフォルダ

---

uCosminexus Business Process Developer をインストールしたときのフォルダ構成を次の図に示します。

図 E-1 インストール時に作成するフォルダ



### ●bin

uCosminexus Business Process Developer の各機能の実行形式ファイル、およびコマンドの実行形式ファイルが格納されています。

### ●lib

CSCIW-Definer として使用するライブラリが格納されています。

### ●conf

環境構築時に作成されるプロパティファイルの情報などが格納されています。

### ●log

CSCIW-Definer を使用しているときに出力したメッセージやトレース情報を記録したファイルが格納されています。

### ●plugins

BPMN エディタ用の Eclipse Plug-in が格納されています。

### ●pluginsDefiner

CSCIW-Definer 用の Eclipse Plug-in が格納されています。

## 付録 F 各バージョンの変更内容

---

### 付録 F.1 03-00 での変更内容

- Cosminexus V11 に対応しました。
- CSCIW-Definer の動作環境として使用するプログラムを「uCosminexus Business Process Developer」に変更しました。  
また、プログラムの変更に伴い「CIW プラグイン」に関する説明を、削除または変更しました。
- ビジネスプロセス管理プロパティファイルの次のキーのデフォルト値を変更しました。
  - TraceFileNum
  - TraceFileSize
- CSCIW-Definer のバージョンアップの手順を追加しました。

### 付録 F.2 02-30 での変更内容

- CSCIWManagementServer の構築環境を「Cosminexus」から「アプリケーションサーバ」に変更しました。
- REST アプリケーション呼び出しを追加しました。
- eclipse.ini の編集方法についての説明を変更しました。
- CSCIW-Definer の環境設定で、[接続先] ページの説明を変更しました。また、「J2EE サーバ」を削除しました。
- EJB クライアント用ユーザプロパティファイルを削除しました。
- クラス名設定プロパティファイルのエンコーディングについての説明を変更しました。

### 付録 F.3 02-00 での変更内容

- BPMN 連携機能を追加しました。
- ワーク管理システム的前提となる uCosminexus 開発環境のプログラムを uCosminexus Developer だけに変更しました。
- eclipse.ini のバックアップの作成についての説明を追加しました。
- アドホック API を追加しました。

## 付録 F.4 01-95 での変更内容

- ビジネスプロセス遷移エディタのパレットを変更しました。
- Cosminexus V9.5 の開発環境を追加しました。
- CIW プラグインのインストール先のフォルダについて説明を追加しました。
- CSCIW-Definer の環境設定 (Cosminexus V9.5 使用時) を追加しました。
- CSCIW-Definer の削除 (Cosminexus V9.5 使用時) を追加しました。
- CSCIW-Definer を削除するときの注意事項を追加しました。
- Eclipse4.2 に関するプロパティビューについての注意事項を追加しました。
- 前バージョン (01-70) の変更内容を付録に移動しました。
- Cosminexus V9.5 のマニュアル体系に合わせて参照先のマニュアル名を追加しました。

## 付録 F.5 01-90 での変更内容

- Cosminexus V9.0 の開発環境を追加しました。
- MyEclipse の設定について注意事項を追加しました。
- CSCIW-Definer の環境設定 (Cosminexus V9.0 使用時) を追加しました。
- Eclipse への組み込みについての説明を追加しました。
- CSCIW-Definer の削除 (Cosminexus V9.0 使用時) を追加しました。
- 表 A-1 に次に示すキーの説明を追加しました。
  - LogRotationMode
  - RotationTime

## 付録 F.6 01-70 での変更内容

- ビジネスプロセス定義で作成および編集する定義一覧に遷移定義を追加しました。
- 条件定義に Java オブジェクト呼び出しを追加しました。
- 生成ルール定義に Java オブジェクト呼び出しを追加しました。
- 作業アプリケーション定義を追加しました。
- 一般作業定義に作業アプリケーションを追加しました。
- 制御ノード定義の分岐条件に次の項目を追加しました。
  - デフォルト遷移先
  - 遷移先

- 優先順位
- 条件
- 振り分けルール定義に Java オブジェクト呼び出しを追加しました。
- Cosminexus V8 に対応しました。
- 次のアイコンを追加しました。
  - 作業アプリケーション定義フォルダ
  - 条件定義 (Java)
  - 生成ルール定義 (Java)
  - 作業アプリケーション定義 (Java)
- [アウトライン] ビューに作業アプリケーション定義を追加しました。
- 環境設定ファイルにクラス名設定プロパティファイルを追加しました。



## 付録 G このマニュアルの参考情報

---

このマニュアルを読むに当たっての参考情報を示します。

### 付録 G.1 関連マニュアル

このマニュアルの関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

#### (1) CSCIW 関連

- uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow システム構築・運用ガイド (3020-3-M80)
- uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow AP 開発ガイド (3020-3-M81)
- uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow 案件運用操作ガイド (3020-3-M82)
- uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow メッセージ (3020-3-M83)
- uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow コマンド (3020-3-M84)

#### (2) Cosminexus 関連

- Cosminexus V11 アプリケーションサーバ システム構築・運用ガイド (3021-3-J02)
- Cosminexus V11 アプリケーションサーバ 機能解説 基本・開発編 (Web コンテナ) (3021-3-J05)
- Cosminexus V11 アプリケーションサーバ 機能解説 基本・開発編 (EJB コンテナ) (3021-3-J06)
- Cosminexus V11 アプリケーションサーバ 機能解説 基本・開発編 (コンテナ共通機能) (3021-3-J07)
- Cosminexus V11 アプリケーションサーバ 機能解説 拡張編 (3021-3-J08)
- Cosminexus V11 アプリケーションサーバ 機能解説 運用／監視／連携編 (3021-3-J10)
- Cosminexus V11 アプリケーションサーバ 機能解説 互換編 (3021-3-J12)
- Cosminexus V11 アプリケーションサーバ アプリケーション設定操作ガイド (3021-3-J13)
- Cosminexus V11 アプリケーションサーバ リファレンス コマンド編 (3021-3-J15)
- Cosminexus V11 アプリケーションサーバ リファレンス 定義編 (サーバ定義) (3021-3-J16)
- Cosminexus V11 アプリケーションサーバ リファレンス 定義編 (アプリケーション／リソース定義) (3021-3-J17)
- Cosminexus V11 アプリケーションサーバ アプリケーション開発ガイド (3021-3-J20)
- Cosminexus V11 アプリケーションサーバ メッセージ (構築／運用／開発用) (3021-3-J27)
- Cosminexus V11 BPM/ESB 基盤 サービスプラットフォーム システム構築・運用ガイド (3021-3-J45)

なお、このマニュアルでは、Cosminexus 関連のマニュアルについて、バージョン番号を省略して表記しています。

### (3) HiRDB 関連

- HiRDB Version 10 解説 (3020-6-551)
- HiRDB Version 10 システム導入・設計ガイド (UNIX(R)用) (3020-6-552)
- HiRDB Version 10 システム定義 (UNIX(R)用) (3020-6-554)
- HiRDB Version 10 システム運用ガイド (UNIX(R)用) (3020-6-556)
- HiRDB Version 10 コマンドリファレンス (UNIX(R)用) (3020-6-558)
- HiRDB Version 10 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用) (3020-6-553)
- HiRDB Version 10 システム定義 (Windows(R)用) (3020-6-555)
- HiRDB Version 10 システム運用ガイド (Windows(R)用) (3020-6-557)
- HiRDB Version 10 コマンドリファレンス (Windows(R)用) (3020-6-559)
- HiRDB Version 10 UAP 開発ガイド (3020-6-560)
- HiRDB Version 10 SQL リファレンス (3020-6-561)
- HiRDB Version 10 メッセージ (3020-6-562)

なお、このマニュアルでは、HiRDB 関連のマニュアルについて、バージョン番号を省略して表記しています。

## 付録 G.2 このマニュアルでの表記

このマニュアルで使用している表記と、対応する製品名を次に示します。

表記	製品名	
Cosminexus	uCosminexus Application Server	
CSCIW	uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow	
HiRDB	HiRDB Server Version 10	
ORACLE	Oracle 18c	Oracle(R) Database 18c
	Oracle 19c	Oracle(R) Database 19c
WorkCoordinator Definer	WorkCoordinator Definer Version 6	

## 付録 G.3 マイクロソフト製品の表記について

このマニュアルでは、マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

表記		製品名
Windows Server	Windows Server 2016	Microsoft Windows Server 2016 Standard 日本語版
		Microsoft Windows Server 2016 Datacenter 日本語版
	Windows Server 2019	Microsoft Windows Server 2019 Standard 日本語版
		Microsoft Windows Server 2019 Datacenter 日本語版
Windows	Windows 10	Windows 10 Pro 日本語版(64 ビット版)
		Windows 10 Enterprise 日本語版(64 ビット版)

Windows Server 2016, Windows Server 2019, および Windows 10 を特に区別する必要がない場合、**Windows** と表記しています。

## 付録 G.4 このマニュアルで使用している略語

このマニュアルで使用している英略語を次に示します。

英略語	英字での表記
BPMN	Business Process Modeling and Notation
EJB	Enterprise JavaBeans
J2EE	Java2 Platform, Enterprise Edition, および J2EE
JDK	Java Development Kit, および JDK
REST	Representational State Transfer

## 付録 G.5 KB (キロバイト) などの単位表記について

1KB (キロバイト), 1MB (メガバイト), 1GB (ギガバイト), 1TB (テラバイト) はそれぞれ  $1,024$  バイト,  $1,024^2$  バイト,  $1,024^3$  バイト,  $1,024^4$  バイトです。

## 付録 H 用語解説

---

CSCIW のマニュアルで使用する用語とその解説を次に示します。

### (英字)

#### CSCIW-Definer

ビジネスプロセスを定義、管理および運用するビジネスプロセス管理ツールのことです。CSCIW-Definer 用のプラグインを Eclipse に組み込むことでビジネスプロセス管理ツールとして使用できます。

#### CSCIWManagementServer

CSCIW の運用を支援する機能の一つです。

CSCIW-Definer では、ビジネスプロセスの登録、取得、属性変更、および削除をするときに接続します。また、CSCIW に対して実行した操作を監査ログとして出力します。

#### Eclipse

Eclipse Foundation が提供するオープンソースの統合開発環境です。Eclipse は、CSCIW-Definer の前提プログラムです。CSCIW-Definer 用のプラグインを Eclipse に組み込むことでビジネスプロセス管理ツールとして使用できます。

### (ア行)

#### アドホック API

フロー遷移定義の存在しない遷移や、フロー遷移定義と関係ない業務ステップの生成を実行する API です。アドホック API を使用する設定のビジネスプロセス定義だけで使用できます。

#### アロー

業務ステップおよびノード間の処理の流れを規定するためのものです。アローは、遷移元や遷移先となる業務ステップの情報を持ちます。

#### 案件

ビジネスプロセスの開始から終了までを一つの単位とする、業務の実例（ビジネスプロセスインスタンス）のことです。

#### 案件 ID

同一ビジネスプロセスの案件を識別するための識別子です。ワーク管理および CSCIW が付与します。

## 案件運用操作

CSCIW が提供する機能の一つです。

案件の運用状況を監視したり、必要に応じて案件、業務ステップ、および作業の状態を操作したりする J2EE アプリケーションです。

## 案件開始

案件の開始処理のことです。

## 案件名

同一ビジネスプロセスの案件を識別するための識別子です。ユーザが設定できます。案件キーともいいます。

## 一時停止

案件単位または業務ステップ単位で、作業の状態を一時的に停止することです。

# (力行)

## 開始日時

開始日時は、案件、業務ステップ、および作業の属性です。案件、業務ステップ、および作業が、「running (実行中)」状態へ遷移したときの日時を指します（作業の場合、「running (実行中)」状態に含まれる「performing (作業中実行)」状態、または「executing (自動実行)」状態に遷移したときの日時を指します）。

CSCIW の API を利用することで「running (実行中)」状態へ遷移できます。

## 環境設定ファイル

CSCIW-Definer を動作させるために必要な情報を設定するためのプロパティ形式のファイルのことです。CSCIW-Definer の環境設定ファイルは次の 2 種類です。

- ビジネスプロセス管理プロパティファイル
- クラス名設定プロパティファイル

## 完了条件

作業または業務ステップを「完了」状態にする条件です。作業または業務ステップの評価時（作業の発生時を含む）にこの条件を満足していた場合、作業または業務ステップを「完了」状態にします。

## キャンセル

案件の実行を取り消すことです。

## 業務ステップ

ビジネスプロセス定義の構成要素の一つです。業務ステップは、業務の状態を表し、ある状態での作業の集合として定義されます。

## 業務データ

業務ステップの完了条件や制御ノードの分岐条件として参照されるデータです。業務データは、ワーク管理データベースの外部の業務データベースで管理、運用する必要があります。

## 業務データベース

業務データが格納されているデータベースのことです。

## 業務プログラム

CSCIW で作業を実行するために利用するプログラムのことです。CSCIW は、業務プログラムを作成するのに有効なツールとしての API を提供しています。

## 組み込み作業

CSCIW の基本的な機能を組み合わせることで実現するような複雑な処理を一つの作業としてまとめたものです。CSCIW の組み込み作業には並列作業があります。

## コマンド

CSCIW が提供する機能の一つです。

CSCIW の環境構築や運用をするための機能で、シェルやコマンドプロンプトから実行します。

# (サ行)

## 作業

ビジネスプロセス定義の構成要素の一つです。作業は、ある業務ステップで実行する具体的な処理です。作業では、処理を実行する作業者の情報を振り分けルール名として持ちます。

## 作業一覧

作業の内容を一覧で表示したものです。

## 作業者

作業の処理を担当するユーザまたはユーザグループのことです。作業者は、ワーク管理データベースの外部の業務データベースで管理、運用する必要があります。

## 作業者データ

作業を処理するユーザに関するデータのことです。

## 作業データベース

作業者に関する情報を格納したデータベースのことです。

## 差し戻し

遷移元の実行中の業務ステップを強制終了して、すでに終了している遷移先の業務ステップを追加生成して実行中状態にすることです。差し戻し処理では、遷移元（差し戻し元）となる現在実行中の業務ステップが、動作を要求します。ユーザまたは業務プログラムは、すでに完了した業務ステップを検索して遷移先（差し戻し先）を決定します。

## システム共通環境情報

同一のシステム ID によって CSCIW を運用するシステムに共通に適用する情報です。マルチマシンを構成する複数の異なるマシンにも共通して適用されます。複数の異なるマシンに共通して適用するために、情報はワーク管理データベースに格納しています。

## 事前生成

業務ステップの生成方法の一つです。ビジネスプロセス定義で事前生成することを指定した業務ステップは、案件の開始要求を受け付けたときに生成されます。

## 終了日時

終了日時は、案件、業務ステップ、および作業の属性です。案件、業務ステップ、および作業が、「closed（終了）」状態へ遷移したときの日時を指します。CSCIW の API を利用することで「closed（終了）」状態へ遷移できます。

## 処理期限

案件に対して処理期限を日数単位で指定できます。

## シンクノード

案件の終了を意味します。推進された案件は、シンクノードに状態が遷移することで完了します。

## 制御ノード

ビジネスプロセス定義の構成要素の一つです。制御ノードは、案件の遷移を制御するノードです。制御ノードには、分岐ノード、分業ノード、先着ノード、および待合ノードがあります。

## 先着ノード

前の業務ステップとして複数の業務ステップが存在しており、どれか最初の業務ステップからの遷移時に次の業務ステップに遷移します。

## ソースノード

案件の開始を意味します。案件が開始されると、ソースノードから次の業務ステップまたは制御ノードに状態が遷移します。

## (タ行)

### データ条件

分岐ノードでの案件の流れを規定したり、業務ステップや作業の状態を制御したりするための条件のことです。

## (ハ行)

### 発生条件

作業を生成する条件です。業務ステップの評価時にこの条件を満足していた場合、作業を生成します。

### 発生日時

発生日時は作業の属性です。作業が、「ready (実行開始可能)」状態へ遷移したときの日時を指します。通常、作業の「ready (実行開始可能)」状態への遷移は、案件投入時、または前の業務ステップの完了時に自動的に実行されます。

### 引き戻し

遷移元の実行中の業務ステップを強制終了して、すでに終了している遷移先の業務ステップを追加生成して実行中状態にすることです。引き戻し処理では、遷移先（引き戻し先）となる、すでに完了した業務ステップが動作を要求します。ユーザまたは業務プログラムは、現在実行中の業務ステップを検索して遷移元（引き戻し元）を決定します。

### ビジネスプロセス

業務を実行するための作業の流れです。

### ビジネスプロセス管理

業務の流れをワーク管理システムで使用できるように、ビジネスプロセスを定義したり、それらの運用状態を管理したりすることです。CSCIW では、ビジネスプロセス管理に CSCIW-Definer を使用します。

### ビジネスプロセス管理ツール

業務の流れをワーク管理システムで使用できるように、ビジネスプロセスを定義したり、それらの運用状態を操作したりするツールです。

### ビジネスプロセス定義

業務の流れ（ビジネスプロセス）を CSCIW-Definer で定義したものです。



## 振り分けルール定義

作業の作業者を決定するためのルールです。ビジネスプロセス定義で各作業に指定した振り分けルール定義を適用することで、作業者を決定します。

## 分岐ノード

制御ノードの一つです。次の業務ステップとしてあらかじめ定義された複数の業務ステップから、条件に従って一つの業務ステップを選択し開始します。

## 分業ノード

制御ノードの一つです。次の業務ステップとして、あらかじめ定義された複数の業務ステップをすべて開始します。

## 並列作業

組み込み作業の一つで、並列作業をビジネスプロセスに定義しておくことで、案件の実行時に複数の作業が自動的に生成されます。生成される作業数は、案件の実行時に決まります。

## (マ行)

### 待合ノード

制御ノードの一つです。直前の業務ステップとしてあらかじめ定義された複数の業務ステップのうち、すべてが完了した時点で次の業務ステップを開始します。

## (ヤ行)

### ユーザ

ワーク管理の利用者のことです。

### ユーザグループ

ユーザが所属するグループのことです。ユーザの集合がユーザグループとなります。

### 優先度

案件、業務ステップ、および作業に設定できる優先度を示す整数値です。案件、業務ステップ、および作業の属性なので、検索の条件として利用できます。優先度の値を基に案件の流れは制御されません。入力指定範囲は、-2,147,483,648~2,147,483,647です。

## (ワ行)

### ワーク管理

CSCIW の中でビジネスプロセス定義に従い遷移を行うワークフローのエンジンのことです。

## ワーク管理システム

業務の進行を「完成に至るまでの業務の状態変化」としてとらえ、状態変化を統括的に管理することで業務の進行状況を管理する、ワークフロー型汎用アプリケーションの構築基盤です。

CSCIW で構築したワークフローシステムを指します。

## ワーク管理データベース

CSCIW が扱う情報を管理するデータベースです。

# 索引

## C

- Cosminexus の開発環境を利用するために必要なプログラム 78
- CSCIW 14, 15
- CSCIWManagementServer からログアウトする 93
- CSCIWManagementServer との通信でのプロキシの使用 31
- CSCIWManagementServer へログインする 93
- CSCIWManagementServer [用語解説] 204
- CSCIW-Definer 固有のアイコン 111
- CSCIW-Definer として使用するための設定 80
- CSCIW-Definer のウィザード 142
- CSCIW-Definer の運用機能 28
- CSCIW-Definer のエディタ 133
- CSCIW-Definer の開発機能 22
- CSCIW-Definer の環境設定 80
- CSCIW-Definer の機能 19
- CSCIW-Definer の機能の概要 20
- CSCIW-Definer のダイアログ 145
- CSCIW-Definer のデフォルト画面 98
- CSCIW-Definer の動作環境の設定 82
- CSCIW-Definer のバージョンアップ 195
- CSCIW-Definer のパースペクティブを開く 88
- CSCIW-Definer のビュー 115
- CSCIW-Definer のメニュー 99
- CSCIW-Definer ページ 104
- [CSCIW-Definer] メニュー 103
- CSCIW-Definer [用語解説] 204

## E

- eclipse.ini の編集 80
- Eclipse への組み込み 81
- Eclipse [用語解説] 204

## J

- Java タブ (振り分けルール定義エディタ) 141

## S

- SQL タブ (振り分けルール定義エディタ) 140
- SQL 文で条件を定義するときに考慮する内容 53
- SQL 文で生成ルールを定義するときに考慮する内容 53
- SQL 文を定義するときに考慮する内容 53

## U

- uCosminexus Business Process Developer のアンインストール 86
- uCosminexus Business Process Developer のインストール 78

## W

- WorkCoordinator Definer で作成した定義の利用 191
- WorkCoordinator Definer で作成した定義の利用方法 193

## X

- XML 文書の CDATA 節の終端文字列の扱い 95

## あ

- アイコンを貼り付ける 52
- [アウトライン] ビュー 118
- [アウトライン] ビューに表示される項目と表示内容 (階層定義) 120
- [アウトライン] ビューに表示される項目と表示内容 (作業アプリケーション定義) 121
- [アウトライン] ビューに表示される項目と表示内容 (時間取得ルール) 121
- [アウトライン] ビューに表示される項目と表示内容 (条件) 120
- [アウトライン] ビューに表示される項目と表示内容 (生成ルール) 121
- [アウトライン] ビューに表示される項目と表示内容 (ビジネスプロセス定義) 119
- アドホック API [用語解説] 204
- アロー [用語解説] 204
- アンインストール 85

案件 ID [用語解説] 204

案件運用操作 [用語解説] 205

案件開始 [用語解説] 205

案件名 [用語解説] 205

案件 [用語解説] 204

## い

一時停止 [用語解説] 205

一般作業定義の設定項目一覧 179

一般作業定義の表示内容 ([プロパティ] ビュー)  
126

[一般作業プロパティ] ダイアログ 151

印刷の対象と [印刷] メニューを選択したときの動作  
の関係 101

[印刷] メニュー 101

インストール 78

インストール時に作成するフォルダ 197

インストールフォルダ 197

## う

ウィザードの一覧 142

[ウィンドウ] メニュー 104

運用機能 20, 28

運用機能を使用するための準備 28

運用状態の確認 73

運用状態の操作 73

運用状態を確認する (ビジネスプロセス定義) 74

運用状態を確認する (振り分けルール定義) 73

## え

エディタの一覧 133

## か

改行文字の扱い 95

開始日時 [用語解説] 205

[階層定義アイコンの変更] ダイアログ 170

階層定義の設定項目一覧 188

階層定義の表示内容 ([プロパティ] ビュー) 131

[階層定義プロパティ] ダイアログ 167

開発機能 20, 22

[カレンダー] ダイアログ 171

環境設定 80

環境設定ファイル 174

環境設定ファイル [用語解説] 205

環境の構築 77

環境の削除 84

監査ログが出力される監査事象 30

監査ログの出力 30

完了条件 [用語解説] 205

## き

キャンセル [用語解説] 205

業務システムの開発の中で CSCIW-Definer を使用する  
作業 16

[業務ステップアイコンの変更] ダイアログ 170

業務ステップ定義の設定項目一覧 178

業務ステップ定義の表示内容 ([プロパティ]  
ビュー) 126

[業務ステッププロパティ] ダイアログ 149

業務ステップ [用語解説] 206

業務ステップを定義する 58

業務データベース [用語解説] 206

業務データ [用語解説] 206

業務プログラム [用語解説] 206

## <

組み込み作業 64

組み込み作業 [用語解説] 206

クラス名設定プロパティファイル (環境設定ファ  
イル) 176

## こ

更新の対象と [更新] メニューを選択したときの動作  
の関係 100

[更新] メニュー 100

項目を設定する 82

コマンド [用語解説] 206

[コンソール] ビュー 132

## さ

- [最近使ったファイル] リスト 102
- 作業アプリケーション定義 (Java) の表示内容 ([プロパティ] ビュー) 130
- 作業アプリケーション定義 (REST) の表示内容 ([プロパティ] ビュー) 131
- 作業アプリケーション定義の設定項目一覧 187
- [作業アプリケーション定義プロパティ] ダイアログ 165
- 作業一覧 [用語解説] 206
- 作業データベース [用語解説] 207
- 作業データ [用語解説] 206
- 作業 [用語解説] 206
- 作業を定義する 58
- 削除できる内容 29
- 差し戻し [用語解説] 207

## し

- 時間取得ルール定義 (相対時間) の設定項目一覧 186
- 時間取得ルール定義 (相対時間) の表示内容 ([プロパティ] ビュー) 130
- [時間取得ルールプロパティ] ダイアログ 164
- システム共通環境情報 [用語解説] 207
- 事前準備 (CSCIW-Definer) 88
- 事前準備 (アンインストール) 85
- 事前準備 (環境設定) 80
- 事前生成 [用語解説] 207
- 終了日時 [用語解説] 207
- 取得できる内容 29
- 条件定義 (Java) の設定項目一覧 184
- 条件定義 (Java) の表示内容 ([プロパティ] ビュー) 129
- 条件定義 (RDB 検索) の設定項目一覧 184
- 条件定義 (RDB 検索) の表示内容 ([プロパティ] ビュー) 129
- 条件定義の設定項目一覧 183
- [条件プロパティ] ダイアログ 159
- 条件を定義する 53
- 条件を定義するときに考慮する内容 53

- 処理期限 [用語解説] 207
- [新規] サブメニュー ([ファイル] メニュー) 99
- [新規ビジネスプロセス定義] ウィザード 142
- [新規振り分けルール定義] ウィザード 143
- シンクノード定義の表示内容 ([プロパティ] ビュー) 128
- シンクノード [用語解説] 207

## せ

- [制御ノードプロパティ] ダイアログ 154
- [制御ノードプロパティ] ダイアログ (先着ノードの場合) 156
- [制御ノードプロパティ] ダイアログ (分岐ノードの場合) 155
- [制御ノードプロパティ] ダイアログ (分業ノードの場合) 155
- [制御ノードプロパティ] ダイアログ (待合ノードの場合) 156
- 制御ノード [用語解説] 207
- 制御ノードを定義する 67
- 生成ルール定義 (Java) の設定項目一覧 186
- 生成ルール定義 (Java) の表示内容 ([プロパティ] ビュー) 130
- 生成ルール定義 (RDB 検索) の設定項目一覧 185
- 生成ルール定義 (RDB 検索) の表示内容 ([プロパティ] ビュー) 129
- 生成ルール定義の設定項目一覧 185
- [生成ルールプロパティ] ダイアログ 161
- 生成ルールを定義する 53
- 生成ルールを定義するときに考慮する内容 53
- [接続先設定] ダイアログ 107
- 接続先ページ 105
- 設定項目で入力できる文字 95
- [設定] サブメニュー ([ウィンドウ] メニュー) 104
- 設定ページで項目を設定する 82
- 遷移先の定義名に対応する定義種別の文字列 158
- 遷移図の表示エリアでできる操作 (ビジネスプロセス遷移エディタ) 134
- 遷移図を印刷する (CSCIW-Definer の基本操作) 92
- 遷移図を描画する 51

遷移図を描画するときの注意事項 137  
遷移線を描画する 52  
遷移定義の設定項目一覧 182  
遷移定義の表示内容（[プロパティ] ビュー） 128  
遷移定義を描画するときの制限事項 136  
先着ノード定義の設定項目一覧 182  
先着ノード定義の表示内容（[プロパティ] ビュー）  
127  
先着ノード [用語解説] 207  
前提プログラムのインストール 78

## そ

ソースノード定義の表示内容（[プロパティ] ビュー） 128  
ソースノード [用語解説] 207  
属性変更できる内容 29

## た

ダイアログの一覧 145

## ち

チェックする（ビジネスプロセス定義） 71  
チェックする（振り分けルール定義） 48

## つ

ツールバー 111  
ツールバーに表示できるアイコン 111

## て

定義する（振り分けルール定義） 46  
定義の印刷 27  
定義の削除 28  
定義の作成 22  
定義の取得 28  
定義の属性変更 28  
定義の属性を変更する（CSCIW-Definer の基本操作）  
94  
定義のチェック 25  
定義のチェック時にチェックする内容 25  
定義の登録 28

定義の編集 22  
定義の保存 27  
定義の読み込み 27  
定義を削除する（CSCIW-Definer の基本操作） 94  
定義を作成するときの注意事項 95  
定義を新規に作成する（CSCIW-Definer の基本操作）  
89  
定義をチェックする（CSCIW-Definer の基本操作）  
92  
定義を登録する（CSCIW-Definer の基本操作） 93  
定義を開く（CSCIW-Definer の基本操作） 91  
定義を保存する（CSCIW-Definer の基本操作） 90  
データ条件 [用語解説] 208  
デフォルトの画面構成で表示されるビューおよびエ  
ディタ 98

## と

動作環境の設定 82  
登録済みの定義を開く 91  
登録する（ビジネスプロセス定義） 72  
登録する（振り分けルール定義） 49  
登録定義一覧ツリー（[登録定義一覧] ビュー） 116  
[登録定義一覧] ビュー 115  
[登録定義一覧] ビューのローカル・ツールバーに表  
示されるアイコンの機能 116  
登録定義一覧ビューページ 108  
登録定義一覧ビューページ（ビジネスプロセス定義タ  
ブ） 108  
登録定義一覧ビューページ（振り分けルール定義タ  
ブ） 109  
登録できる内容 29

## な

[ナビゲーター] ビュー 117

## に

認証に必要な項目 28

## は

バージョンアップ時の注意事項 195



パースペクティブを開く 88  
発生条件〔用語解説〕 208  
発生日時〔用語解説〕 208  
パレットの項目でできる操作（ビジネスプロセス遷移エディタ） 135

## ひ

引き戻し〔用語解説〕 208  
ビジネスツリーの各項目でポップアップメニューを表示させたときの状態 122  
ビジネスプロセス管理ツール〔用語解説〕 208  
ビジネスプロセス管理の基本的な考え方 33  
ビジネスプロセス管理プロパティファイル（環境設定ファイル） 174  
ビジネスプロセス管理〔用語解説〕 208  
ビジネスプロセス遷移エディタ 133  
ビジネスプロセス遷移エディタの表示 51  
ビジネスプロセスツリー（[アウトライン] ビュー） 119  
ビジネスプロセス定義開発環境 77  
ビジネスプロセス定義開発環境の構築の流れ 77  
ビジネスプロセス定義開発環境の削除の流れ 84  
ビジネスプロセス定義で作成および編集する定義の一覧 22  
ビジネスプロセス定義の運用状態を確認する 74  
ビジネスプロセス定義の設定項目一覧 177  
ビジネスプロセス定義の定義 50  
ビジネスプロセス定義の表示内容（[プロパティ] ビュー） 125  
[ビジネスプロセス定義プロパティ] ダイアログ（定義用） 146  
[ビジネスプロセス定義プロパティ] ダイアログ（変更用） 148  
ビジネスプロセス定義〔用語解説〕 208  
ビジネスプロセス定義を作成する（新規） 89  
ビジネスプロセス定義をチェックする 71  
ビジネスプロセス定義を定義するときの操作の流れ 50  
ビジネスプロセス定義を登録する 72  
ビジネスプロセスに関する操作 89  
ビジネスプロセスの定義手順 43

ビジネスプロセス〔用語解説〕 208  
必要ファイルの退避 85  
ビューの一覧 115

## ふ

ファイルの開き方と「最近使ったファイル」リストへの追加の有無 102  
[ファイル] メニュー 99  
振り分けルール定義（Java）の設定項目一覧 189  
振り分けルール定義（Java）の表示内容（[プロパティ] ビュー） 132  
振り分けルール定義（RDB 検索）の設定項目一覧 188  
振り分けルール定義（RDB 検索）の表示内容（[プロパティ] ビュー） 131  
振り分けルール定義エディタ 137  
振り分けルール定義で SQL 文を定義するときを考慮する内容 45  
振り分けルール定義で作成および編集する定義の一覧 24  
振り分けルール定義の運用状態を確認する 73  
振り分けルール定義の設定項目一覧 188  
振り分けルール定義の定義 45  
[振り分けルール定義プロパティ] ダイアログ（変更用） 168  
振り分けルール定義〔用語解説〕 209  
振り分けルール定義を作成する（新規） 89  
振り分けルール定義をチェックする 48  
振り分けルール定義を定義する 46  
振り分けルール定義を定義するときの操作の流れ 45  
振り分けルール定義を定義するときの注意事項 45  
振り分けルール定義を登録する 49  
[振り分けルール名選択] ダイアログ 169  
プログラムのアンインストール 85  
プログラムのインストール 78  
プロジェクトの作成 88  
[プロパティ] ビュー 124  
[プロパティ] ビューに定義情報を表示するエディタの種類と表示される内容 124  
[プロパティ] ビューに定義情報を表示するビューと表示される内容 124

プロパティタブ (振り分けルール定義エディタ) 138  
[分岐条件の設定] ダイアログ 157  
分岐ノード定義の設定項目一覧 181  
分岐ノード定義の表示内容 ([プロパティ] ビュー)  
127  
分岐ノードの分岐条件を定義する 68  
分岐ノード [用語解説] 209  
分業ノード定義の設定項目一覧 180  
分業ノード定義の表示内容 ([プロパティ] ビュー)  
127  
分業ノード [用語解説] 209

## へ

並列作業 64  
並列作業定義の設定項目一覧 180  
並列作業定義の表示内容 ([プロパティ] ビュー)  
126  
[並列作業プロパティ] ダイアログ 152  
並列作業 [用語解説] 209  
[別名保管] メニュー 100  
[編集] メニュー 102  
[編集] メニューの活性の条件 102

## ほ

[保管] メニュー 100  
ポップアップメニュー ([アウトライン] ビュー) 122  
ポップアップメニュー ([登録定義一覧] ビュー) 116

## ま

待合ノード定義の設定項目一覧 182  
待合ノード定義の表示内容 127  
待合ノード [用語解説] 209

## め

名称の一意性 96  
メインメニューの構成 99

## ゆ

ユーザグループ [用語解説] 209  
ユーザ [用語解説] 209

優先度 [用語解説] 209

## よ

用語解説 204

## り

利用できる WorkCoordinator Definer の機能 (ビジネスプロセス定義の場合) 191  
利用できる WorkCoordinator Definer の機能 (振り分けルール定義の場合) 193

## れ

例題「販売業務」で使うデータベースの内容 36  
例題「販売業務」で定義するビジネスプロセス 34  
例題「販売業務」の業務データベースのテーブル間の関係 37  
例題「販売業務」の流れ 33

## ろ

ローカルファイル上の定義を開く 91  
ローカル・ツールバー ([登録定義一覧] ビュー) 116  
ログアウトする (CSCIW-Definer の基本操作) 93  
ログインする (CSCIW-Definer の基本操作) 93  
[ログイン] ダイアログ 145

## わ

ワーク管理システム 14  
ワーク管理システムの中での CSCIW-Definer の位置づけ 15  
ワーク管理システム [用語解説] 210  
ワーク管理データベース [用語解説] 210  
ワーク管理 [用語解説] 209  
ワークスペース内の定義を開く 91



---

 株式会社 日立製作所

〒100-8280 東京都千代田区丸の内一丁目6番6号

---